

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第653集

館岡Ⅱ遺跡発掘調査報告書

2016

（国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所  
（公財）岩手県文化振興事業団

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第653集

たておか  
館岡Ⅱ遺跡発掘調査報告書

一関遊水地事業関連遺跡発掘調査

2016

国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所  
（公財）岩手県文化振興事業団

# 館岡Ⅱ遺跡発掘調査報告書

一関遊水地事業関連遺跡発掘調査



## 序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史を生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターでは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によって止むを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、一関遊水地事業に関連して、平成26年度に発掘調査された館岡Ⅱ遺跡の内容をまとめたものです。今回の調査により、調査区が中世城館の一部であり16世紀後半頃に使われていたこと、16世紀末には廃絶した可能性が高いこと、再びこの地が利用されるのは18世紀になってからであることなどが明らかになりました。遺跡の内容を理解する上でとても大きな成果を得ることができたと言えます。館岡Ⅱ遺跡は隣接する館岡Ⅰ遺跡と同じ一つの城館を成し、この地域ではかなり大規模な中世城館であった可能性が高まりました。

本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所、平泉町教育委員会をはじめとする関係各位に深く感謝の意を表します。

平成28年1月

公益財団法人 岩手県文化振興事業団  
理事長 菅野洋樹

## 例 言

1. 本報告書は岩手県西磐井郡平泉町長島字館岡地内他に所在する館岡Ⅱ遺跡の発掘調査成果を収録したものである。
2. 本遺跡の調査は、一関遊水地事業に伴う緊急発掘調査である。調査は岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課と国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所との協議を経て、公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
3. 岩手県遺跡台帳に登録される各遺跡の遺跡番号と遺跡略号は次のとおりである。  
館岡Ⅱ遺跡：遺跡番号NE76-1279、遺跡略号 TOⅡ-14
4. 発掘調査の期間、調査面積、担当者は次のとおりである。  
野外調査：平成26年4月7日～5月19日、600㎡  
担当者：杉沢昭太郎・白戸このみ
5. 室内整理の期間・担当者は次のとおりである。  
平成26年8月1日～9月15日 整理担当：杉沢昭太郎  
平成27年3月1日～3月31日、整理担当：白戸このみ
6. 野外調査における基準点測量・写真撮影にあたっては次の機関に委託した。  
基準点測量：両磐測量設計  
空中写真撮影：東邦航空株式会社
7. 遺物の分析・鑑定にあたっては次の機関に委託した。  
年代測定：(株)加速器分析研究所
8. 発掘・整理・報告にあたっては次の方々に御指導・ご協力いただいた(順不同・敬称略)。  
国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所、平泉町教育委員会、岩手県教育委員会
9. 本報告書の執筆は、Ⅰ章の調査に至る経過は、国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所に原稿を依頼した。Ⅱ～Ⅳ・Ⅵ章は杉沢が執筆し白戸が図化した。報告書の編集・校正は杉沢が行った。
10. 本遺跡の調査成果は、先に、『現地公開資料』(平成26年)、『平成26年度発掘調査報告書』(岩文振第647集)に発表しているが、本書の内容が優先するものである。
11. 本遺跡の調査で得られた一切の資料は、岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

# 目 次

I	調査に至る経過	1
II	遺跡の立地と環境	
1	遺跡の位置	2
2	地形、地質	3
3	歴史的環境と周辺の遺跡	4
III	調査・整理の方法	6
IV	検出された遺構と出土遺物	
1	概要	15
2	基本層序	15
3	検出遺構	15
(1)	堀跡	15
(2)	竪穴建物跡	16
(3)	掘立柱建物跡	16
(4)	井戸跡・土坑	19
(5)	溝跡	19
(6)	柱穴	20
4	出土遺物	20
(1)	陶磁器	20
(2)	銭貨	20
(3)	その他	20
V	自然科学分析	
	館岡II遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）	45
VI	総括（調査のまとめ）	48
	報告書抄録	73

## 表 目 次

第1表	周辺の遺跡一覧表	5	第6表	銭貨観察表	43
第2表	堀跡・溝跡観察表	38	第7表	瓦観察表	44
第3表	井戸跡・土坑観察表	38	第8表	木製品観察表	44
第4表	柱穴観察表	39	第9表	金属製品観察表	44
第5表	陶磁器ほか観察表	42	第10表	石器類観察表	44

## 図 版 目 次

第1図	岩手県図	1	第17図	掘立柱建物跡3	25
第2図	平泉町の位置	1	第18図	土坑1	26
第3図	遺跡位置図	2	第19図	土坑2、井戸跡	27
第4図	遺跡周辺の地形地質分類図	3	第20図	溝跡1	28
第5図	周辺の遺跡分布図	4	第21図	溝跡2	29
第6図	地形図	9	第22図	溝跡3	30
第7図	遺跡地形図と調査区	10	第23図	出土遺物1	31
第8図	遺構配置図1	11	第24図	出土遺物2	32
第9図	遺構配置図2	12	第25図	出土遺物3	33
第10図	遺構配置図3	13	第26図	出土遺物4	34
第11図	遺構配置図4	14	第27図	出土遺物5	35
第12図	基本土層	15	第28図	出土遺物6	36
第13図	1号堀跡	21	第29図	出土遺物7	37
第14図	1号竪穴建物跡	22	第30図	西館趾説明略図	48
第15図	掘立柱建物跡1	23	第31図	館岡Ⅱ遺跡(西館)縄張図	50
第16図	掘立柱建物跡2	24			

## 写真図版目次

写真図版1	遺跡遠景(南から)	51	写真図版12	溝跡2	62
写真図版2	遺跡遠景	52	写真図版13	溝跡3	63
写真図版3	遺跡直上(上が北)	53	写真図版14	溝跡4、掘立柱建物跡	64
写真図版4	調査区現況	54	写真図版15	調査区全景1	65
写真図版5	1号堀跡1	55	写真図版16	調査区全景2、現地公開ほか	66
写真図版6	1号堀跡2	56	写真図版17	出土遺物1	67
写真図版7	1号竪穴建物跡	57	写真図版18	出土遺物2	68
写真図版8	土坑1	58	写真図版19	出土遺物3	69
写真図版9	土坑2	59	写真図版20	出土遺物4	70
写真図版10	土坑3	60	写真図版21	出土遺物5	71
写真図版11	土坑4、井戸跡、溝跡1	61	写真図版22	出土遺物6	72

# I 調査に至る経過

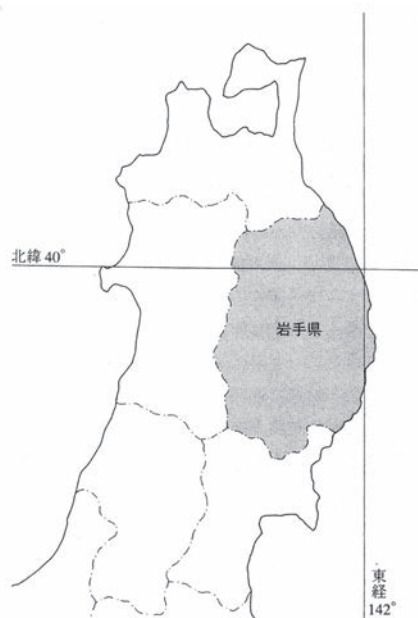
## 1 発掘調査に至る経過

館岡Ⅱ遺跡は、「一関遊水地事業の」一環として実施する第2遊水地管理用通路整備に伴い、その事業区域内に存在することから発掘調査を実施することとなったものである。一関地区は、その地理的特性から古来より水害に悩まされており、昭和22年、23年と連続で来襲した大洪水では、約600名もの死者行方不明者を出す未曾有の大災害に見舞われた。

このため、大洪水から市街地を防御するとともに、北上川沿いに広がる優良な農地を中小洪水から守ることを目的として、昭和47年に「一関遊水地事業」に着手した。

遊水地管理用通路は、平常時の河川巡視や堤防、水門などの河川管理施設の点検・維持作業のための通路として整備されるものであり、また、水害時には地域住民の緊急避難路としても利用される。管理用通路の整備は、平成2年に事業着手している。当事業の施工に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、岩手河川国道事務所から平成25年7月5日付け国東整岩三工第8号「一関遊水地事業第2管理用通路における埋蔵文化財の試掘調査について(依頼)」により、岩手県教育委員会に対して試掘調査の依頼を行った。依頼を受けた岩手県教育委員会は平成25年7月8日に試掘調査を実施し、工事に着手するには館岡Ⅱ遺跡の発掘調査が必要となる旨を平成25年7月25日付教生第650号「埋蔵文化財の試掘調査について(回答)」により当事務所へ回答してきた。その結果を踏まえて当事務所は、岩手県教育委員会と協議し、調整を受けて、平成26年4月1日付けで公益財団法人岩手県文化振興事業団との間で委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

(国土交通省 東北地方整備局 岩手河川国道事務所)



第1図 岩手県図



第2図 平泉町の位置



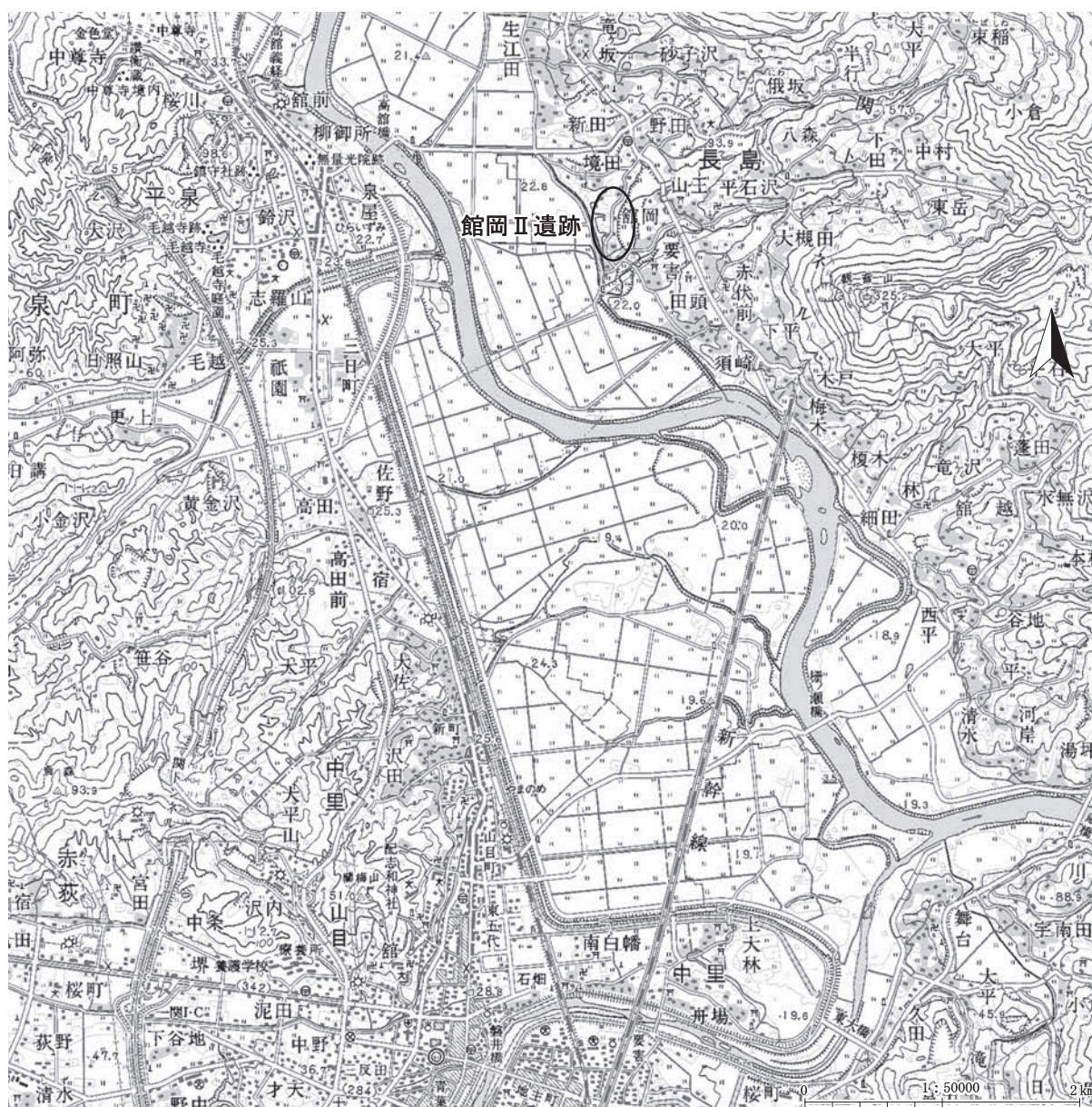
## II 遺跡の立地と環境

### 1 遺跡の位置

館岡II遺跡のある西磐井郡平泉町は岩手県内陸部の南側、北上盆地の南端近くに位置する。平泉町は北を奥州市、南を一関市に囲まれる本県では最も面積の小さな自治体である。

町内を北上川が南北に流れており、北上川東岸に長島地区、北上川西岸に平泉地区がある。

館岡II遺跡は北緯38度59分10秒、東経141度8分28秒周辺に位置しており標高は33~29mほどである。現況は畑地と住宅地になっている。遺跡周辺は館岡I遺跡、小島館跡が隣接し、中世城館が密にある場所である(第3図)。



第3図 遺跡位置図

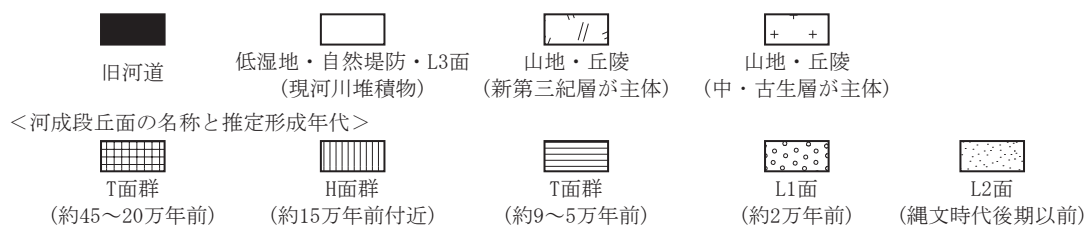
## 2 地形、地質

ここでは、調査した遺跡がある西磐井郡平泉町及びその周辺の地理的環境について述べる。

北上川水系の視点から見ると、平泉町は北上川中流域の南端に位置する。平泉町は北上川を挟んだ東西で地形が異なる。北上川の東側は、河岸低地とその東側の山や丘が連なる丘陵地帯から成り、それらの丘陵地帯は中・古生層に相当する北上山系である。河岸低地から丘陵地帯へ急激に標高が高くなるような地形になっている。また西側には奥羽山脈を水源としている太田川と衣川が東に流れ北上川に合流している。これらの河川に沿うように氾濫原と河岸段丘が形成されている。奥羽山系から尾根続きで延びる標高63～110mの山並が北上川近くまで張り出しており、この先端部が中尊寺のある関山や義経堂のある高館山、毛越寺のすぐ背面にある塔山になる。平泉の市街地はこの張り出した山並と北上川、太田川に囲まれた約1.5km四方の緩斜面地及び河岸段丘面にある(第4図)。



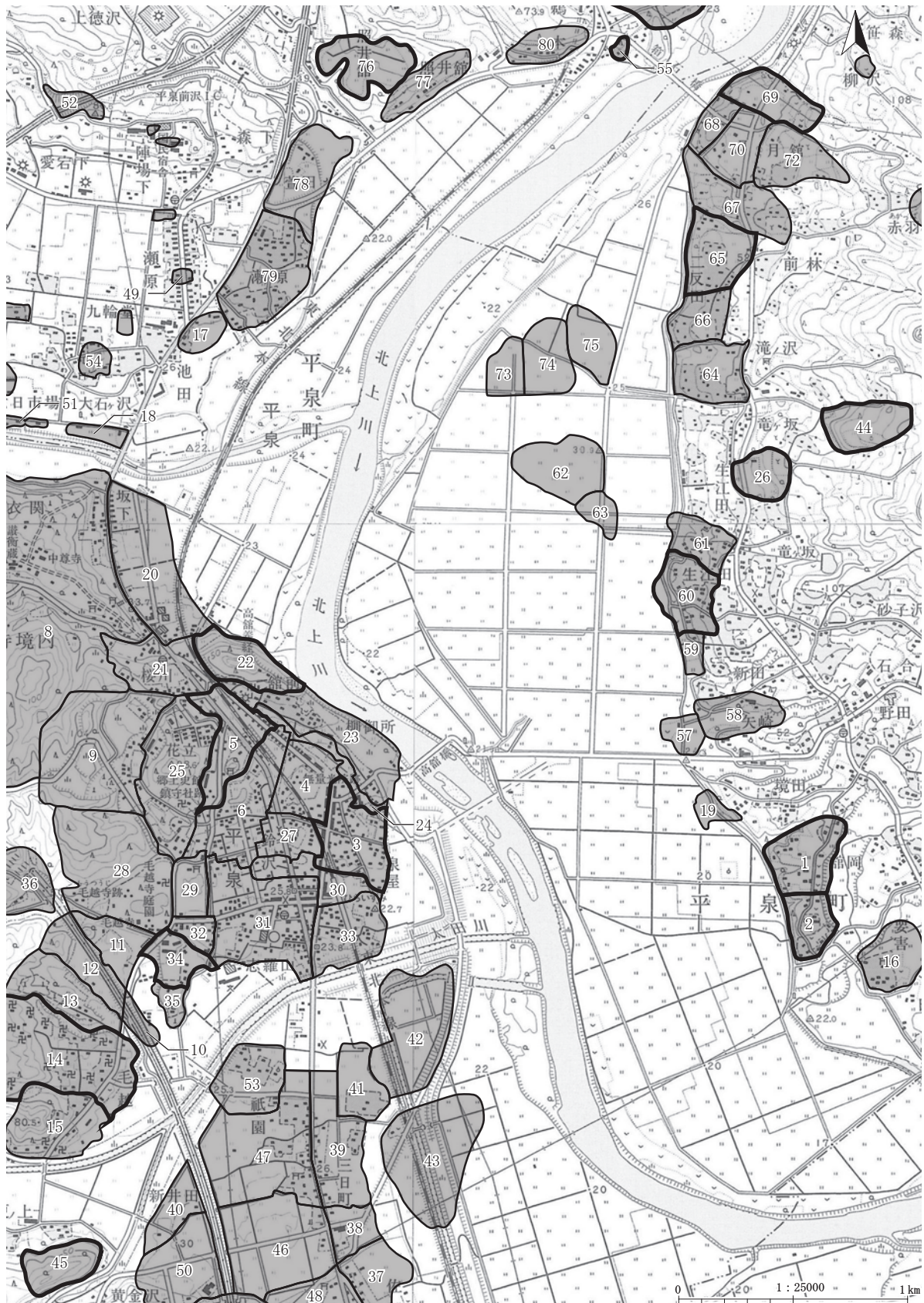
5万分の1地形図「水沢」一関に、地質図と野中氏の地形分類図を簡略化して編集



第4図 遺跡周辺の地形地質分類図

### 3 歴史的環境と周辺の遺跡

今回調査した館岡Ⅱ遺跡の周辺にある遺跡については第1表にまとめた。



第5図 周辺の遺跡分布図

第1表 周辺の遺跡一覧表

番号	遺跡名	種別	時代	所在地	番号	遺跡名	種別	時代	所在地
1	館岡Ⅰ	散布地	縄	長島字館岡	41	上野台Ⅰ	散布地	縄	平泉字上野台
2	館岡Ⅱ	散布地・城館跡	縄・中近	長島字館岡	42	上野台Ⅱ	散布地	平・中	平泉字上野台ほか
3	伽羅之御所	城館跡	平	平泉字伽羅楽	43	高玉	散布地	平	平泉字高玉
4	無量光院	社寺跡	平・近	平泉字花立	44	長部館(中館)	城館跡	中・近	長島字滝ノ沢
5	花立Ⅰ	社寺跡・城館跡	平	平泉字花立	45	鳥屋崎館	城館跡	中・近	平泉字小金沢
6	花立Ⅱ	社寺跡	平	平泉字花立	46	祇園Ⅰ	散布地	平	平泉字祇園
7	白鳥館	城館跡	縄・平・中	前沢区字白鳥館ほか	47	祇園Ⅱ	散布地・社寺跡	平	平泉字祇園
8	中尊寺	散布地・社寺跡・経塚	縄・平	平泉字衣関	48	佐野原	散布地	(奈)	平泉字佐野原
9	鈴懸の森	経塚	平	平泉字大沢	49	足軽屋敷	屋敷跡	近	衣川区瀬原西裏1ほか
10	毛越Ⅰ	社寺跡	平	平泉字毛越	50	片岡Ⅱ	散布地	縄	平泉字片岡
11	毛越Ⅱ	社寺跡	平	平泉字毛越	51	六日市場	市場跡・集落跡	中	衣川区六日市場43-2ほか
12	毛越Ⅲ	社寺跡	平	平泉字毛越	52	栢形森	鐘楼跡?		衣川区日向59-406
13	毛越Ⅳ	社寺跡	平	平泉字毛越	53	樋渡	散布地	平	平泉字樋渡
14	毛越Ⅴ	社寺跡・城館跡	平	平泉字毛越	54	池の辺坊屋敷	屋敷跡		衣川区池田西20-15
15	毛越Ⅵ	社寺跡	平	平泉字毛越	55	鶉ノ木	集落跡・城館跡	縄・平	前沢区字鶉ノ木
16	小島館(古館)	城館跡	縄・中近	長島字古館	56	柳沢	散布地	縄	前沢区生母字柳沢
17	池田	散布地	縄・古・近	衣川区池田42-4ほか	57	矢崎Ⅰ	散布地	平	長島字矢崎
18	押切	散布地	近?	衣川区大石ヶ沢	58	矢崎Ⅱ	散布地	縄	長島字矢崎
19	下構	散布地	近	長島字下構	59	新田	散布地	縄	長島字新田
20	坂下	散布地・社寺跡	平	平泉字坂下	60	佐藤屋敷	城館跡	平	長島字新田
21	衣関	社寺跡・屋敷跡	平	平泉字衣関	61	竜ヶ坂	散布地	縄・平	長島字竜ヶ坂
22	高館	城館跡	縄・平	平泉字柳御所	62	本町	散布地	平	長島字本町
23	柳之御所	城館跡	平	平泉字柳御所	63	畑中	散布地	平	長島字畑中
24	猫間ヶ淵	池跡	平	平泉字柳御所	64	滝の沢	散布地	縄	長島字滝ノ沢
25	金鶏山	経塚	平	平泉字花立	65	二反田Ⅰ(内館)	城館跡	中・近	長島字二反田
26	道綱館(西館)	城館跡	中・近	長島字竜ヶ坂	66	二反田Ⅱ	散布地	縄	長島字二反田
27	白山社	社寺跡	平	平泉字鈴沢	67	新山権現社	散布地	縄	長島字月館
28	毛越寺	社寺跡	縄・平・近	平泉字大沢	68	月館Ⅰ	散布地	縄・平・中	長島字月館
29	観自在王院	社寺跡	平	平泉字志羅山	69	月館Ⅱ(築館)	城館跡	中・近	長島字月館
30	鈴沢の池	池跡	平	平泉字鈴沢	70	月館Ⅲ	散布地	縄	長島字月館
31	志羅山	屋敷跡・瓦窯跡	平・中近	平泉字志羅山	71	南陣場	散布地	縄早・前	前沢区字南陣場
32	倉町	屋敷跡	平	平泉字倉町	72	東福寺Ⅰ	社寺跡	縄・平	長島字月館
33	泉屋	散布地	縄・平・中近	平泉字泉屋	73	里前Ⅰ	散布地	平	長島字里前
34	国衡館	城館跡	平・中	平泉字倉町	74	里前Ⅱ	散布地	平	長島字里前
35	隆衡館	屋敷跡	平	平泉字倉町	75	里	散布地	平	長島字里
36	大沢	散布地	縄	平泉字大沢	76	照井館	城館跡・散布地	縄前・平・中	前沢区字照井館
37	三日町Ⅰ	散布地	縄・平・中近	平泉字三日町	77	小沢口	散布地	縄・平	前沢区字小沢口・照井館
38	三日町Ⅱ	散布地	(奈)	平泉字三日町	78	瀬原Ⅰ	散布地	平	平泉字瀬原
39	三日町Ⅲ	散布地・社寺跡	平	平泉字三日町	79	瀬原Ⅱ	散布地	(奈)・平	平泉字瀬原
40	新井田	散布地	平	平泉字新井田	80	衣関	散布地	平	前沢区字衣関

### Ⅲ 調査・整理の方法

#### 野 外 調 査

##### 調査区の設定と遺構の命名

館岡Ⅱ遺跡は調査対象面積が600㎡とそれほど広くはなかったが、地形としては高い面と低い面に区分できた。そのため調査区の地区割にあたって、高い面を「平場1」低い面を「平場3」、両者の境界部分を「平場2」と地区割りをしている。平面直角座標第X系(世界測地系)に合わせた基準点・補点をもとにして、遺構実測や地形測量を行ったが、グリッド設定はしていない。設定した基準点・補点の座標は世界測地系であり、座標値は以下のとおりである。

基準点 1	X = -112557.573	Y = 26665.133	H = 28.947m
基準点 2	X = -112619.938	Y = 26622.135	H = 25.755m
区割付杭 1	X = -112551.855	Y = 26667.292	H = 28.793m
区割付杭 2	X = -112534.762	Y = 26654.881	H = 29.593m
区割付杭 3	X = -112524.966	Y = 26642.005	H = 30.620m
区割付杭 4	X = -112512.166	Y = 26645.234	H = 31.540m

この基準点と区割付杭を使用して調査区および検出遺構や出土遺物の記録をとった。遺構外出土遺物に関しては前述した平場1～3ごとに取り上げた。

##### 遺構の名称

検出された遺構の名称は、遺構の種類に応じて検出順にそれぞれ番号を付けて、1号土坑・2号土坑、1号井戸跡・2号井戸跡…のように命名した。精査の過程や終了後に検討した結果、遺構ではないと判断したものや、遺構の種類を変更した番号については、混乱を防止するために欠番とした。よって掲載の無い遺構名は遺構ではなかったものである。本調査では性格不明遺構に関してのみ遺構略号としてSXを使用した。柱穴はSP1～で登録した。

##### 試掘・粗掘と遺構検出

通常の発掘調査の中で行われるような試掘は行っていない。それは面積の小さい調査であったからである。今回の調査では試掘を兼ねた人力による粗掘りを行い、遺構検出面の状況、遺物包含層の有無などを確認した。その場所へすぐに重機を入れて表土掘削を開始した。その間に別の地点で人力による粗掘りを行い遺構検出面までの深さ、遺物出土状況を把握し、重機掘削に備えた。

重機による表土剥ぎが終わった場所では人力によって遺構検出を行った。可能な限り遺構外出土遺物を採取することに努め、遺構の検出は、所謂地山面を基本としながらも各土層でも適宜行った。

検出された遺構は、4分法、2分法といった基本通りに調査を行っている。堀跡や溝跡では1本ないしそれ以上の土層断面観察・実測用のベルトを設けて作業した。そして精査の各段階において必要な図面の作成や写真撮影を適宜行った。

遺構内出土の遺物は、埋土で可能な限り分層して取り上げ、底面出土や残存状態の良い遺物は写真

撮影・図面作成後に取り上げた。遺構外出土の遺物については、原則として調査区ごとに出土した層位を記して取り上げ、状態の良いものは写真撮影・図面作成を行った。

また、現場での記録作成では、上記の図面・写真以外に Field・Card を使用して、遺跡の調査経過や遺構の精査の進捗状況を記録している。

### 実測・写真撮影

電子平板を使用して平面実測を行った。各遺構の測点はかつての遣り方実測と同程度である。レベルは、基準高をもとに絶対高で記録される。断面実測については、任意の高さを基に設定した水系を基準として計測を行い、縮尺 1/20 の手書き実測図とした。

写真撮影は、中判カメラ 1 台(モノクローム)、1000 万画素以上のフルサイズ、デジタル一眼レフカメラ 1 台を使用して調査員が行った。撮影に際しては、整理時の混乱を避けるために撮影カードを使用した。実際の撮影は各種遺構の覆土堆積状況、掘り上げ状況、遺物の出土状況などについて行っている。調査終了段階でセスナ飛行機による航空写真撮影を行っている。

### 土層注記

断面図作成後に土層注記を行った。観察項目は、色調・土の種類・締まり・混入物などである。基本的には『新版標準土色帳』(1990年版、小山正忠・竹原秀雄編・著)を基準にして行っているが、締まりは、調査員の主観で判断した。個々の遺構の覆土堆積状況は、自然堆積か人為堆積かの判断と、埋没している土の起源を把握することを課題とした。層名は調査区内に見られる基本的な土層をローマ数字(I・II・III)、遺構内埋土をアラビア数字(1・2・3)で表した。層位の細分の必要が生じた場合は、小文字のアルファベットを付し、I a・I b・1 c…などと表わした。複数人で土層注記を行っているため表現方法が異なる部分も見られるが敢えて手直しすることはせず併記することとした。

### 普及活動・史跡整備

野外調査での成果は調査終盤に現地公開を実施して、一般の方々に遺跡の内容を説明した。また「平泉広報」にも調査の概要を掲載する機会を得た。

現地公開：平成26年 5 月17日

平泉広報：平成26年 5 月号

### 室内整理

本遺跡の室内整理期間は以下のとおりである。

平成26年 8 月 1 日～9 月15日。平成27年 3 月 1 日～3 月31日。

期間内で、出土遺物・実測図・写真などの整理を行った。野外調査で得られた遺物、実測図、写真などの各種資料は室内整理の段階で次のように処理し、整理を行い、報告書作成とともに資料化を行った。

#### 遺構に関わる記録

実測図は遺構ごとに分類し、図面は点検のうえ、デジタルトレースを行った。電子平板で測量したデータについては、現場で計測した情報をそのまま保存することとし、編集用データは、手実測で記録したその他の実測図と合成し、遺構図版を作成している。

野外調査で撮影した写真については遺構ごとに分類し整理した。その中から代表的な写真を選び遺構写真図版を作成し報告書に掲載している。

撮影されたフィルムはネガアルバムに密着写真と一組にして収納した。

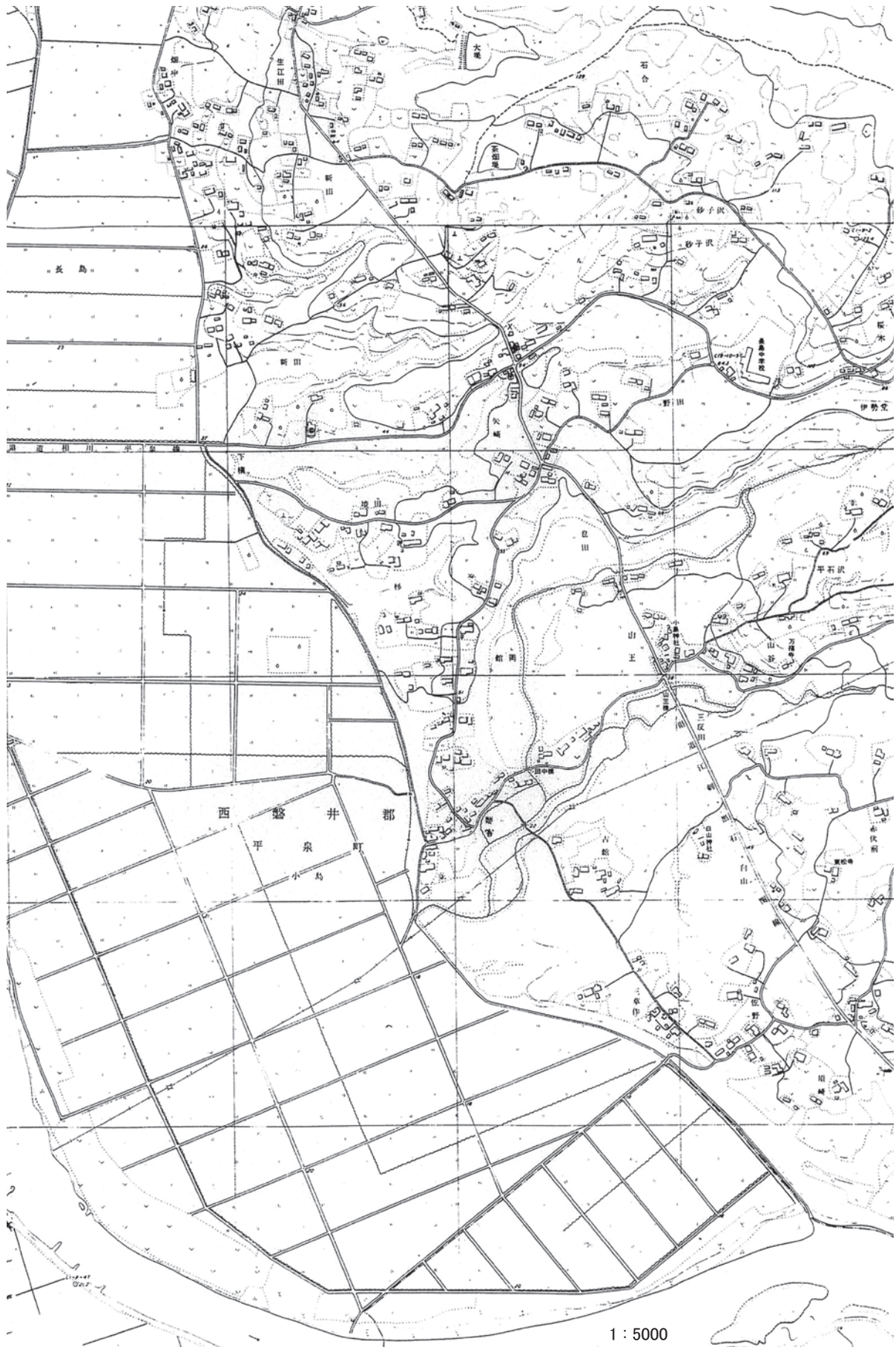
### 遺物の整理

遺物は現地及び当センター整理室で水洗した後、細片は別として、出土地点・層位等を登録した遺物ナンバーを各破片に注記した。その後、出土地点・層位ごとに仕分けを行い、遺構ごと、遺構外出土の遺物は調査区ごとに接合・復元作業を行った。遺物の実測図は原寸とし、トレースは遺物の状況に応じて実大あるいは縮小して図化した。放射性炭素年代測定の分析は外部の研究所に委託した。

### 遺物の選別・図化の基準

遺物の整理・報告にあたっての作業・記録作成は以下の方針で進めた。報告書に掲載された遺物は出土した遺物のすべてではなく、整理のなかで設定した基準を基に選別した一部の資料である。各遺構に伴う遺物を最優先し、遺構外出土であっても本遺跡を代表するものについては掲載した。また、各種の遺物については破片数、重量の計測を行い台帳作成している。残りの良い遺物は図や拓本を取り、写真撮影した。そうでないものは写真だけ撮っている。

遺物の図の縮尺は陶磁器類が1／3、銭貨1／1、柱材1／4である。



第6図 地形図

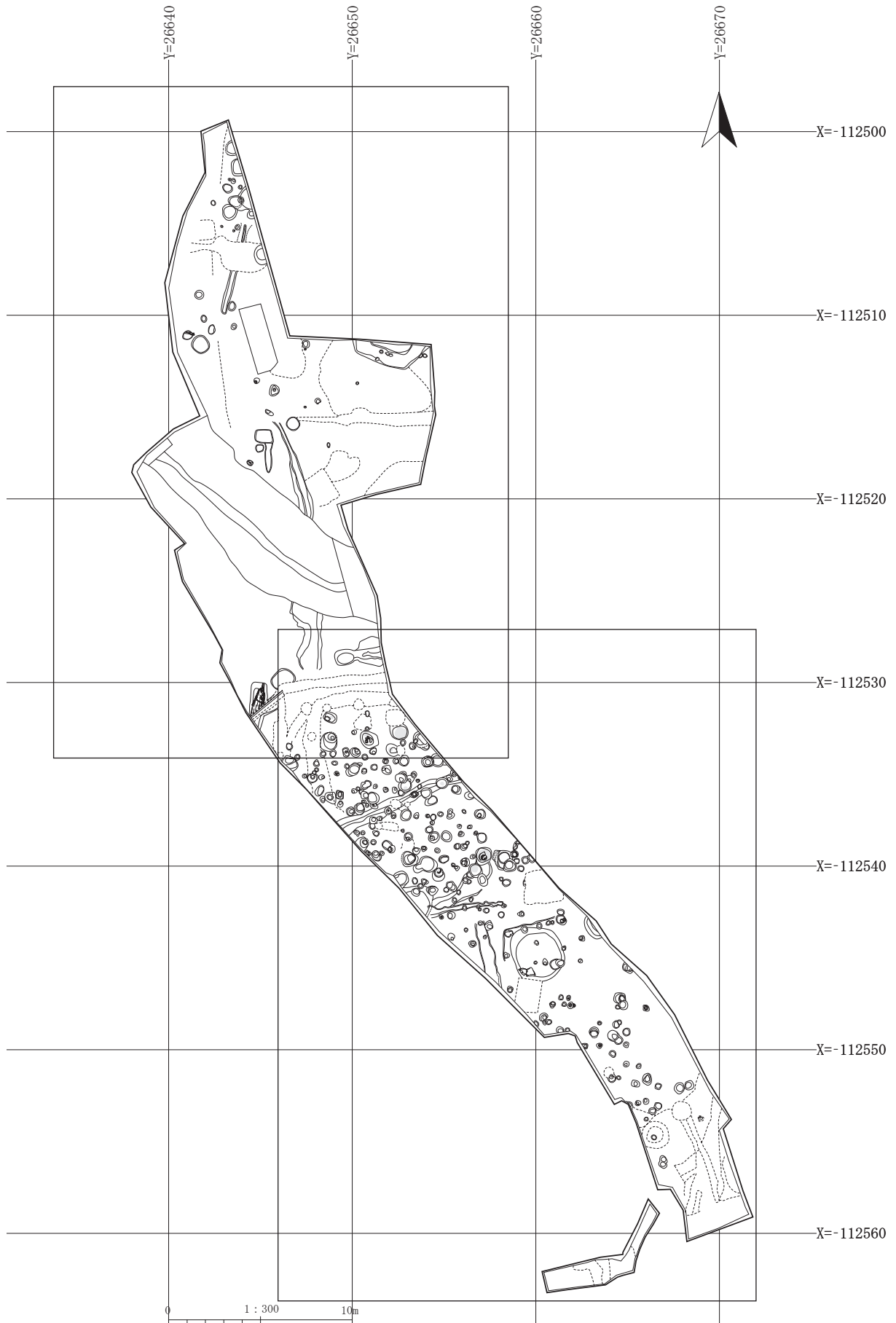




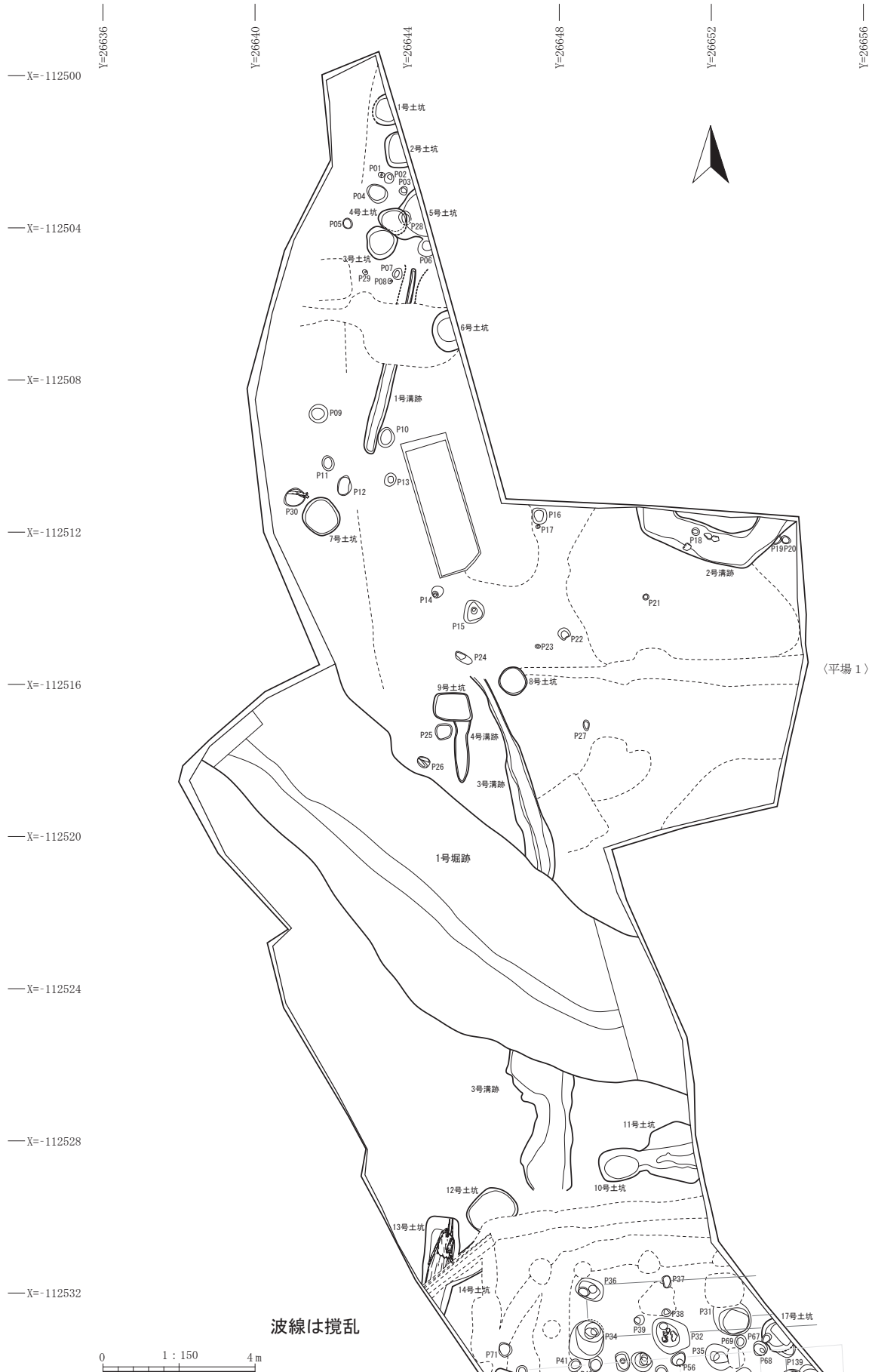
第7図 遺跡地形図と調査区



第8図 遺構配置図1



第9図 遺構配置図2



第10図 遺構配置図3



第11図 遺構配置図4

## IV 検出された遺構と出土遺物

### 1 概 要

遺跡は西磐井郡平泉町長島字館岡27他にある。遺跡の範囲は東西約200m×南北約260mと広く、調査区の現況は住宅地と畑地、遺跡の現況は農地と宅地、杉林等になっている。今回の調査は館岡Ⅱ遺跡の南端に近い部分を調査したことになる。

遺構は16世紀後半の堀跡1条、竪穴建物跡1棟。近世の掘立柱建物跡7棟、井戸跡1基、土坑20基、溝跡9条、柱穴266個が検出された。縄文時代の石器が出土しているがその時期の遺構は無い。近・現代の陶磁器類・金属製品なども多く出土したが、遺構は攪乱扱いとした。

### 2 基本層序

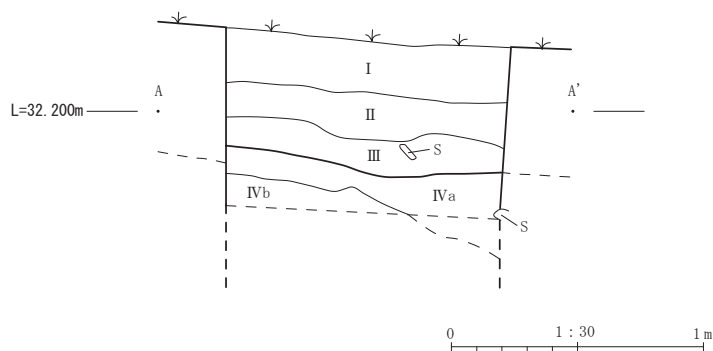
調査区内はかつて住宅のあった場所(低い面)と畑地となっていた場所(高い面)からなるが、基本層序は高い面で記録した。

I層 黒褐色土～暗褐色土：現在の表土。20～50cm。攪乱も多い。低い面では薄い。

II層 黒褐色～黒色土：旧表土で高い面の一部にのみ残っている。0～20cm。

III層 暗褐色土：削平されている所にはない。0～20cm。

IV層 黄褐色土：地山、遺構検出面である(IVa)。部分的に礫層となる(IVb)50～70cm。



第12図 基本土層

### 3 検出遺構

#### (1)堀 跡

堀跡の規模や形状、埋土や出土遺物等については観察表にも整理している。

#### 1号堀跡(第13図、写真図版5・6)

<位置・検出状況>調査区北側の平場1と平場2との境界部分にあり、地山面で検出したが樹木根が多く平面プランは分かりにくかった。他の遺構との重複関係はそれほど多く見られなかった。平場1から1段低い平場2へと下がる斜面部分から検出しており、現況からでは1号堀跡の存在は全く分からなかった。まずは小トレンチを設け、断面で各遺構との重複関係と遺構の深さを確認しつつ精査に入った。

<規模・形状>検出面での長さは14.8m、上幅4.9m、深さが1.4～2.1mあり、方向は北西から東側へと緩やかに曲がりながら延びている。北西側はそのまま段丘崖へと抜けている。所謂薬研堀である。底面は幅が0.5m程で北西側のほうが低くなっている。壁面は礫層を掘り込んでおり分かりにくかつ

たが橋跡のような施設は見られなかった。

＜埋土・重複関係＞3号溝跡と重複し、本遺構のほうが古い。底面付近は自然堆積で壁崩落に伴う円礫も多く含んでいた。埋土中位から上位は基本的に人為堆積となる。特に本遺構の北西部には近現代の家庭塵が大量に廃棄されていた。近年までは堀跡が埋まり切らずに窪地となっていたのであろう。このことから平場1と平場2の間にある人工的な斜面は近世以降に手を加えられていることが分かったが、中世城館として機能していた時期に既に切り岸状になっていた可能性もある。

＜出土遺物・時期＞(第23・24図、写真図版17)中世の遺物は出土していない。近世及びそれ以降の陶磁器や金属製品、ガラス類他は多量に出土した。周辺の状況から16世紀後半に位置づけるのが最も妥当である。

＜性格＞本遺跡及び隣接する館岡I遺跡には現況でも確認できるような大規模な堀跡が複数ある。これらの堀跡に比べると1号堀跡は小規模で現況では完全に埋められていて確認できなかった。こうしたことから本城館は大規模な堀で複数の郭を配する他にこれらを小規模な堀で更に分けて使用していた可能性がある。

## (2) 堅穴建物跡

### 1号堅穴建物跡(第14図、写真図版7)

＜位置・検出状況＞調査区の南側に位置している。表土を約30cm掘り下げるとすぐに地山面となる。この地山面で検出した。周囲は比較的攪乱も多かった。

＜重複関係＞20号土坑と重複関係にあり、本遺構が古い。

＜規模・形態＞遺構の残りは非常に悪かった。東西2.8m以上、南北1.2m以上はあるが削平され、北西隅の一部が残るのみである。底面から垂直気味に壁は立ち上がっているが、その高さは10cmにも満たない。残存部分を見る限り方形或いは長方形の平面形と推測され、これに張り出し部が付くのかまでは分からない。壁際に沿って柱穴が配置されているが必ずしも等間隔ではない。

＜埋土＞黒褐色土の中に地山ブロックと小礫を微量含む。自然堆積か人為堆積かは不明である。厚さは数cmしかなかったものの銭貨がまとまって出土した。

＜柱穴＞壁際に沿って6基の柱穴を確認した。その他、予想される平面プラン内にも6基の柱穴があったが、20号土坑や攪乱によって失われたもの、遺構南側は徐々に低くなる地形なため削平されて失われている柱穴も少なくないであろう。

＜遺構の性格＞他遺跡からの事例を見れば城館内に設けられる堅穴建物跡の多くは倉庫や作業小屋であるものが多い。本遺構もこうした用途に使われた施設であろう。

＜出土遺物・時期＞銭貨が67枚、まとまって出土した。多くの銭貨が互いに接した状態にあり、指し銭のような形でまとめられていたと推測される。銭貨には永楽通宝が多く含まれていたので16世紀代の遺構と考えられる。

## (3) 掘立柱建物跡

### 1号掘立柱建物跡(第15図、写真図版14)

＜位置・検出状況＞調査区のほぼ中央、平場2に位置している。現況が住宅地であったこともあり周囲には攪乱が多い。地表面から30cm下の地山面で検出している。

＜重複関係＞他遺構との新旧関係は、把握できたものは平面図の上場に反映されている。

＜平面形式＞東西棟の掘立柱建物と推測される。桁行きは4間以上、梁行き3間の建物に北側に下屋

が付くようである。

<柱穴>桁行に使われている柱穴は直径1m前後と非常に大きな柱穴であった。これに対し梁行き他に使われている柱穴は直径0.5m未満のものとなる特徴がある。柱痕跡や柱穴底面の状況から柱の太さを確認できるものは5個あるが、これを見ると径25～35cmの円形基調の柱材が用いられていたようである。明瞭な抜き取りの痕跡を残す柱穴は無かった。

<柱間寸法>桁行きは1.0尺と6.7尺、梁行き10.3尺と12.2尺と不揃いであった。下屋部分は北側へ3.5尺ほど張り出している。

<出土遺物>柱穴84には柱材が残っていた。

<時期・建物の性格>出土遺物はないものの周辺で見ついている遺構や遺物の状況か遺構の時期は18世紀頃と推測される。平面形式から民家の可能性が高いが、非常に大きな柱穴が使われており、規模の大きな民家であったと考えられる。

### 2号掘立柱建物跡(第16図、写真図版14)

<位置・検出状況>調査区のほぼ中央、平場2に位置している。現況が住宅地であったこともあり周囲には攪乱が多い。地表面から30cm下の地山面で検出している。

<重複関係>他遺構との新旧関係は、把握できたものは平面図の上場に表現されている。

<平面形式>東西棟の掘立柱建物である。桁行5間かそれ以上、梁行き3間の掘立柱建物跡になる可能性が高い。北側或いは南側に下屋柱が配されるとも考えたが見つからなかった。

<柱穴>柱穴の大きさに特段の違いはない。大半の柱穴は開口部径で50～70cmの範囲であった。柱痕跡を確認できた柱穴は8個である。これを見ると径25～30cmの円形基調の柱材が用いられていたことが分かる。明瞭な抜き取りの痕跡を残す柱穴は無かった。

<柱間寸法>桁行きは7.5尺、6.5尺、5.5尺と複数の間尺が用いられている。梁行きは7.5尺と5.5尺が用いられている。このことから桁行梁行共に5寸単位で柱間を決めていたと推測される。

<出土遺物>遺構に伴う遺物はない。

<時期・建物の性格>出土遺物はないが周囲にある遺構や出土遺物の状況から、18世紀以降の民家と考えるのが最も妥当である。

### 3号掘立柱建物跡(第16図、写真図版14)

<位置・検出状況>調査区中央付近の平場2に位置している。もともと住宅地であったこともあり周囲には攪乱が多かった。地表面から30cm下の地山面から検出している。

<重複関係>他遺構との新旧関係は、把握できたものは平面図の上場に反映されている。

<平面形式>南北棟なのか東西棟の掘立柱建物跡なのか不明である。本稿では便宜的に東西方向を桁行きとし、南北方向を梁行きとして報告する。桁行き3間以上、梁行きは5間としているが、北側は調査区外であるため北側へは延びる可能性も否定できない。

<柱穴>柱穴の大きさには大小の違いが存在している。隅になる柱穴は特に大きな柱穴となっているが、それ以外の柱穴の中には開口部径40cm程のものもある。明瞭な抜き取りの痕跡を残す柱穴は無かった。

<柱間寸法>桁行きは6.6尺、6.2尺、5.6尺と不揃いであった。梁行きは5.0尺と4.0尺からなり、他の建物跡と比べても柱間寸法が狭い。残った柱痕跡から20cm位の柱を用いていたと推定された。

<出土遺物>遺構に伴う遺物はない。



<時期・建物の性格>周囲にある遺構や出土遺物の出土状況から18世紀以降と捉えている。建物は民家か若しくは倉庫(蔵)のような性格の建物だったかのかかもしれない。

#### 4号掘立柱建物跡(第16図、写真図版14)

<位置・検出状況>調査区中央付近の平場2に位置している。現況が住宅地であったこともあり周囲には攪乱が多かった。地表面から30cm下の地山面で検出している。

<重複関係>他遺構との新旧関係は、把握できたものは平面図の上場に表現されている。

<平面形式>東西棟の掘立柱建物である。調査区外に平面プランが伸びているため詳細は分からない。

<柱穴>柱穴の大きさからは、あまり統一感を感じられない。大半の柱穴は開口部径で30～50cmの範囲であった。柱痕跡を確認できた柱穴はないものの、底面の状況から径25～30cmの円形基調の柱材が用いられていたことが分かる。明瞭な抜き取りの痕跡を残す柱穴は無かった。

<柱間寸法>桁行きは8.3尺、8.0尺、7.2尺と不揃いであった。

<出土遺物>遺構に伴う遺物はない。

<時期・建物の性格>3個の重複関係を持つ柱穴は何れも古い。このことから本遺構は中世後半の可能性もある。全体の規模が不明であるため主屋なのか付属屋なのか分からない。

#### 5号掘立柱建物跡(第17図、写真図版14)

<位置・検出状況>調査区のほぼ中央にあたる平場2に位置している。現況が住宅地であったこともあり周囲には攪乱が多い。表土下の地山面で検出している。

<重複関係>他遺構との新旧関係は、把握できたものは平面図の上場に反映されている。

<平面形式>東西棟の掘立柱建物のようなものである。桁行4間若しくはそれ以上、梁行き2間の掘立柱建物跡で総柱建物になる可能性がある。

<柱穴>大半の柱穴は開口部径で50～30cmの範囲であった。柱穴76だけが開口部径60cmとなる。柱痕跡を確認できた柱穴は3個である。これを見ると径約15cmの円形基調の柱材が用いられていたことが分かる。明瞭な抜き取りの痕跡を残す柱穴は無かった。

<柱間寸法>桁行きは7.3尺が多く、ほかに7.2尺、6.4尺がある。柱間寸法はあまり揃ってはいない。梁行きは北側が8.5尺で南側は10.0尺である。

<出土遺物>遺構に伴う遺物はない。

<時期・建物の性格>周囲の遺構や出土遺物の状況から近世の可能性が高い。主屋か付属屋かは分からない。

#### 6号掘立柱建物跡(第17図、写真図版14)

<位置・検出状況>調査区の南側に位置している。現況が住宅地であったこともあり周囲には攪乱が多い。表土下の地山面で検出している。

<重複関係>他遺構との新旧関係は、把握できたものは平面図の上場に反映されている。

<平面形式>東西棟なのか南北棟なのかが不明な掘立柱建物である。ここでは便宜的に東西方向を桁行、南北方向を梁行きとして報告する。桁行は2間以上、梁行きは3間若しくはそれ以上の規模となる。

<柱穴>大半の柱穴は開口部径で50～60cmの範囲であった。柱痕跡を確認できた柱穴は3個である。これを見ると径約20cmの円形基調の柱材が用いられていたようである。明瞭な抜き取りの痕跡を残す柱穴は無い。

<柱間寸法>桁行きは7.5尺。梁行きは7.0尺と5.7尺が用いられている。

<出土遺物>遺構に伴う遺物はない。

<時期・建物の性格>周囲の遺構や出土遺物の状況から近世の可能性が高い。付属屋と考えている。

#### 7号掘立柱建物跡(第17図、写真図版14)

<位置・検出状況>調査区の南側に位置している。現況が住宅地であったこともあり周囲には攪乱が多い。表土下の地山面で検出している。

<重複関係>他遺構との新旧関係は、把握できたものは平面図にの上場に反映されている。

<平面形式>東西棟なのか南北棟なのかよく分からない掘立柱建物である。本稿では便宜的に東西方向を桁行とし、南北方向を梁行きとして記載する。桁行は3間以上、梁行きは3間若しくはそれ以上の平面規模になる可能性がある。

<柱穴>大半の柱穴は開口部径で50～30cmの範囲であった。柱痕跡を確認できた柱穴は3個である。これを見ると径約15cmの円形を基調とする柱材が用いられていたようである。明瞭な抜き取りの痕跡を残す柱穴は無かった。

<柱間寸法>桁行きは4.5・4.1・4.0尺と4尺代が使われている。梁行きは6.6尺と6.5尺となっている。

<出土遺物>遺構に伴う遺物はない。

<時期・建物の性格>周囲に分布する遺構や遺物の状況から近世の可能性が高い。付属屋と考えている。

#### (4)井戸跡・土坑

1基の井戸跡と19基の土坑を検出した(第14・18・19図、写真図版7・8～11)。時期が中世の可能性もあるものと近世及びそれ以降のものに分けられる。各遺構の特徴については表に整理した。

1号井戸跡は東半部が調査区外となるので底面まで掘り下げることは出来なかった。今回の調査で見つかっている近世民家に伴う井戸跡の可能性が高い。

平場1には9基の土坑があり何れも埋土は人為堆積であった。残りの悪いものが多く地山面から深さ10～20cm程度のもので遺物も出土していない。地表面から埋土を観察できた1・2号土坑を見ると地山面より上には壁が立ち上がっていない。このことから近世よりは古く、中世の可能性があると判断した。5号土坑も作図はしていないが同様である。9号土坑は平面形が隅丸長方形となり墓壇の可能性もあったが残りが悪く判然としなかった。

平場2からは10基の土坑を検出している。何れの土坑も人為堆積であった。11号土坑からは近世染付破片が1点出土し13・14号土坑からは近代陶磁器が出土したが、他土坑から遺物の出土はない。平場2は近世及びそれ以降の遺構が主体となるので土坑もこの時期に位置づけるのが最も妥当である。

#### (5)溝跡

9条の溝跡を検出した(第20～22図、写真図版11～14)。中世の可能性のあるものが5条、近世及びそれ以降のものが4条あるが遺物を伴っているものが少なく確実なものではない。2号溝跡は埋土上位に川原石を多く含んでいる部分が見られた。平易面形も円形或いは隅丸方形上に巡るような形状をしており石を積んだ塚を廻る周溝の可能性もある。7号溝跡は調査区外へ延びているため全容は分からないが柵のような施設であった可能性がある。

個々の遺構については観察表にまとめている。

## (6) 柱 穴

今回の調査では266個の柱穴が見つかった。調査区が嘗て屋敷地であったこともあり、近世や近代の遺物も多く出土している。中世と近世頃の柱穴があると考えられるが、遺物を伴うものは少ないため時期の判然としないものも多い。各柱穴の特徴は表にまとめた。

## 4 出 土 遺 物

中世の遺物として国産陶器、中国産磁器、銭貨が出土した。近世及びそれ以降の遺物としては国産陶磁器、金属製品、石製品他が出土している。他に縄文時代の土器が1点出土している(第23～29図、写真図版17～22)。

### (1) 陶 磁 器

中世の陶磁器(第23図、写真図版17) 出土した7点すべてを掲載している。1・2は大窯の碗皿で16世紀後半頃のものであろう。3・4の陶器は産地がよく分らないが、近世ではないので中世に位置づけた。5は白磁の碗と考えている。6は16世紀頃と見られる染付皿、7は小形の壺類の底部片で青白磁の可能性はある。

近世の陶磁器(第23・24図、写真図版17) 1号堀跡の埋土上層から多く出土している。1号堀跡は16世紀末には廃絶しているが、その後近世の間は埋まりきらずに窪んでいた(あくまで調査した部分に限ってのことであるが)。近世後半～近現代にかけてや敷地内の塵とともに陶磁器類もここに廃棄されていた。出土した陶磁器を全て見たが近世初頭まで上るものは出土していない。18世紀後半以降の陶磁器で占められており19世紀代及びそれ以降の陶磁器が多く出土していた。

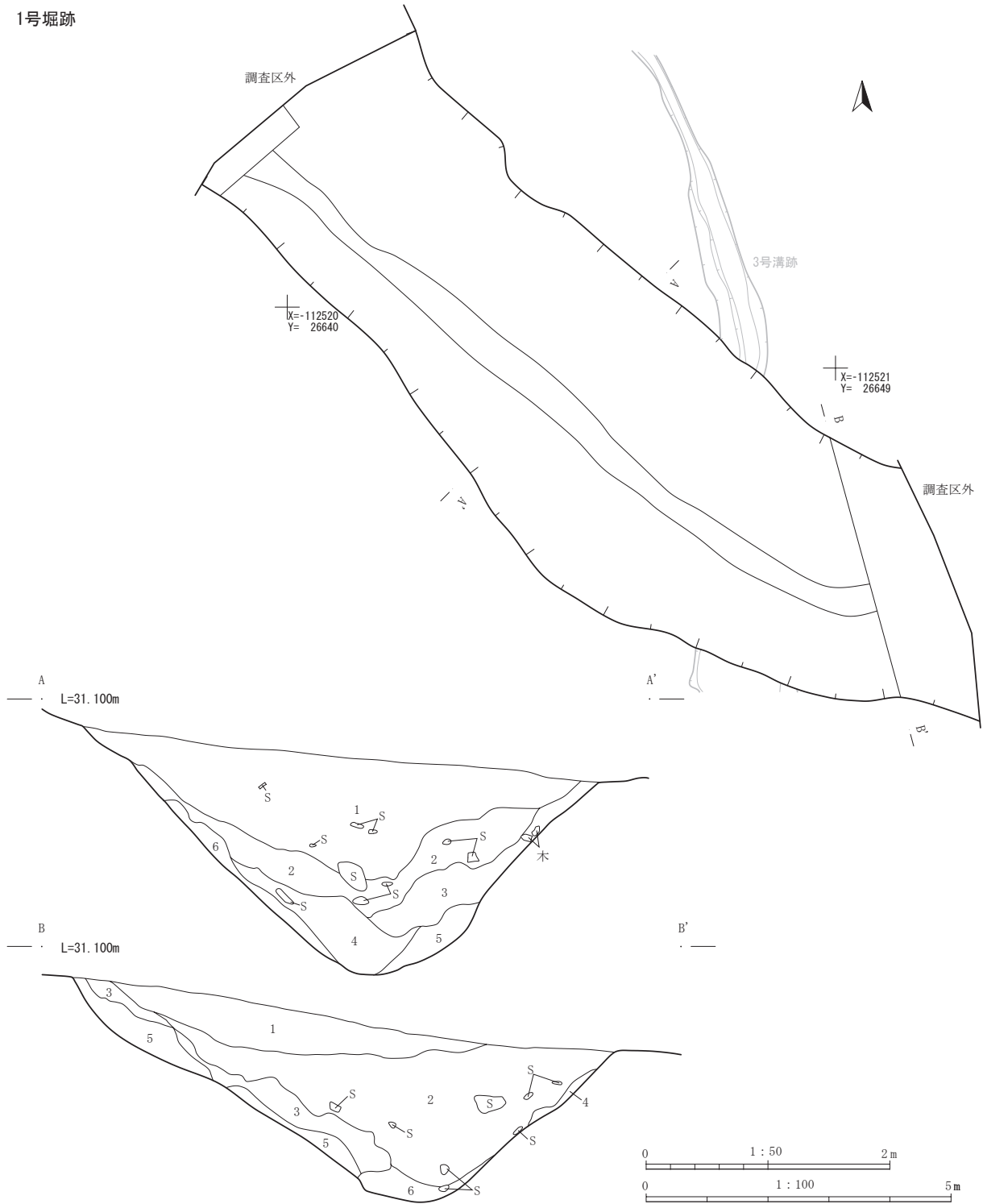
### (2) 銭 貨(第25～28図、写真図版19～22)

中世の銭貨は1号竪穴建物跡からまとまった状態で出土した。永楽通宝が最も多く次いで洪武通宝となる。分類不明の個体は6点あった。銭の厚さが1mmに満たないような薄い個体も12点あり、模鑄した可能性が高い資料である。近世の銭貨は全て寛永通宝であった。

### (3) そ の 他(第29図、写真図版18)

鉄釘、柱材、瓦、土器などはそれぞれ遺物観察表にまとめている。

1号堀跡



1号堀跡A-A'

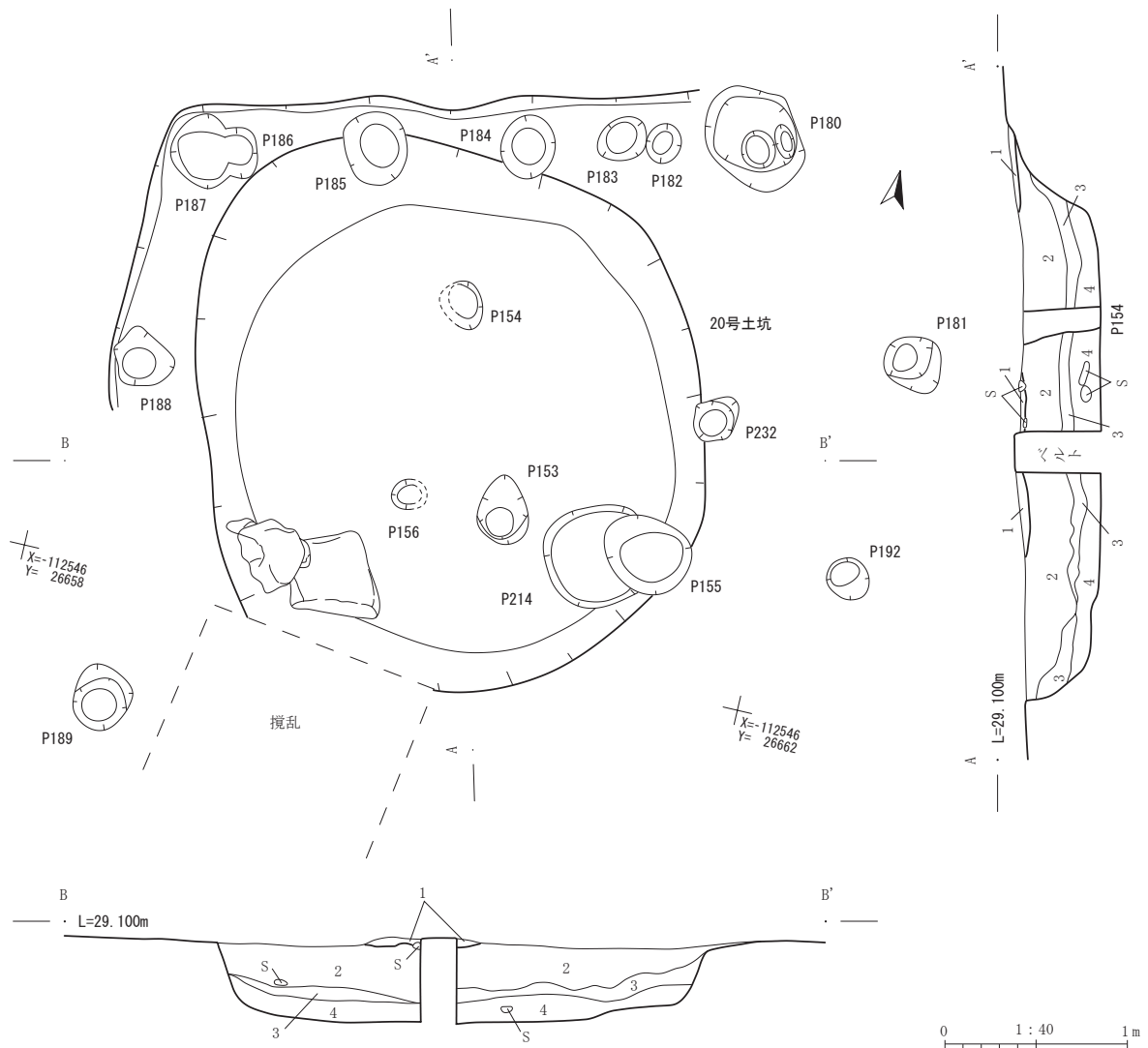
- |                |      |                 |      |            |       |        |
|----------------|------|-----------------|------|------------|-------|--------|
| 1. 10YR2/2     | 黒褐色土 | 大小の河原石少量        | 人為堆積 | 近世に堀を埋めている | 粘性やや有 | 締まりやや有 |
| 2. 10YR2/2-3/2 | 黒褐色土 | 大小の河原石微量        | 人為堆積 | 近世に堀を埋めている | 粘性やや有 | 締まりやや有 |
| 3. 10YR4/6     | 褐色土  | 地山起源の土が崩れたものだろう |      |            | 粘性やや有 | 締まっている |
| 4. 10YR3/2     | 黒褐色土 | 河原石少量           | 自然堆積 | 中世後半か      | 粘性やや有 | 締まっている |
| 5. 10YR4/6     | 褐色土  | 壁面の崩落土          | 中世後半 |            | 粘性やや有 | 締まっている |
| 6. 10YR4/4     | 褐色土  | 壁面の崩落土          | 中世後半 |            | 粘性やや有 | 締まっている |

1号堀跡B-B'

- |            |       |            |      |     |       |        |        |
|------------|-------|------------|------|-----|-------|--------|--------|
| 1. 10YR2/2 | 黒褐色土  | 小礫微量       | 人為堆積 | 近現代 | 粘性やや有 | 締まりやや有 |        |
| 2. 10YR3/2 | 黒褐色土  | 小～大礫少量     | 人為堆積 | 近世  | 粘性やや有 | 締まりやや有 |        |
| 3. 10YR6/6 | 明黄褐色土 | 黒褐色土との混合土  | 崩落土  | 中世  | 粘性有   | 締まっている |        |
| 4. 10YR4/4 | 褐色土   | 地山ブロック少量   | 崩落土  | 中世  | 粘性やや有 | 締まっている |        |
| 5. 10YR6/8 | 明黄褐色土 | 暗褐色土ブロック微量 | 礫少量  | 崩落土 | 中世    | 粘性やや有  | 締まっている |
| 6. 10YR2/2 | 黒褐色土  | 若干砂っぽい     | 礫多量  |     | 粘性やや弱 | 締まりやや有 |        |

第13図 1号堀跡

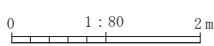
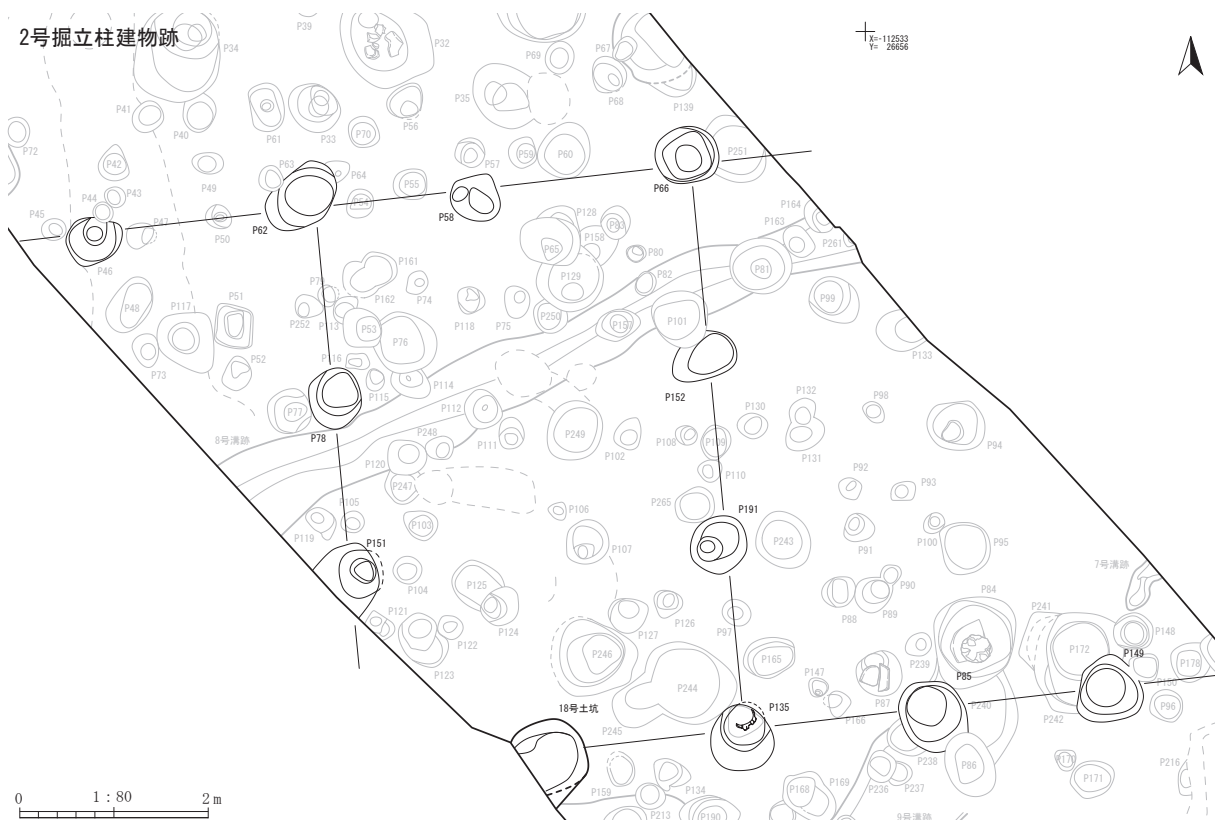
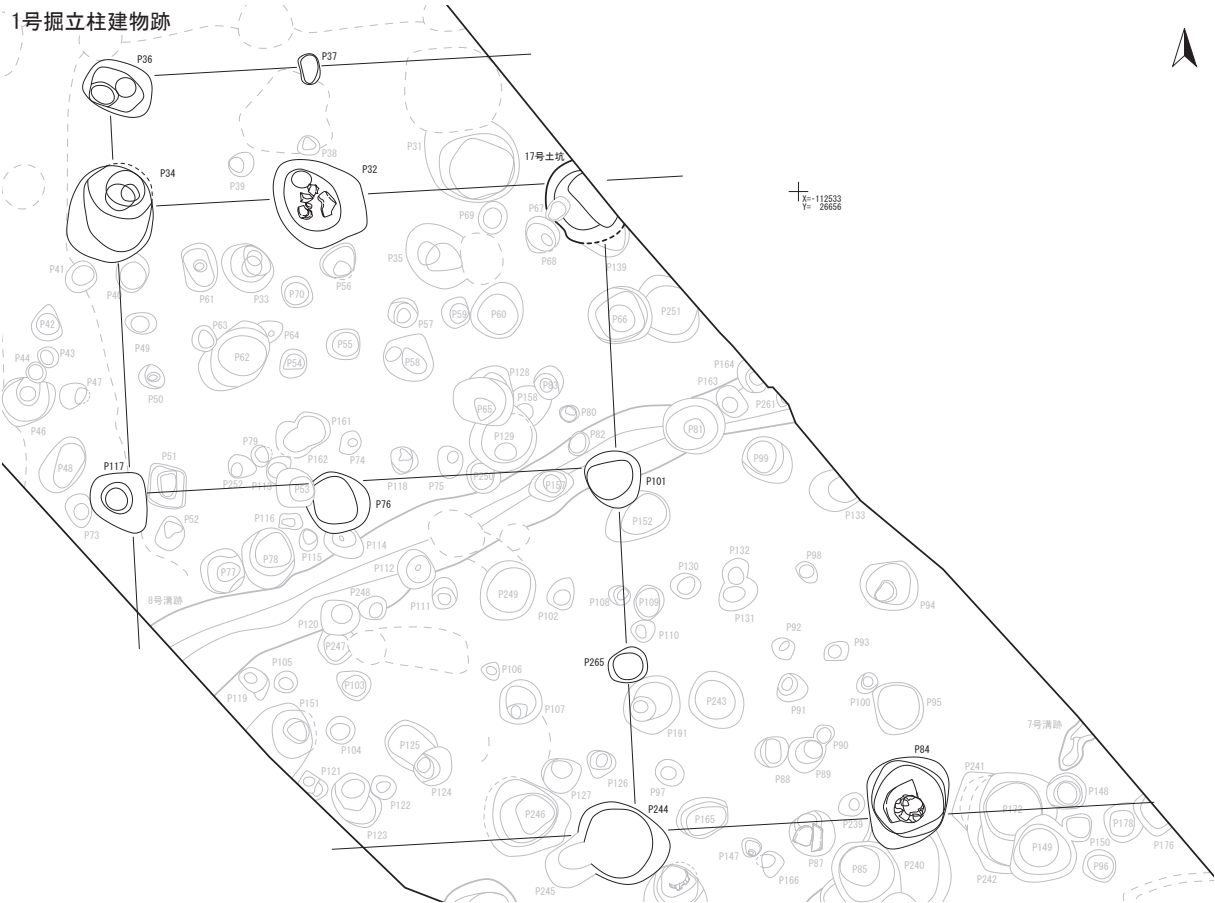
1号竖穴建物跡・20号土坑



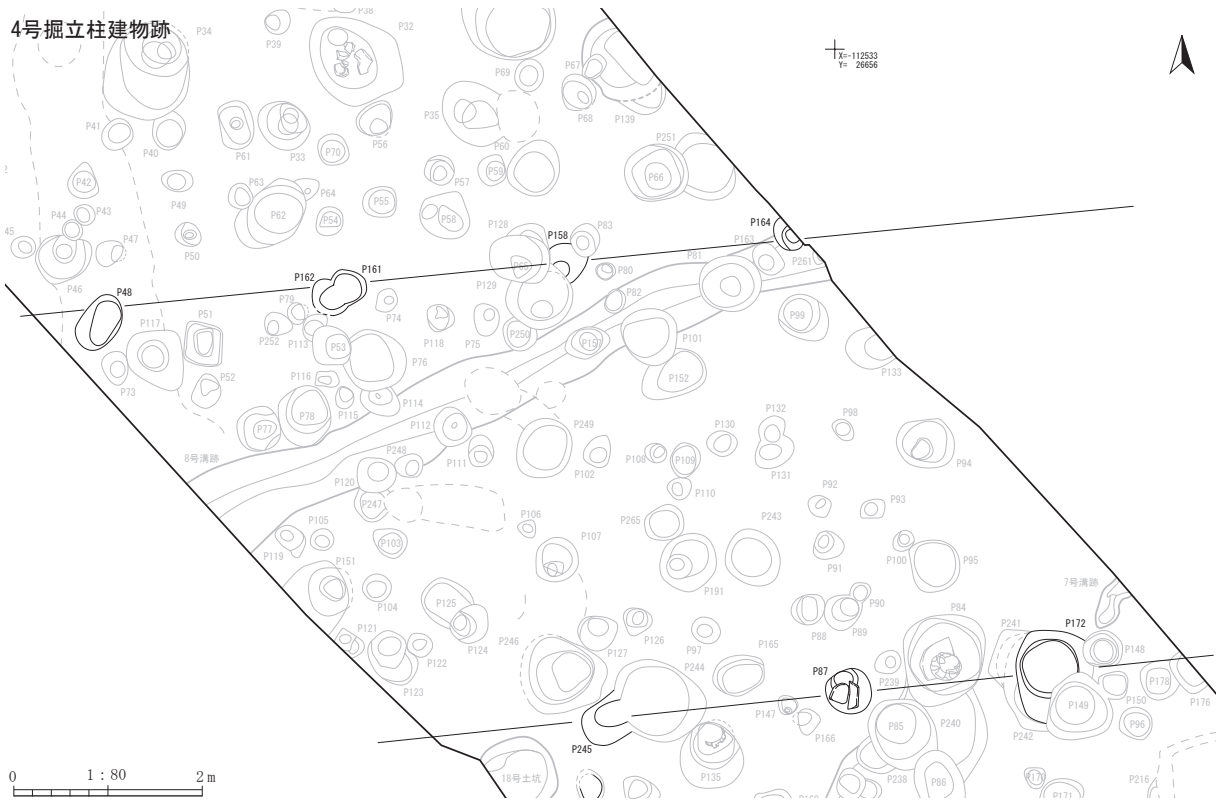
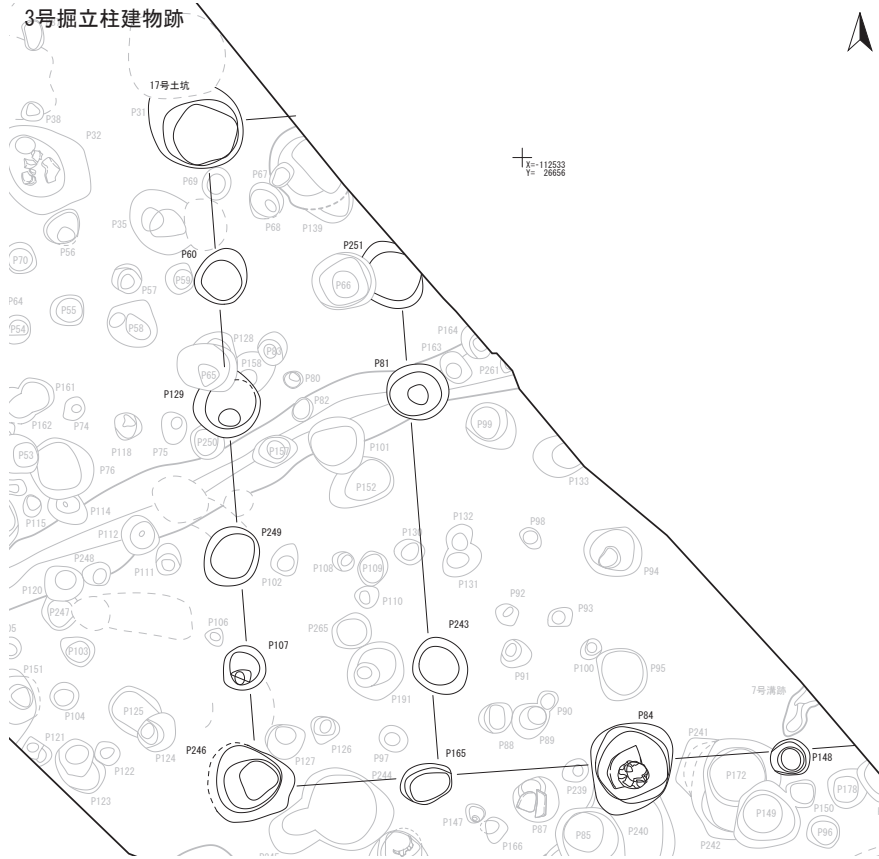
1号竖穴建物跡・20号土坑

1. 10YR3/1 黒褐色土 地山ブロック小粒極微量 小礫小粒極微量 粘性やや有 締まっている…1号竖穴建物跡
  2. 10YR3/2 黒褐色土 地山ブロック大～小粒多量 礫多量 人為堆積 粘性やや有 締まっている…20号土坑
  3. 10YR3/2 黒褐色土 地山ブロック小粒少量 2層と4層が混じたもの 粘性やや有 締まっている…20号土坑
  4. 10YR3/2 黒褐色土 泥質土及びシルトのラミナ 中小の礫多量 自然堆積 粘性やや有 締まりやや有…20号土坑
- ※2～4層が土坑 水を溜める施設か

第14図 1号竖穴建物跡



第15図 掘立柱建物跡 1

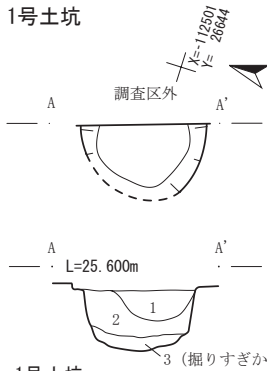


第16图 掘立柱建物跡 2





1号土坑



3 (掘りすぎか)

1号土坑

- 10YR4/4 褐色土 黄褐色土10% 明黄褐色土粒(φ1~3mm)3% 礫(φ5~15mm)1% 炭化物(φ1~5mm)3% 人為堆積 粘性無 締まり強
- 10YR2/1 黒色土 黄褐色土が斑に10% 赤褐色土粒(φ3mm)1% 炭化物(φ1~11mm)10% 礫層 人為堆積 粘性弱 締まり有

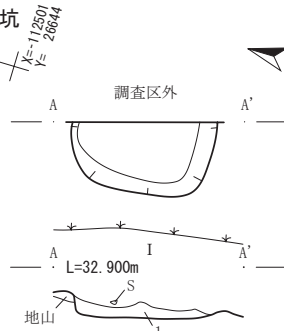
2号土坑

- 10YR2/1 黒色土 明黄褐色土粒(φ1~6mm)5% 炭化物(φ1~10mm)20% 礫層 人為堆積  
1号土坑と似る 時期も近いが 粘性弱 締まり有

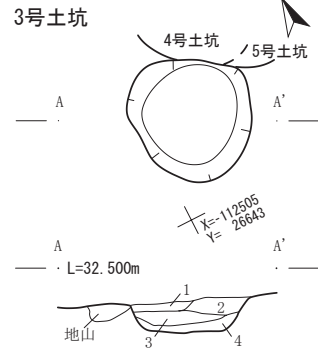
3号土坑

- 10YR2/3 黒褐色土 黒色土5% 炭化物(φ1~3mm)1% 人為堆積 粘性弱 締まり有
- 10YR3/3 暗褐色土 黒色土10% 黄褐色土3% 炭化物(φ1~4mm)1% 人為堆積 粘性弱 締まり有
- 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色土10% 礫(φ5~8mm)1% 炭化物(φ1~8mm)1% 人為堆積 粘性弱 締まり強
- 10YR1.7/1 黒色土 黒褐色土5% 炭化物(φ1~20mm)30% 人為堆積 粘性弱 締まりやや弱

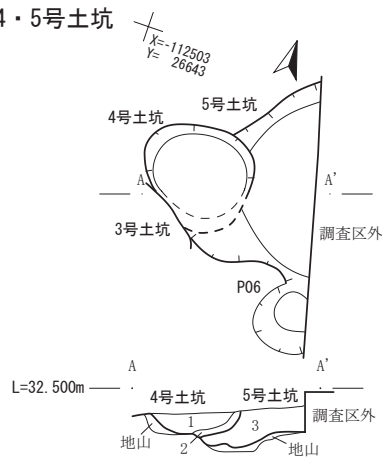
2号土坑



3号土坑



4・5号土坑



4・5号土坑

- 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色土が斑に5% 礫(φ5~15mm)3% 炭化物(φ1~20mm)5% 人為堆積 粘性無 締まり強…4号土坑
- 10YR2/1 黒色土 黄褐色土が斑に3% 炭化物(φ1~5mm)5% 人為堆積 粘性弱 締まりやや弱…4号土坑
- 10YR2/2 黒褐色土 赤褐色土粒(φ1~2mm)1% 黄褐色土粒(φ1mm以下)1% クン炭のようだった 自然堆積 中世か 粘性無 締まり強

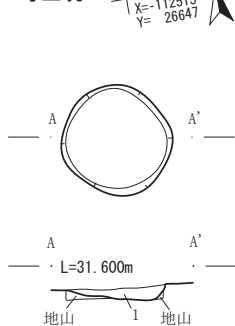
6号土坑

- 10YR2/3 黒褐色土 黄褐色土が斑に10% 明赤褐色土粒(φ2mm)1% 礫(φ10~26mm)1% 炭化物(φ1~3mm)3% 人為堆積 粘性やや弱 締まり強

7号土坑

- 10YR3/3 暗褐色土 明黄褐色土3% 礫(φ5~7mm)1% 人為堆積 粘性無 締まり強

8号土坑



8号土坑

- 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色土が斑に5% 炭化物(φ1~20mm)5% 人為堆積 粘性弱 締まり強

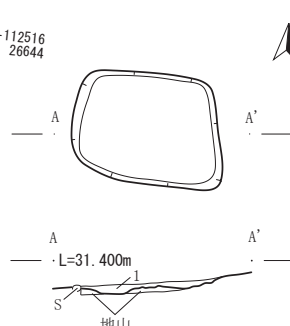
9号土坑

- 10YR3/4 暗褐色土 黄褐色土5% 礫(φ5~20mm)1% 炭化物(φ1~2mm)1% 人為堆積 粘性無 締まり強

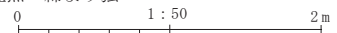
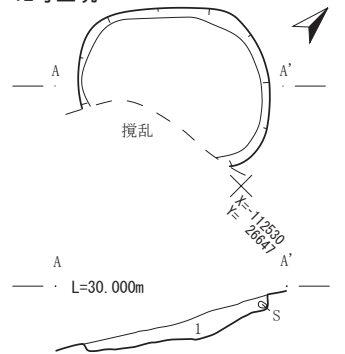
12号土坑

- 10YR4/3 にぶい黄褐色土 地山ブロック含む 礫(7~13mm)3% 炭化物(φ1~3mm)3% 人為堆積 粘性無 締まり強

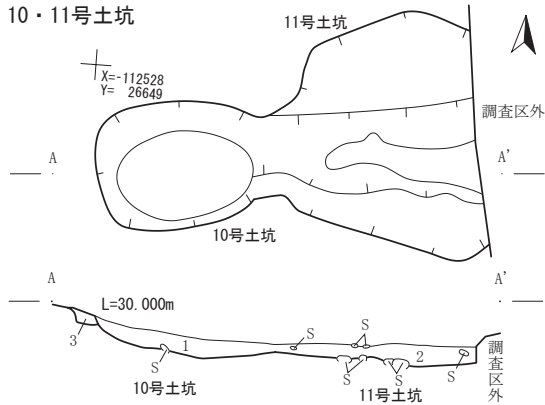
9号土坑



12号土坑

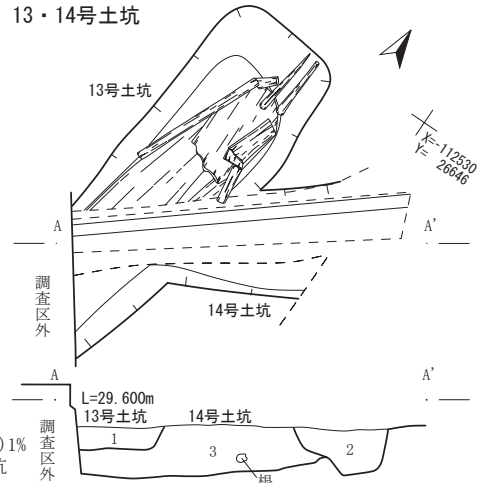


第18図 土坑 1



10・11号土坑

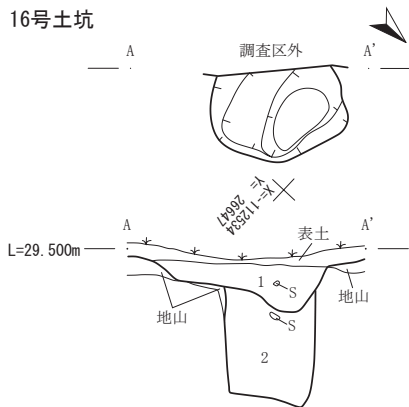
- 10YR3/3 暗褐色土 黄褐色土が斑に5% 明赤褐色土粒(φ1~2mm)1% 礫(φ5~60mm)1% 炭化物(φ1~3mm)5% 人為堆積 粘性弱 縮まり強…10号土坑
- 10YR2/3 黒褐色土 黄褐色土が斑に20% 明赤褐色土粒(φ1~2mm)1% 礫(φ6~100mm)7% 炭化物(φ1~8mm)10% 18C染付出土 人為堆積 粘性弱 縮まり強…11号土坑
- 10YR4/4 褐色土 黄褐色土15% 炭化物(φ1mm)1% 粘性弱 縮まり強…攪乱  
※新旧不明



13・14号土坑

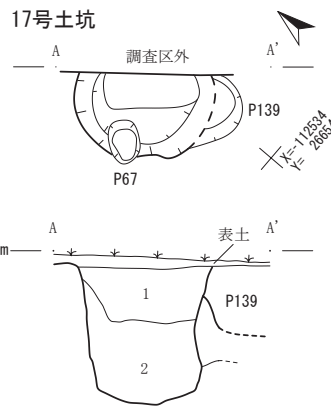
13・14号土坑

- 10YR2/3 黒褐色土 黄褐色土が斑に10% 礫(φ15mm)1% 炭化物(φ1~5mm)5% 人為堆積 粘性弱 縮まり有
- 10YR2/2 黒褐色土 黄褐色土20% 炭化物(φ1~3mm)3% 粘性有 縮まり有…攪乱
- 10YR3/3 暗褐色土 黄褐色土との混泥土 明黄褐色土が斑に10% 礫(φ5~10mm)1% 炭(φ1~10mm)15% 人為堆積 粘性弱 縮まり有



16号土坑

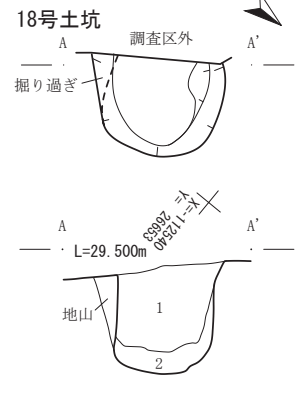
- 10YR3/3 暗褐色土 黄褐色土3% 礫(φ5~40mm)1% 炭化物(φ1~3mm)3% 人為堆積 粘性弱 縮まり強…攪乱(新しい溝)
- 10YR5/8 黄褐色土 暗褐色土20% 黒褐色土7% 礫(φ5~60mm)1% 炭化物(φ1~30mm)5% 人為堆積 粘性弱 縮まり強



17号土坑

17号土坑

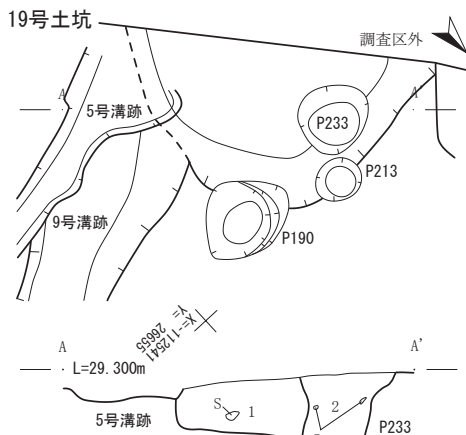
- 10YR4/1 褐灰色土 と地山黄褐色粘土ブロック1:1 河原石小微量 人為堆積 粘性有 縮まり有
- 10YR6/6 明黄褐色粘土質土 その隙間に褐灰色土が極微量に混じる 人為堆積 粘性有 縮まっている



18号土坑

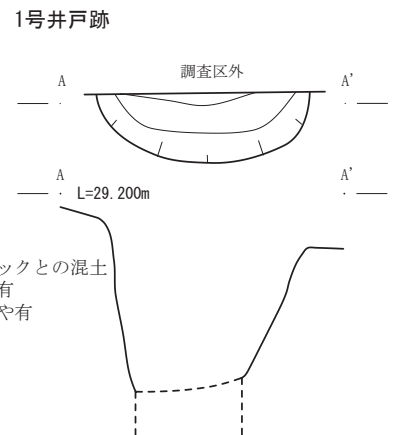
18号土坑

- 10YR3/1 黒褐色土ブロック 黄褐色土ブロック40% 人為堆積 粘性やや有 縮まっている
- 10YR6/6 明黄褐色粘土質土ブロック 黒褐色土ブロック10% 人為堆積 粘性有 縮まっている



19号土坑

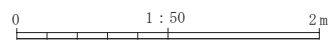
- 10YR3/2 黒褐色土 地山ブロック少量 小礫少量 人為堆積 粘性やや有 縮まっている…19号土坑
- 10YR3/1 黒褐色土 地山ブロック多量 粘性やや有 縮まりやや有…P233



1号井戸跡

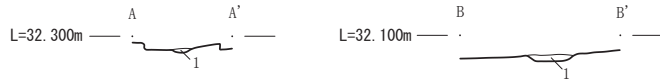
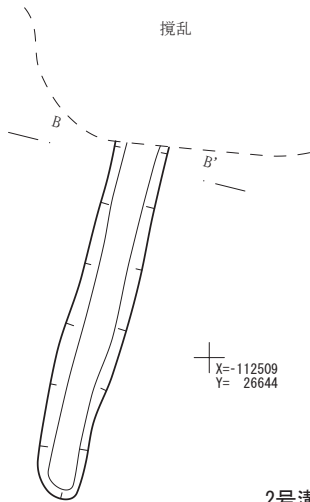
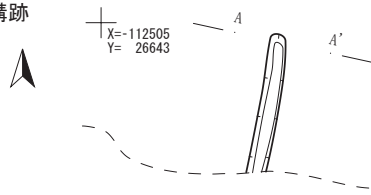
1号井戸跡

- 埋土 10YR2/2 黒褐色土 地山ブロックとの混泥土 粘性やや有 縮まりやや有



第19図 土坑2、井戸跡

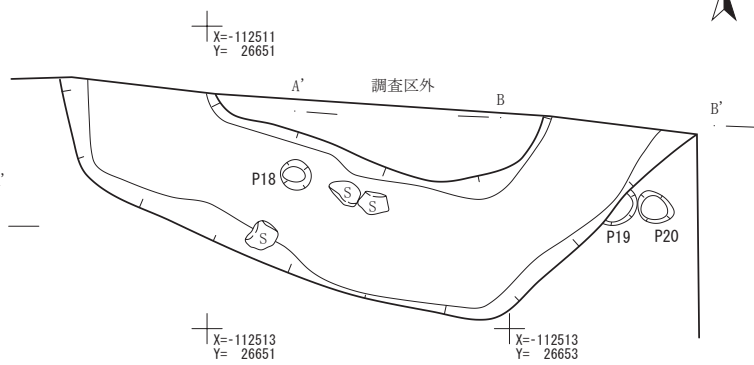
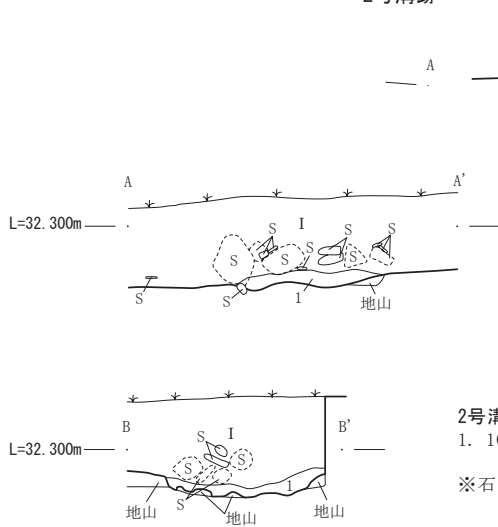
1号溝跡



1号溝跡

1. 10YR3/4 暗褐色土 明黄褐色土1% 炭化物(φ1mm)1% 粘性無 締まり強

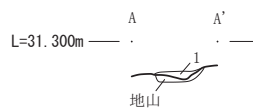
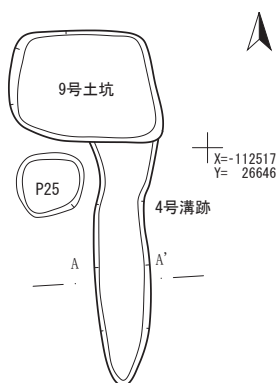
2号溝跡



2号溝跡

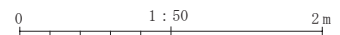
1. 10YR3/4 暗褐色土 赤褐色土粒(φ1~2mm)1% 明黄褐色土粒(φ1mm)1% 礫(φ6~15mm)10% 炭化物(φ1~4mm)3% 粘性弱 締まり強  
 ※石を積んだ塚のような遺構だったか 崩れた石が周溝に入ったものか

4号溝跡



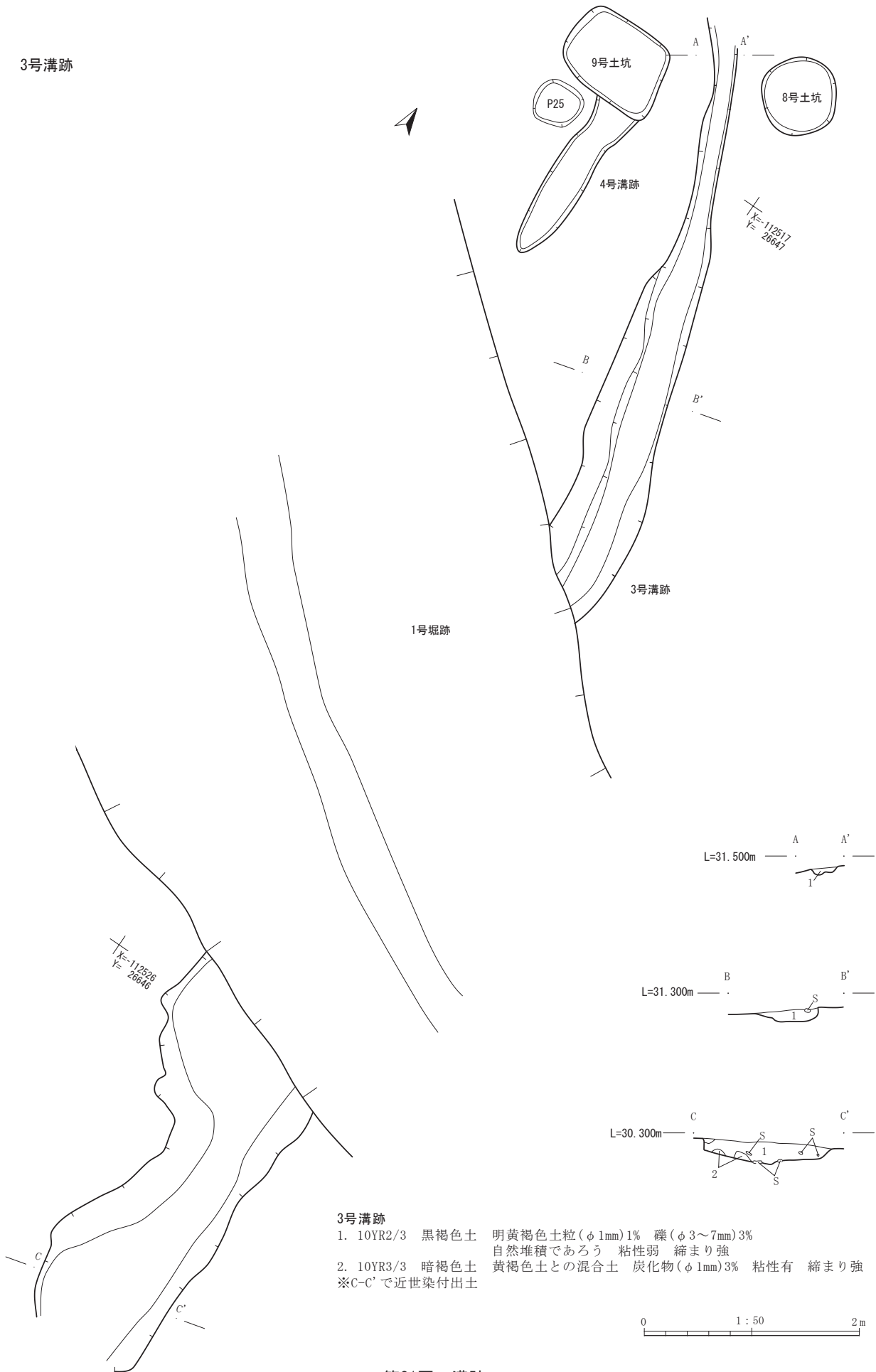
4号溝跡

1. 10YR3/3 暗褐色土 礫(φ8~12mm)1% 浅い 遺物無 人為堆積 粘性弱 締まり強



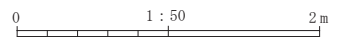
第20図 溝跡 1

3号溝跡



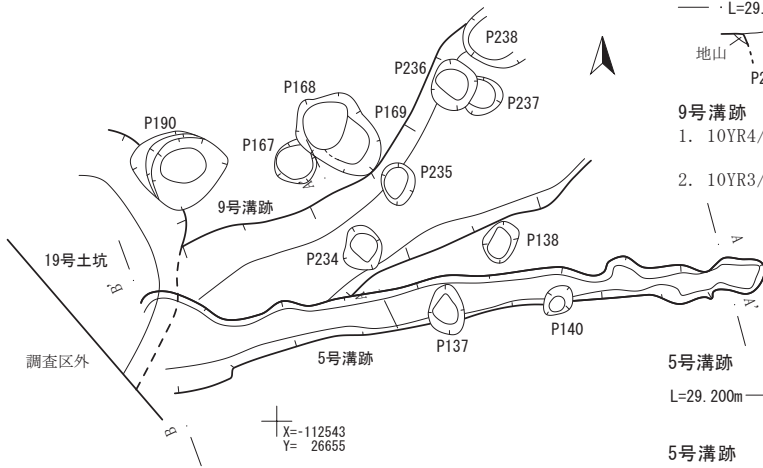
3号溝跡

- 1. 10YR2/3 黒褐色土 明黄褐色土粒(φ1mm)1% 礫(φ3~7mm)3%  
自然堆積であろう 粘性弱 締まり強
  - 2. 10YR3/3 暗褐色土 黄褐色土との混合土 炭化物(φ1mm)3% 粘性有 締まり強
- ※C-C'で近世染付出土

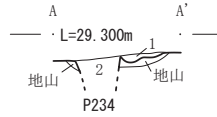


第21図 溝跡2

5・9号溝跡



9号溝跡



9号溝跡

- 10YR4/2 灰黄褐色土 地山ブロック微量 中世であろう  
粘性やや弱 締まっている…9号溝跡
- 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや有 締まりやや弱…P234

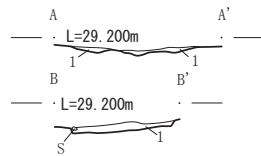
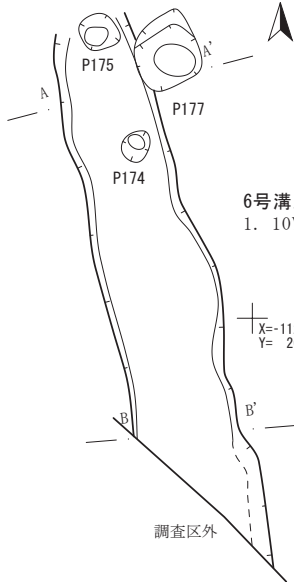
5号溝跡



5号溝跡

- 10YR3/1 黒褐色土 地山ブロック極微量 炭粒極微量  
粘性やや有 締まっている…5号溝跡
- 10YR3/1 黒褐色土 地山ブロック少量 粘性弱  
締まっている…19号土坑

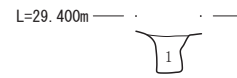
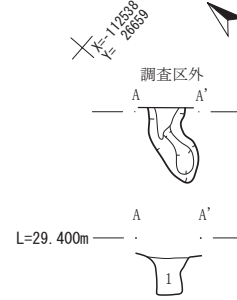
6号溝跡



6号溝跡

- 10YR3/4 暗褐色土 地山ブロック少量 人為堆積か  
粘性やや有 締まりやや有

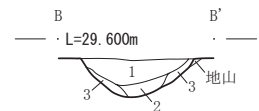
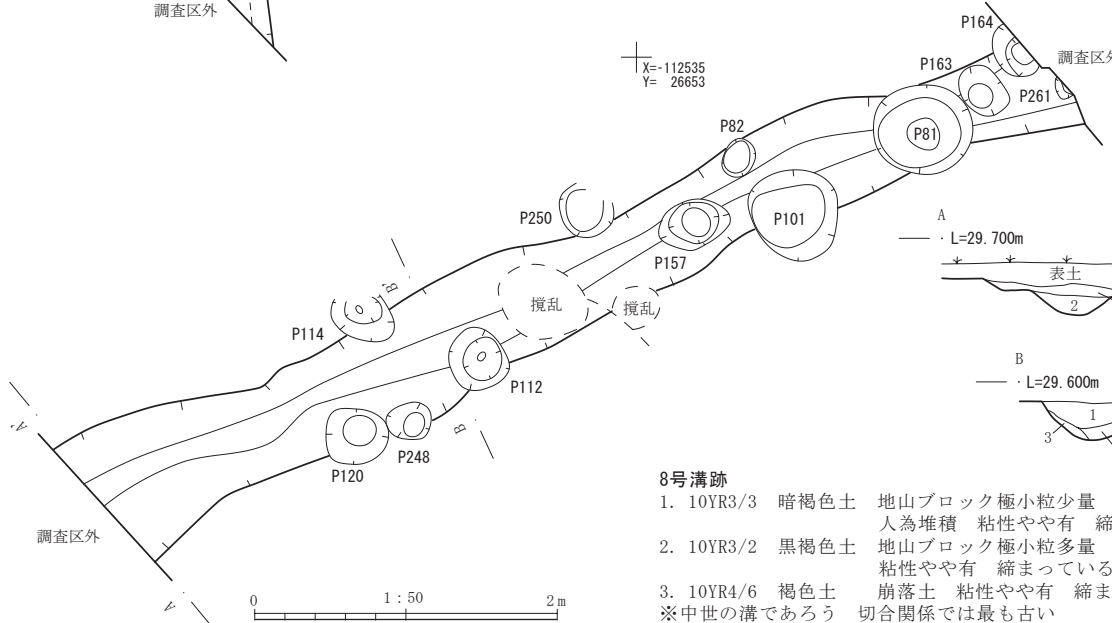
7号溝跡



7号溝跡

- 10YR4/2 灰黄褐色土 地山ブロック少量 人為堆積  
粘性やや有 締まりやや有…柵か

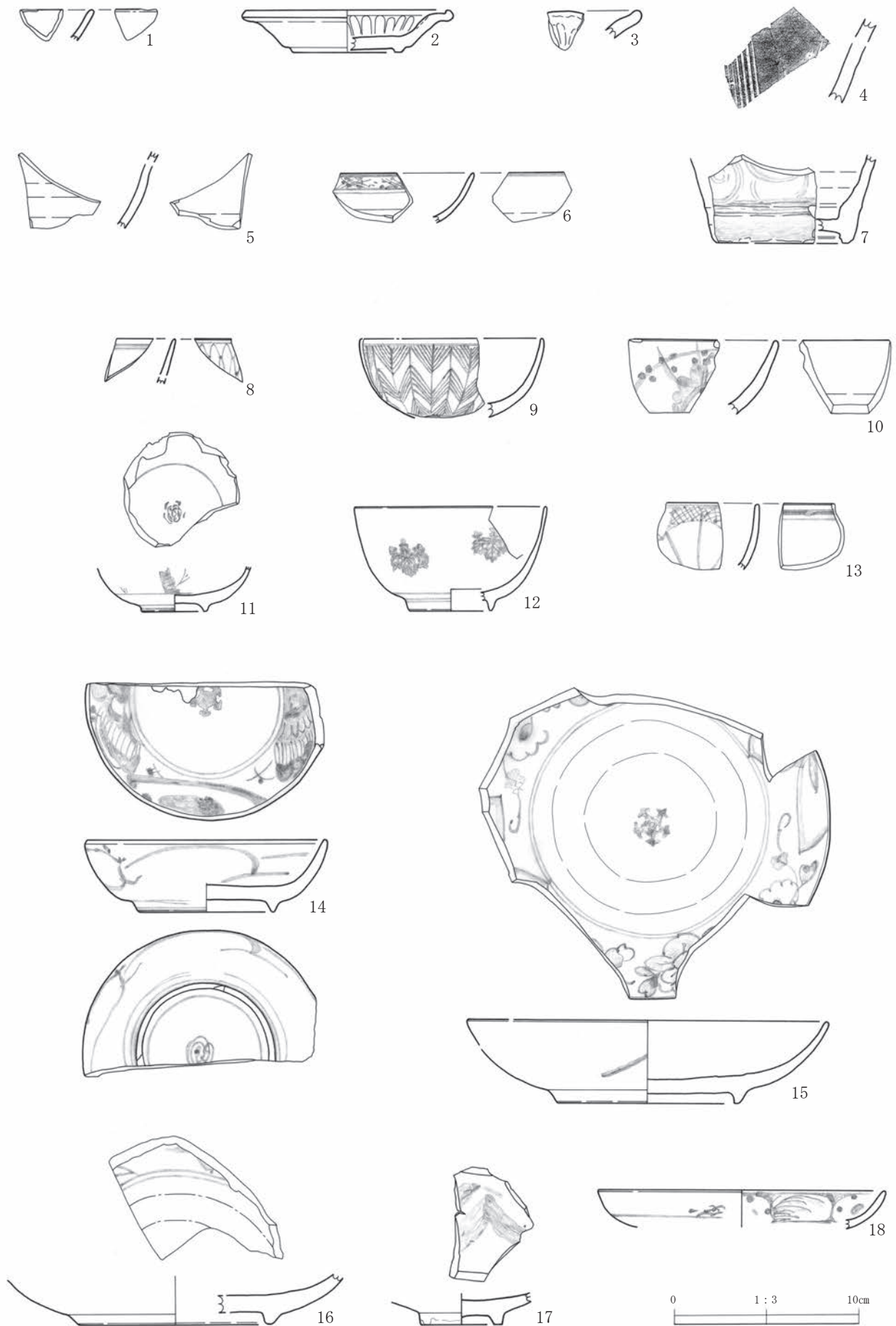
8号溝跡



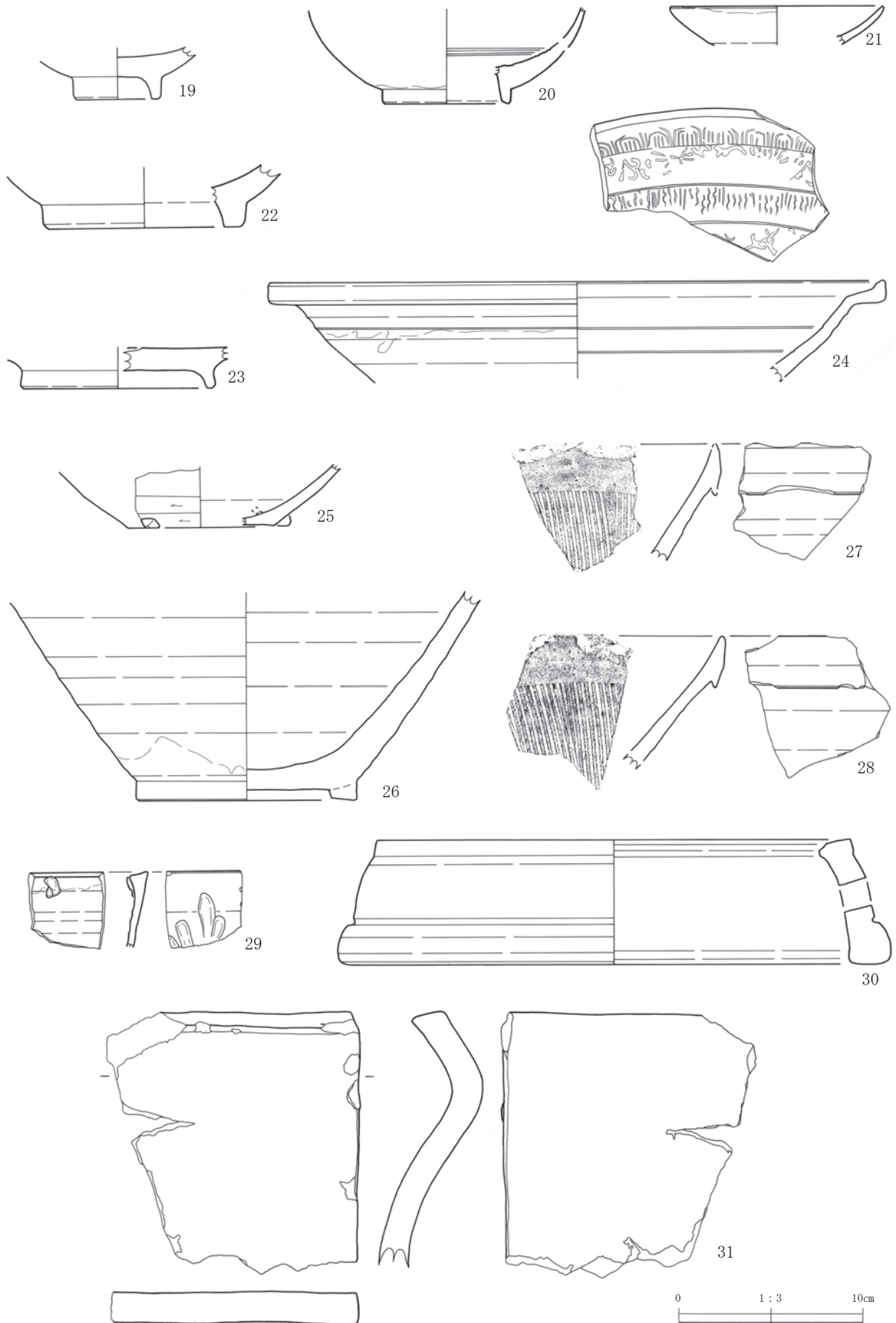
8号溝跡

- 10YR3/3 暗褐色土 地山ブロック極小粒少量 小礫極微量  
人為堆積 粘性やや有 締まっている
- 10YR3/2 黒褐色土 地山ブロック極小粒多量 人為堆積  
粘性やや有 締まっている
- 10YR4/6 褐色土 崩落土 粘性やや有 締まっている  
※中世の溝であろう 切合関係では最も古い

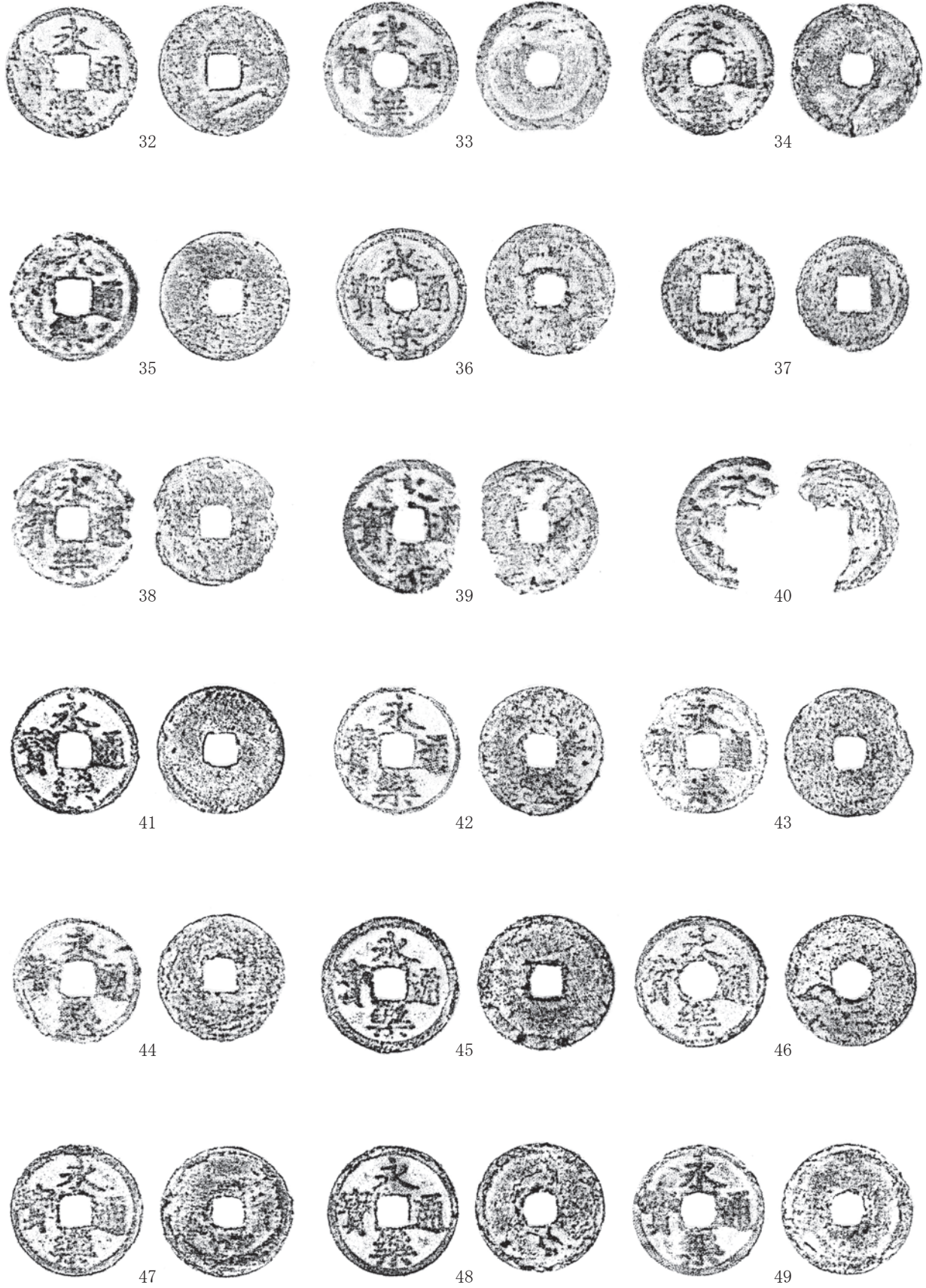
第22図 溝跡3



第23図 出土遺物 1

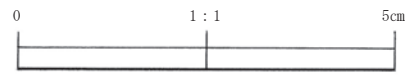
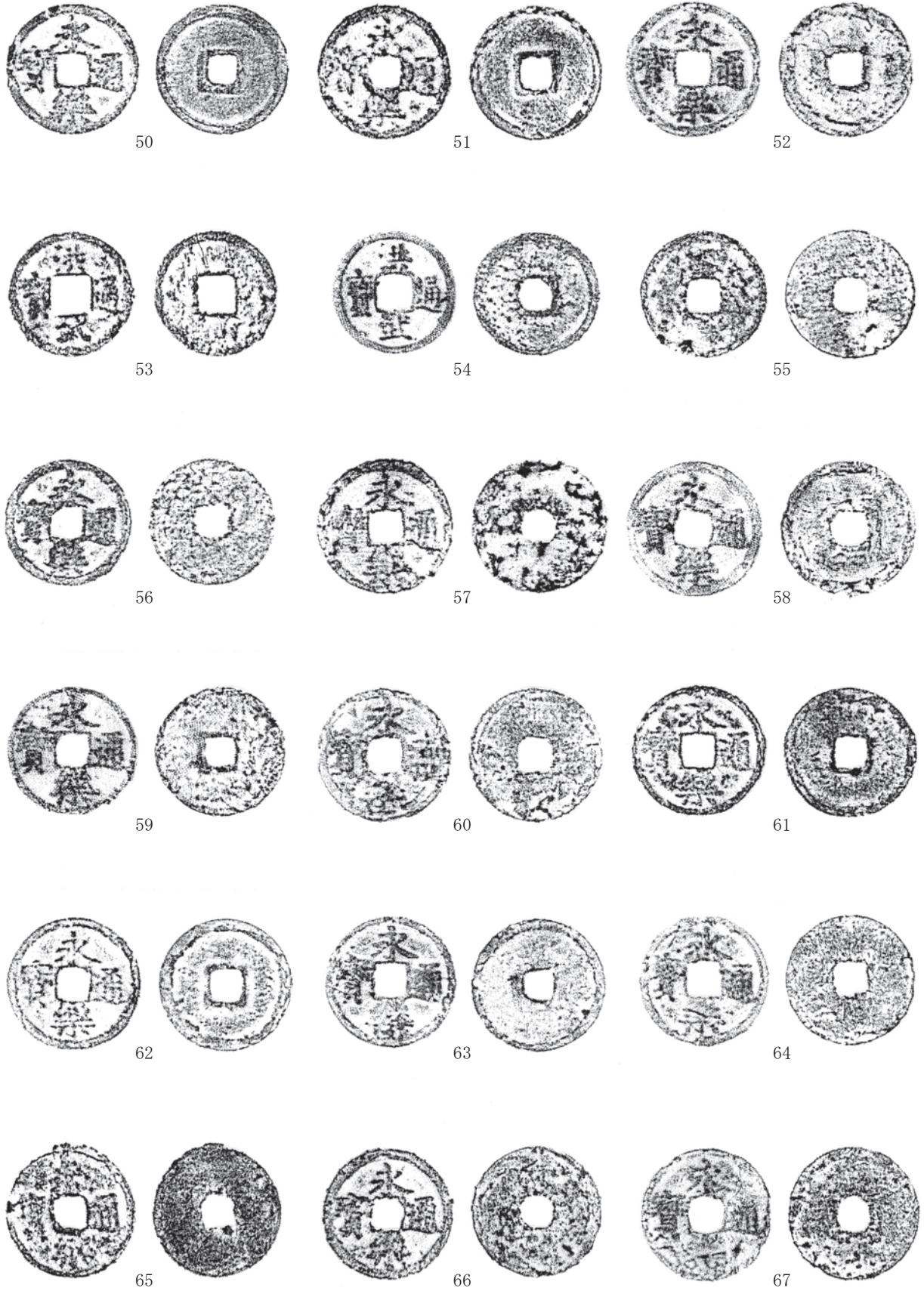


第24図 出土遺物 2

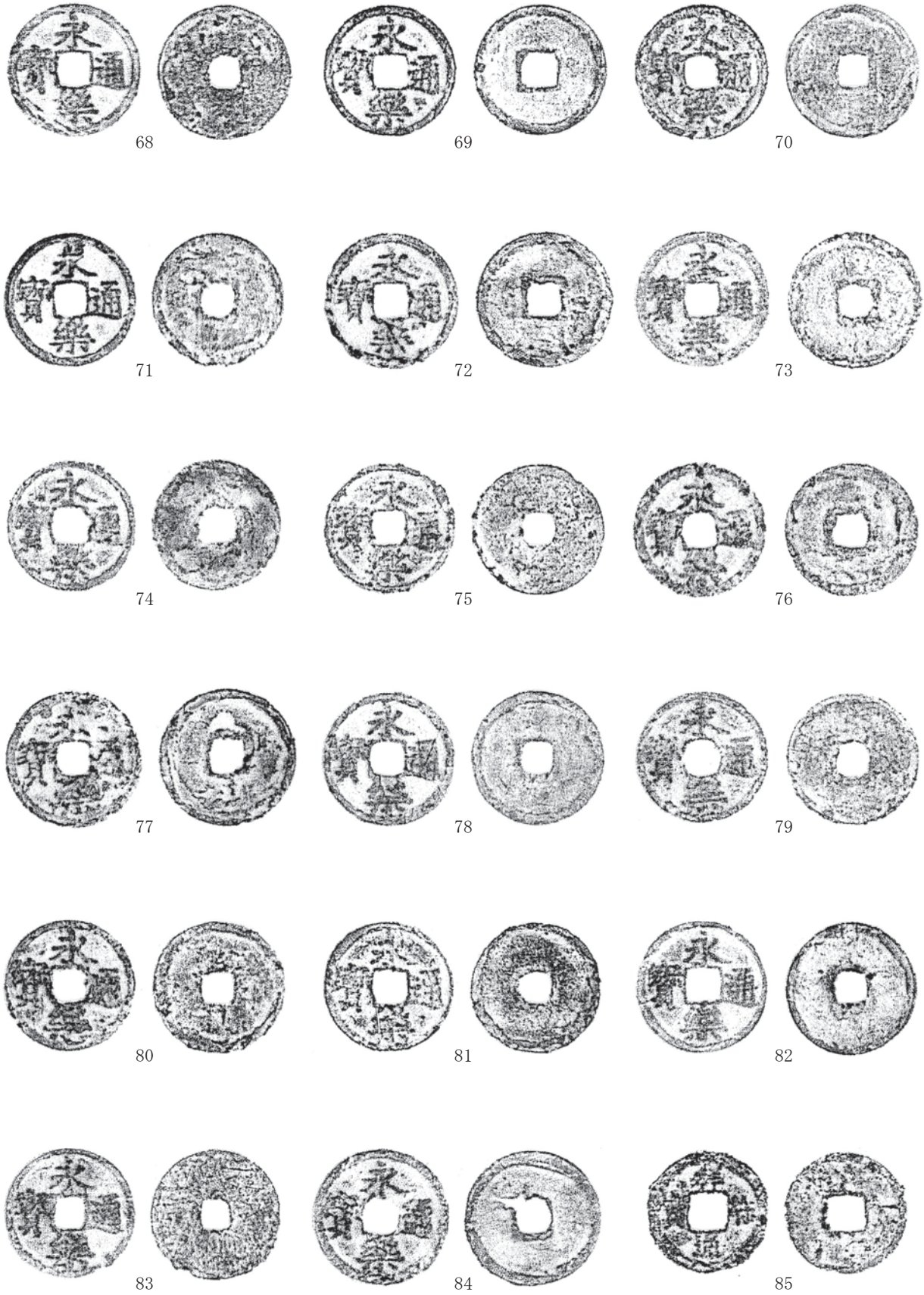


第25図 出土遺物3

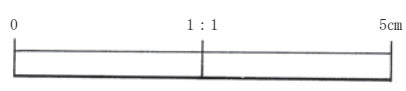
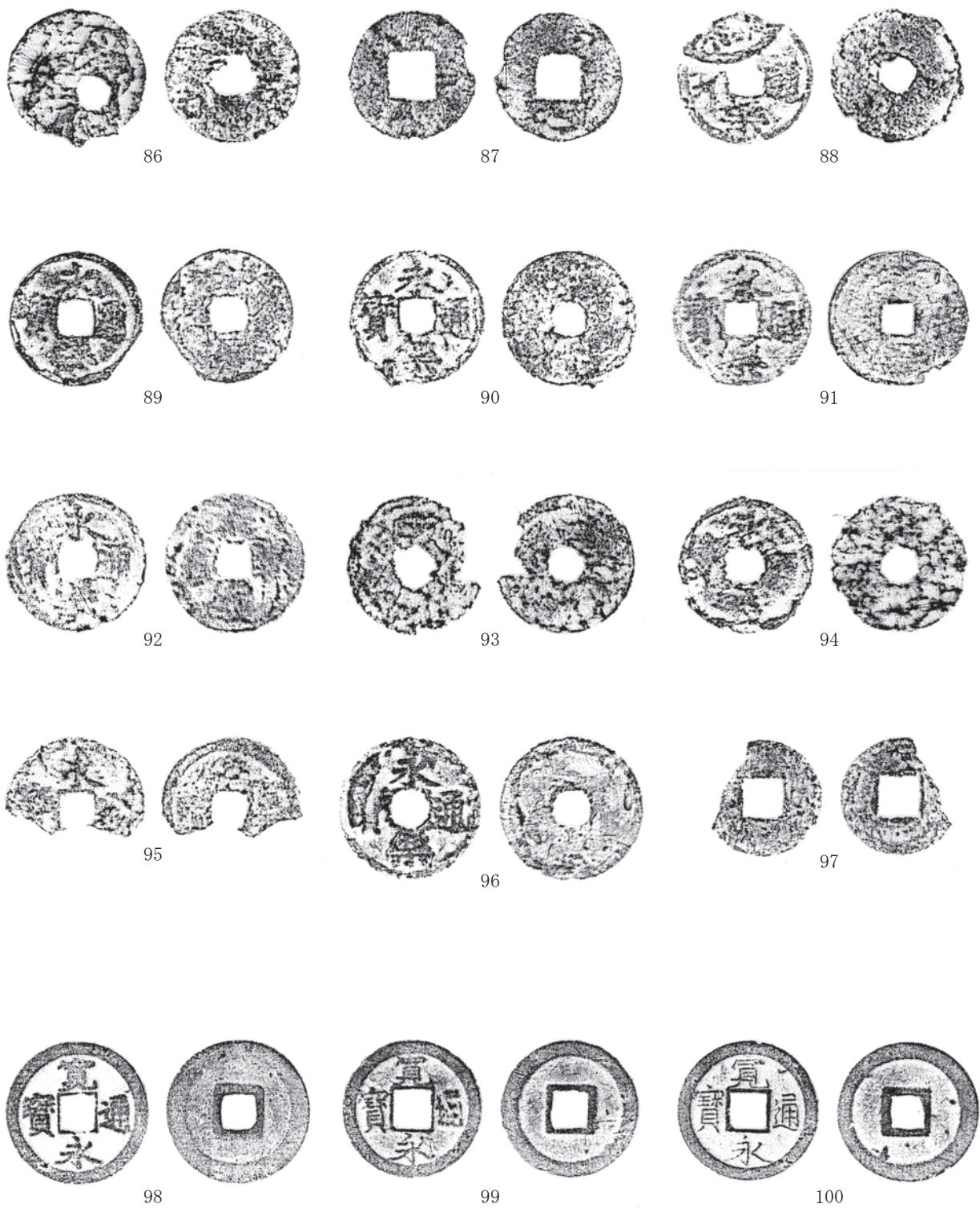




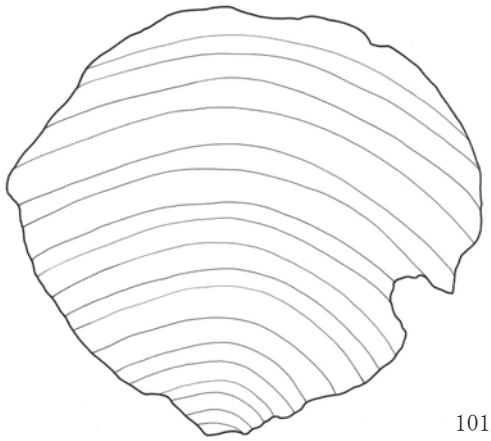
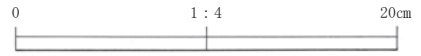
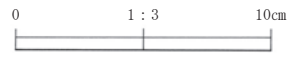
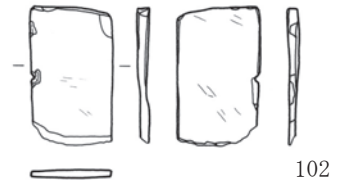
第26図 出土遺物 4



第27図 出土遺物5



第28図 出土遺物 6



第29図 出土遺物 7

第2表 堀跡・溝跡観察表

単位：m

遺構	位置	規模 長さ・幅・深さ	埋土、重複など	出土遺物時期	その他
1号堀跡	平場1	(14.8)/4.9/(1.4~2.1)	底面から下位にある褐色土は自然堆積で中世末頃のもの 埋土上位は近世以降の人為堆積	16世紀後半	堀跡法面に橋などの施設痕跡なし
1号溝跡	平場1	(4.9)/0.3/0.1	北北東-南南西 暗褐色土に地山ブロックと炭粒を微量に含む	中世か	
2号溝跡	平場1	(4.0)/0.9/0.1	円形に巡るか? 礫を多く含む暗褐色土	中世か	石を積んだ塚のような施設の周溝か
3号溝跡	平場1	(13.5)/0.3~1.2/0.1~0.2	北北西-南 黒褐色土主体の自然堆積であろう 1号堀跡より新しい	近世以降	
4号溝跡	平場1	(1.5)/0.3/0.1	北-南 礫を微量に含む暗褐色土 人為堆積 9号土坑よりは古い	中世か	
5号溝跡	平場2	(4.0)/0.4/0.2	東-西 黒褐色土に地山ブロックと炭粒が少量混じる人為堆積か 19号土坑より新しい	近世	
6号溝跡	平場2	(3.8)/0.8/0.1	北-南 人為堆積か	近世か	
7号溝跡	平場2	(0.5)/0.3/0.3	北東-南西 地山ブロックを少量含む灰黄褐色土 人為堆積	近世か	柵のような施設か
8号溝跡	平場2	(7.0)/0.8/0.3	東北東-西南西 地山ブロックや小礫などを含む 人為堆積 重複する柱穴より古い	中世か	
9号溝跡	平場2	(3.6)/1.1/0.1	北東-西 灰黄褐色土 5号溝より古い	中世か	

第3表 井戸跡・土坑観察表

単位：m

遺構名	位置	規模 長軸・短軸・深さ	底面	埋土・重複など	出土遺物時期	その他
1号井戸跡	平場2	1.4/(0.4)/(1.2)	不明	地山ブロックと黒褐色土による人為堆積	近世か	
1号土坑	平場1	0.8/(0.4)/0.2	平坦	地山ブロックや炭粒・礫を含む人為堆積	中世か	
2号土坑	平場1	1.0/(0.4)/0.2	平坦	地山ブロックや炭粒・礫を含む人為堆積	中世か	1号土坑に似る
3号土坑	平場1	0.8/0.8/0.2	平坦	地山ブロックや炭粒を含む人為堆積		
4号土坑	平場1	0.8/(0.6)/0.1	平坦	地山ブロックや炭粒・礫を含む人為堆積		
5号土坑	平場1	(1.2)/(0.4)/0.2	凹凸	黒褐色土主体の自然堆積	中世か	
6号土坑	平場1	1.1/(0.4)/0.3	丸み	地山ブロックや炭粒・礫を含む人為堆積		
7号土坑	平場1	1.2/0.9/1.0	丸み	地山ブロックに礫も含んだ人為堆積		
8号土坑	平場1	0.7/0.7/0.1	平坦	地山ブロックと炭粒を含んだ人為堆積		
9号土坑	平場1	150/(120)/65	凹凸	地山ブロックや炭粒・礫を含む人為堆積	近世か	墓塚か
10号土坑	平場2	(1.2)/0.9/0.2	丸み	地山ブロックや炭粒・礫を含む人為堆積	近世か	
11号土坑	平場2	1.6/(1.5)/0.2	丸み	人為堆積	18c 染付片	
12号土坑	平場2	1.3/(0.9)/0.2	丸み	地山ブロックや炭粒・礫を含む人為堆積	近世か	
13号土坑	平場2	1.9/0.9/0.2	平坦	人為堆積 底面に板材を敷く	近世以降か	
14号土坑	平場2	(1.8)/0.7/0.3	平坦	人為堆積	近世以降か	
15号土坑				欠番		
16号土坑	平場2	0.9/(0.6)/0.9	凹凸	人為堆積	近世か	
17号土坑	平場2	(0.9)/(0.5)/0.9	丸み	人為堆積	近世か	
18号土坑	平場2	0.9/0.6/0.7	丸み	人為堆積	近世か	
19号土坑	平場2	(1.9)/(1.2)/0.4	平坦	人為堆積	近世か	
20号土坑	平場2	3.1/2.7/0.4	平坦	底面に泥とシルトのラミナ これが埋め戻されている	近世以降か	水を溜める施設か

第4表 柱穴観察表

遺構名	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	遺構名	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)
P01	16.7	13.3	19.8	P46	60.7	49.6	29.7
P02	27.5	24.3	20.0	P47	30.4	25.0	39.0
P03	21.8	19.3	12.3	P48	62.5	40.8	60.7
P04	55.9	45.4	12.4	P49	33.6	22.6	26.4
P05	27.7	24.5	5.7	P50	27.2	24.3	23.1
P06	44.6	(37.5)	16.2	P51	44.5	40.3	12.6
P07	30.3	25.5	9.2	P52	34.6	27.8	34.3
P08	13.1	12.5	29.6	P53	41.6	39.8	83.5
P09	48.0	47.5	13.9	P54	30.2	27.8	49.5
P10	53.0	42.7	13.9	P55	35.3	32.2	31.4
P11	39.7	31.8	12.9	P56	42.4	32.6	34.2
P12	53.4	36.0	10.6	P57	31.0	29.7	28.8
P13	35.2	28.7	20.6	P58	54.1	51.5	49.8
P14	32.5	29.5	21.2	P59	34.1	31.7	46.3
P15	61.6	53.0	26.8	P60	59.0	51.9	68.0
P16	41.0	37.4	15.2	P61	50.3	35.5	20.7
P17	11.9	9.3	6.6	P62	84.3	57.1	70.1
P18	20.3	19.3	15.3	P63	27.0	25.6	21.7
P19	29.1	(12.7)	6.8	P64	(19.9)	23.1	28.4
P20	24.9	19.7	18.3	P65	64.3	48.8	103.4
P21	16.1	15.1	15.2	P66	65.8	60.2	101.4
P22	29.4	26.9	9.9	P67	28.9	21.0	11.3
P23	14.1	9.7	5.1	P68	(40.6)	36.5	63.2
P24	50.4	22.4	24.0	P69	33.9	30.0	22.3
P25	43.8	42.1	8.3	P70	33.0	31.0	20.0
P26	32.9	28.1	29.1	P71	37.8	35.4	29.2
P27	27.5	16.4	13.9	P72	32.7	29.3	15.8
P28	(36.8)	30.6	12.7	P73	36.1	27.1	34.4
P29	14.4	11.8	20.5	P74	26.5	21.2	19.6
P30	56.8	46.2	14.9	P75	32.6	27.1	22.6
P31	(93.9)	93.4	110.1	P76	68.1	62.8	56.6
P32	102.4	89.9	67.0	P77	45.2	45.1	25.5
P33	56.4	47.7	52.7	P78	65.4	54.9	66.6
P34	101.6	89.7	127.2	P79	22.6	17.6	30.8
P35	(64.5)	61.5	68.7	P80	19.8	18.5	23.6
P36	73.9	53.3	73.3	P81	65.9	61.9	44.9
P37	32.7	21.1	10.2	P82	26.0	20.5	21.4
P38	23.8	20.3	18.5	P83	34.7	31.5	45.4
P39	27.8	24.2	17.3	P84	104.2	87.7	103.7
P40	39.3	35.2	52.3	P85	(81.2)	69.4	58.0
P41	34.4	29.5	18.7	P86	69.0	49.9	64.9
P42	37.1	31.9	20.6	P87	48.3	47.6	65.6
P43	22.1	21.3	34.6	P88	36.0	31.0	34.4
P44	22.2	20.2	18.5	P89	(40.2)	36.8	59.1
P45	26.3	23.8	33.0	P90	(20.5)	19.2	23.9

第4表 柱穴観察表

遺構名	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	遺構名	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)
P91	30.9	30.1	52.2	P135	71.0	66.5	94.3
P92	24.2	21.4	13.8	P136	43.4	40.4	33.1
P93	25.4	19.8	6.4	P137	32.6	22.9	32.8
P94	63.1	55.5	31.6	P138	27.0	21.3	16.5
P95	59.3	57.4	48.2	P139	51.0	(25.9)	65.9
P96	34.4	32.5	17.6	P140	23.1	18.2	11.9
P97	31.1	27.0	32.1	P141	18.7	16.5	10.2
P98	26.0	17.7	43.5	P142	34.1	27.3	37.9
P99	55.2	44.7	75.0	P143	33.4	33.3	18.9
P100	24.4	20.0	40.3	P144	27.4	21.5	27.3
P101	62.5	58.4	39.8	P145	22.8	20.0	14.2
P102	34.0	27.5	35.5	P146	25.7	21.1	38.4
P103	37.7	30.1	18.7	P147	22.0	20.4	13.6
P104	29.6	29.2	42.0	P148	42.3	38.2	35.5
P105	25.3	23.0	41.3	P149	72.9	70.5	49.6
P106	18.7	18.5	15.2	P150	31.0	28.6	18.9
P107	48.1	45.7	65.2	P151	70.5	55.9	69.2
P108	23.6	21.0	28.4	P152	72.5	47.5	43.1
P109	37.4	31.8	5.7	P153	38.2	28.6	33.4
P110	25.0	24.0	36.1	P154	27.0	(21.4)	19.8
P111	32.8	26.9	40.9	P155	48.4	40.5	56.2
P112	40.8	37.3	42.9	P156	(20.2)	16.7	26.0
P113	29.9	(15.7)	48.6	P157	48.7	30.5	61.8
P114	(31.0)	35.3	39.6	P158	41.2	(25.2)	82.1
P115	22.2	19.2	35.6	P159	(36.8)	30.0	16.8
P116	25.2	14.2	49.0	P160	39.8	31.0	24.0
P117	72.6	60.9	56.5	P161	37.9	(30.3)	89.3
P118	30.1	28.5	12.5	P162	41.4	(33.0)	84.5
P119	34.7	22.6	42.5	P163	36.1	27.4	52.2
P120	41.5	40.2	43.5	P164	37.7	(19.5)	67.5
P121	30.9	21.2	17.0	P165	56.9	41.9	9.3
P122	25.8	23.4	25.9	P166	25.8	23.2	36.9
P123	58.2	45.8	70.8	P167	(28.4)	28.1	15.1
P124	43.3	38.0	83.1	P168	(35.3)	45.5	76.4
P125	(41.6)	46.8	12.1	P169	(30.4)	40.7	59.2
P126	30.7	29.9	27.3	P170	25.3	22.4	24.3
P127	41.6	39.6	67.9	P171	48.5	38.6	26.5
P128	48.2	(15.4)	26.0	P172	98.0	82.4	70.4
P129	69.0	65.2	40.3	P173	39.2	35.7	43.6
P130	29.4	26.4	23.2	P174	21.8	17.0	38.0
P131	40.7	(28.0)	52.6	P175	27.5	25.0	12.4
P132	(27.2)	27.4	63.3	P176	(21.7)	45.6	66.3
P133	(39.8)	45.2	22.3	P177	55.3	45.7	75.9
P134	40.4	31.9	41.6	P178	42.4	(39.5)	37.2

第4表 柱穴観察表

遺構名	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	遺構名	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)
P179	37.5	29.6	15.9	P223	33.6	31.9	28.0
P180	61.4	50.4	48.8	P224	24.2	21.5	14.8
P181	34.5	31.0	28.3	P225	(44.6)	44.5	69.5
P182	21.3	18.9	11.6	P226	(52.4)	(19.0)	39.5
P183	29.6	23.9	18.7	P227	32.2	28.4	31.5
P184	35.0	29.9	30.1	P228	40.9	36.9	17.2
P185	39.9	33.7	35.7	P229	41.1	39.1	47.2
P186	27.1	(16.6)	27.7	P230	46.5	37.7	24.3
P187	40.8	(34.9)	35.3	P231	46.7	(32.2)	21.6
P188	31.2	29.3	28.9	P232	28.2	24.0	22.6
P189	34.1	30.8	31.4	P233	45.8	45.5	34.4
P190	55.0	51.2	42.1	P234	28.8	23.7	19.3
P191	62.0	57.6	53.6	P235	28.8	24.0	19.2
P192	24.0	22.1	29.9	P236	32.0	29.2	17.3
P193	34.3	(19.0)	41.4	P237	(22.8)	25.2	4.8
P194	(34.1)	39.4	60.6	P238	43.9	(23.2)	34.0
P195	28.2	(21.1)	31.9	P239	29.6	24.3	19.2
P196	28.6	25.5	26.5	P240	104.7	(-)	25.8
P197	26.8	26.3	16.8	P241	66.1	(15.8)	36.5
P198	38.0	30.8	22.9	P242	103.0	(10.6)	49.9
P199	(14.6)	21.6	13.9	P243	61.2	55.1	65.3
P200	24.6	18.0	14.6	P244	99.1	80.8	71.9
P201	31.9	31.7	25.9	P245	(54.6)	45.3	60.0
P202	67.8	(33.3)	76.5	P246	(91.7)	81.2	125.2
P203	36.4	32.3	27.0	P247	39.8	38.7	13.8
P204	49.8	38.3	50.9	P248	29.9	24.1	530.0
P205	52.0	51.4	43.2	P249	65.8	58.3	36.2
P206	23.3	20.8	20.6	P250	38.1	(27.0)	47.3
P207	38.5	32.9	24.6	P251	77.2	(42.3)	24.1
P208	28.9	24.1	25.7	P252	29.5	24.9	10.3
P209	32.5	29.3	38.1	P253	(51.2)	(50.2)	76.3
P210	45.4	34.9	43.4	P254	63.6	58.6	63.1
P211	65.8	49.7	16.6	P255	34.2	31.0	41.8
P212	(26.1)	28.4	16.1	P256	24.1	21.2	11.7
P213	32.3	27.1	38.8	P257	29.3	26.3	13.6
P214	(55.0)	54.6	24.3	P258	22.2	19.0	20.7
P215	41.2	33.3	12.5	P259	30.2	28.9	18.1
P216	37.1	(11.3)	22.5	P260	29.7	21.8	23.3
P217	28.3	(18.9)	26.3	P261	15.5	(7.0)	8.0
P218	37.8	32.9	11.4	P262	37.4	37.2	78.5
P219	(59.8)	57.3	81.8	P263	50.4	47.9	38.7
P220	45.8	(38.2)	56.4	P264	44.4	41.7	43.9
P221	32.3	30.4	27.1	P265	42.6	36.1	31.6
P222	29.9	26.6	32.1	P266	58.6	54.2	72.6



第5表 陶磁器ほか観察表

掲載 番号	出土位置、層位	種類	器種	計測値 (cm)			部位	年代	備考
				口径	底径	器高			
1	1号堀埋土上位	瀬戸美濃	灰釉碗				口縁部	16C	
2	柱穴149又は172埋土	瀬戸美濃	皿	(11.00)	5.9	2.30	口縁～底部	16C後半	灰釉
3	攪乱	国産陶器	不明				口縁部	中世	
4	1号堀埋土上位～中位	国産陶器	播鉢				胴部	中世	近世か、無釉 産地不明
5	柱穴158埋土	白磁	碗?				胴部	中世	
6	柱穴152埋土	中国産 染付	皿				口縁部	16Cか	
7	柱穴62埋土	青白磁?	壺類				底部	中世	内面無釉、外面 釉薬あり
8	13号土坑 埋土	肥前	染付碗				口縁	18c	近世
9	1号堀跡 埋土	肥前	碗Ⅳ	(10.00)		(4.30)	口縁～高台	近世	18c
10	1号堀 埋土	磁器 (染付)	碗Ⅴ期				口縁～底部	近世	肥前18c後
11	1号堀跡1層 埋 土上位	肥前	染付碗		3.60	(2.40)	底部	18c	近世
12	1号堀跡1層	磁器	染付碗	(10.40)	4.4	5.70	口縁～高台	近世	産地不明
13	1号堀跡埋土上～中 位	肥前染付	碗				口縁～底部	近世	18c
14	平場2 1号堀 検 出面	肥前	染付皿	(12.80)	(7.30)	3.95	口縁～高台	18C後	
15	1号堀跡1層	肥前	皿	(19.40)	9.80	4.50	口縁～高台	18c後	
16	1号堀跡 埋土	肥前染付	皿				底部	近世	18c後～
17	平場2 攪乱	磁器	染付鉢		(4.40)	(1.70)	底部	19c	肥前ではない
18	1号堀跡1層	肥前	皿	(16.60)		(2.05)	口縁	18c	近世
19	1号堀跡1層	肥前	陶器碗		4.80	(2.80)	高台	18c後	
20	平場2 南 攪乱	磁器	陶器碗		(7.00)	(5.20)	底部	近世?	
21	1号堀跡1層	肥前	皿	(11.60)		(2.10)	口縁	18c	近世 内面藁 灰、外面透明 釉
22	平場2 攪乱	肥前	大鉢		(10.30)	(3.35)	高台	18～19c	
23	平場2 南端攪乱	陶器	不明		(10.30)	(2.25)	高台	19c～	
24	1号堀跡 埋土上～ 中位	肥前	陶器皿	(33.20)		(5.50)	口縁	近世	白化粧
25	1号堀跡 埋土	陶器	土瓶?		(8.00)	(3.40)	底部	近世	透明な釉 19 c～産地不明
26	1号堀跡 埋土上～ 中位	陶器	鉢類?		(12.00)	(11.40)	底部	近・現代	鉄釉19c～東 北在地か、重 ね焼き痕
27	1号堀跡 埋土上～ 中位	肥前	播鉢			(6.30)	口縁	近世	8aと同じ
28	1号堀跡 埋土上～ 中位	肥前	播鉢			(7.70)	口縁	近世	8bと同じ1 9c
29	1号堀跡1層 埋 土上位	陶器	香炉?			(4.10)	口縁	19c	近世 内透明 釉 外鉄釉
30	1号堀跡の上面の攪 乱	陶器	陶器台	(25.60)	(30.00)	6.85	台部	近世	外面横方向に 細いケズリ
103	平場2 表土	土器	甕?				胴部	縄文?	

第6表 銭貨観察表

掲載 番号	出土位置	層位	古銭名	計測値 (cm)				重量 (g)	金属 種類	時期ほか
				外径縦	外径横	内径	厚さ			
32	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.36	2.36	0.50	0.19	4.50	銅	1411始鑄
33	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.4	2.4	0.6	0.13	2.7	銅	1411始鑄
34	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.37	2.36	0.59	0.11	1.8	銅	1411始鑄
35	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.32	2.3	0.62	0.18	1.3	銅	1411始鑄
36	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.35	2.36	0.53	0.12	1.6	銅	1411始鑄
37	1号竪穴建物跡	埋土	不明	2.05	2.03	0.62	0.08	1	銅	中世
38	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.32	(2.22)	0.54	0.08	(1.20)	銅	1411始鑄
39	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝?	2.41	(2.13)	0.54	0.11	(1.60)	銅	1411始鑄
40	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.35	(1.71)	0.56	0.11	(0.90)	銅	1411始鑄
41	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.28	2.28	0.56	0.14	2.7	銅	1411始鑄
42	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.3	2.26	0.56	0.09	1.5	銅	1411始鑄
43	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.29	2.29	0.53	0.07	1.3	銅	1411始鑄
44	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.27	2.27	0.58	0.1	1.3	銅	1411始鑄
45	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.43	2.44	0.54	0.14	2.5	銅	1411始鑄
46	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.35	2.34	0.67	0.13	2.4	銅	1411始鑄
47	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.37	2.36	0.54	0.12	1.9	銅	1411始鑄
48	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.33	2.33	0.56	0.12	2.1	銅	1411始鑄
49	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.37	2.77	0.56	0.11	1.9	銅	1411始鑄
50	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.33	2.34	0.51	0.12	2.6	銅	1411始鑄
51	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.36	2.35	0.53	0.13	2.3	銅	1411始鑄
52	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.41	2.38	0.57	0.12	2	銅	1411始鑄
53	1号竪穴建物跡	埋土	洪武通宝	2.22	2.22	0.65	0.13	1.6	銅	1368年始鑄
54	1号竪穴建物跡	埋土	洪武通宝	2.21	2.22	0.58	0.13	2.3	銅	1368年始鑄
55	1号竪穴建物跡	埋土	不明	2.3	2.28	0.6	0.11	1.6	銅	中世
56	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.24	2.24	0.54	0.11	2	銅	1411始鑄
57	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.39	2.41	0.58	0.19	1.8	銅	1411始鑄
58	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.41	2.39	0.65	0.1	1.8	銅	1411始鑄
59	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.31	2.3	0.51	0.16	2.6	銅	1411始鑄
60	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.39	2.38	0.6	0.1	1.9	銅	1411始鑄
61	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.32	2.36	0.56	0.1	1.7	銅	1411始鑄
62	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.36	2.39	0.53	0.13	2.8	銅	1411始鑄
63	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.36	2.36	0.53	0.09	1.8	銅	1411始鑄
64	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.3	2.29	0.59	0.08	1.3	銅	1411始鑄
65	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.37	2.29	0.55	0.11	1.4	銅	1411始鑄
66	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.32	2.34	0.55	0.11	1.8	銅	1411始鑄
67	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.36	2.33	0.57	0.1	1.6	銅	1411始鑄
68	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.38	2.38	0.55	0.09	2.2	銅	1411始鑄
69	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.31	2.34	0.6	0.11	1.6	銅	1411始鑄
70	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.38	2.38	0.54	0.11	2.6	銅	1411始鑄
71	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.36	2.36	0.58	0.12	2.2	銅	1411始鑄
72	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.41	2.41	0.59	0.11	1.8	銅	1411始鑄
73	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.4	2.38	0.57	0.11	1.9	銅	1411始鑄
74	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.3	2.3	0.62	0.07	1.1	銅	1411始鑄
75	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.3	2.34	0.55	0.11	1.5	銅	1411始鑄
76	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.37	2.36	0.57	0.12	2.1	銅	1411始鑄
77	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.42	2.43	0.56	0.13	2.5	銅	1411始鑄
78	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.36	23.5	0.55	0.1	2	銅	1411始鑄
79	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.32	2.33	0.57	0.11	1.7	銅	1411始鑄
80	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.32	2.34	0.56	0.1	1.8	銅	1411始鑄
81	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.39	2.28	0.56	0.09	1.3	銅	1411始鑄
82	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.34	2.33	0.58	0.11	1.9	銅	1411始鑄

第6表 銭貨観察表

掲載番号	出土位置	層位	古銭名	計測値 (cm)				重量 (g)	金属種類	時期ほか
				外径縦	外径横	内径	厚さ			
83	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.28	2.27	0.48	0.18	1.1	銅	1411始鑄
84	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.4	2.41	0.61	0.1	2.1	銅	1411始鑄
85	1号竪穴建物跡	埋土	洪武通宝?	2.17	2.15	0.65	0.1	1.4	銅	1368年始鑄
86	1号竪穴建物跡	埋土	不明	2.28	2.28	0.59	0.24	3.2	銅	中世2枚くつついている
87	1号竪穴建物跡	埋土	不明	2.16	2.14	0.74	0.12	1.8	銅	中世他銭一部くつついている
88	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.22	2.25	0.59	0.13	1.7	銅	1411始鑄
89	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.24	2.22	0.61	0.08	1.4	銅	1411始鑄
90	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.25	2.25	0.56	0.1	1.4	銅	1411始鑄
91	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.26	2.33	0.55	0.11	1.4	銅	1411始鑄
92	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.35	2.35	0.6	0.08	1.4	銅	1411始鑄
93	1号竪穴建物跡	埋土	不明	2.33	2.21	0.62	0.14	1.2	銅	中世
94	1号竪穴建物跡	埋土	不明	2.32	2.26	0.63	0.11	1.4	銅	中世
95	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	(1.66)	2.37	0.57	0.1	(1.20)	銅	1411始鑄
96	1号竪穴建物跡	埋土	永楽通宝	2.39	2.38	0.68	0.12	2.6	銅	1411始鑄
97	1号竪穴建物跡	埋土	不明	1.98	1.85	0.75	0.08	0.8	銅	中世
98	1号堀跡	1層	寛永通宝	2.40	2.41	0.56	0.12	2.90	銅	近世
99	1号堀跡	1層	寛永通宝	2.34	2.34	0.61	0.12	2.70	銅	近世
100	1号堀跡	1層	寛永通宝	2.37	2.38	0.57	0.13	3.30	銅	近世
104	1号竪穴建物	埋土	不明					1.2	銅	中世 破片計測不能
不掲載	号竪穴建物1	埋土	不明					(1.60)	銅	中世破片計測不可

第7表 瓦観察表

掲載番号	出土位置、層位	種類	計測値 (cm)			備考
			長さ	幅	厚さ	
31	平場2南端攪乱	平瓦	14.3	13.8	1.7	「く」の字になっている鉄軸全面

第8表 木製品観察表

掲載番号	仮番号	出土位置、層位	種類	計測値 (cm)			重量 (g)	備考
				長さ	幅	厚さ		
101	—	柱穴84	柱	(50.40)	28.20	(22.50)	8.90	1号掘立柱建物跡

第9表 金属製品観察表

掲載番号	仮番号	出土位置、層位	種類	計測値 (cm)			重量 (g)	備考
				長さ	幅	厚さ		
105	20	平場1 表土	釘	7.90	1.20	0.60		

第10表 石器類観察表

掲載番号	仮番号	出土位置、層位	種類	計測値 (cm)			重量 (g)	備考
				長さ	幅	厚さ		
102	19	柱穴146 埋土	砥石	(5.40)	3.20	0.50		

## V 自然科学分析

### 館岡Ⅱ遺跡における放射性炭素年代(AMS測定) (株)加速器分析研究所

#### 1 測定対象試料

館岡Ⅱ遺跡は、岩手県西磐井郡平泉町平泉字長島(北緯38° 59' 6"、東経41° 8' 26")に所在し、北上川東岸の河岸段丘面に立地する。測定対象試料は、土坑、溝跡、柱穴から出土した炭化物10点である(表1)。

#### 2 測定の意義

遺跡内に位置する複数の遺構の前後関係および遺跡の継続期間を明らかにする。

#### 3 化学処理工程

(1)メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。

(2)酸-アルカリ-酸(AAA: Acid Alkali Acid)処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1mol/l(1M)の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。

(3)試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を発生させる。

(4)真空ラインで二酸化炭素を精製する。

(5)精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。

(6)グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

#### 4 測定方法

加速器をベースとした<sup>14</sup>C-AMS専用装置(NEC社製)を使用し、<sup>14</sup>Cの計数、<sup>13</sup>C濃度(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)、<sup>14</sup>C濃度(<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C)の測定を行う。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOx II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

#### 5 算出方法

(1)δ<sup>13</sup>Cは、試料炭素の<sup>13</sup>C濃度(<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表した値である(表1)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

(2)<sup>14</sup>C年代(Libby Age: yrBP)は、過去の大気中<sup>14</sup>C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polach 1977)。<sup>14</sup>C年代はδ<sup>13</sup>Cによって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。<sup>14</sup>C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、<sup>14</sup>C年代の誤差(±1σ)は、試料の<sup>14</sup>C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

(3)pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の<sup>14</sup>C濃度の割合である。pMCが小さい(<sup>14</sup>Cが少ない)ほど古い年代を示し、pMCが100以上(<sup>14</sup>Cの量が標準現代炭素と同等以上)の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。

(4)暦年較正年代とは、年代が既知の試料の<sup>14</sup>C濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の<sup>14</sup>C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、<sup>14</sup>C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差(1 $\sigma$ =68.2%)あるいは2標準偏差(2 $\sigma$ =95.4%)で表示される。グラフの縦軸が<sup>14</sup>C年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない<sup>14</sup>C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース(Reimer et al. 2013)を用い、OxCalv4.2較正プログラム(Bronk Ramsey 2009)を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、<sup>14</sup>C年代に基づいて較正(calibrate)された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」)という単位で表される。

## 6 測定結果

測定結果を表1、2に示す。試料10点の<sup>14</sup>C年代は、2920 ± 30yrBP(No. 8)から170 ± 20yrBP(No. 3)の広い年代幅を持ち、200 ~ 300yrBP前後のものが多い。暦年較正年代(1 $\sigma$ )は、最も古いNo. 8が縄文時代晩期初頭から前葉頃に相当する(小林編2008)。これに次いで、古い方から順にNo. 4が685 ~ 767cal ADの間に2つの範囲、No. 6が1440 ~ 1466cal ADの範囲、No. 9が1526 ~ 1655cal ADの間に2つの範囲で示される。No. 7はNo. 6とほぼ同年代、No. 1 ~ 3、5、10は17世紀後半から1950年までの範囲となっているが、これら6点の較正年代については、記載された値よりも新しい可能性がある点に注意を要する(表2下の警告参照)。

試料の炭素含有率は、No. 9を除く9点が約50%以上の適正な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。No. 9は、土に含まれる炭化物を採取して試料としたが、土を完全に除去できなかったことが観察されている。炭素含有率は24%という低い値で、測定された炭素の由来に注意を要する。

表1 放射性炭素年代測定結果( $\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

試料名	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-142848	No. 1	1号土坑 2層	炭化物	AAA	-24.91 ± 0.62	210 ± 20	97.39 ± 0.29
IAAA-142849	No. 2	3号土坑 埋土	炭化物	AAA	-25.81 ± 0.64	200 ± 20	97.57 ± 0.29
IAAA-142850	No. 3	8号土坑 1層	炭化物	AAA	-24.55 ± 0.26	170 ± 20	97.95 ± 0.29
IAAA-142851	No. 4	2号溝跡 埋土	炭化物	AAA	-27.09 ± 0.51	1,280 ± 20	85.29 ± 0.26
IAAA-142852	No. 5	柱穴 (SP) 34 埋土	炭化物	AAA	-26.22 ± 0.73	210 ± 20	97.40 ± 0.30
IAAA-142853	No. 6	柱穴 (SP) 53 埋土	炭化物	AAA	-26.31 ± 0.49	420 ± 20	94.86 ± 0.29
IAAA-142854	No. 7	柱穴 (SP) 81 埋土	炭化物	AAA	-23.93 ± 0.53	270 ± 20	96.70 ± 0.28
IAAA-142855	No. 8	柱穴 (SP) 62 埋土	炭化物	AAA	-27.62 ± 0.51	2,920 ± 30	69.53 ± 0.23
IAAA-142856	No. 9	柱穴 (SP) 112 埋土	炭化物	AaA	-24.43 ± 0.49	280 ± 20	96.58 ± 0.29
IAAA-142857	No. 10	柱穴 (SP) 174 埋土	炭化物	AaA	-30.08 ± 0.44	200 ± 20	97.59 ± 0.28

表2 放射性炭素年代測定結果( $\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用<sup>14</sup>C年代、較正年代)(1)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-142848	210 ± 20	97.41 ± 0.26	212 ± 23	1654calAD - 1670calAD (22.5%)*	1647calAD - 1682calAD (32.5%)*
IAAA-142849	210 ± 20	97.40 ± 0.26	198 ± 24	1662calAD - 1680calAD (16.7%)**	1653calAD - 1684calAD (23.0%)**
IAAA-142850	160 ± 20	98.05 ± 0.29	166 ± 23	1670calAD - 1682calAD (10.6%)**	1665calAD - 1696calAD (16.9%)**
IAAA-142851	1,310 ± 20	84.93 ± 0.24	1,277 ± 24	685calAD - 720calAD (39.2%)*	673calAD - 770calAD (95.4%)*
IAAA-142852	230 ± 20	97.16 ± 0.26	211 ± 24	1653calAD - 1674calAD (24.1%)*	1647calAD - 1683calAD (31.3%)*
IAAA-142853	450 ± 20	94.61 ± 0.27	423 ± 24	1440calAD - 1466calAD (68.2%)*	1430calAD - 1492calAD (93.1%)*

表2 放射性炭素年代測定結果 ( $\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 $^{14}\text{C}$ 年代、較正年代) (2)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-142854	250 $\pm$ 20	96.92 $\pm$ 0.26	269 $\pm$ 23	1530calAD - 1541calAD (12.7%)*	1521calAD - 1575calAD (32.1%)*
IAAA-142855	2,960 $\pm$ 20	69.16 $\pm$ 0.21	2,919 $\pm$ 26	1191calBC - 1177calBC (7.5%)	1209calBC - 1024calBC (95.4%)
IAAA-142856	270 $\pm$ 20	96.69 $\pm$ 0.28	279 $\pm$ 24	1526calAD - 1556calAD (34.4%)	1518calAD - 1594calAD (51.5%)
IAAA-142857	280 $\pm$ 20	96.58 $\pm$ 0.27	195 $\pm$ 23	1663calAD - 1680calAD (15.9%)**	1656calAD - 1684calAD (21.4%)**

[参考値]

\* Warning! Date may extend out of range

\*\* Warning! Date may extend out of range

Warning! Date probably out of range

(これらの警告は較正プログラム 0xCal が発するもので、試料の $^{14}\text{C}$ 年代に対応する較正年代が、当該暦年較正曲線で較正可能な範囲を超える新しい年代となる可能性があることを表す。\*、\*\*の順にその可能性が高くなる。)

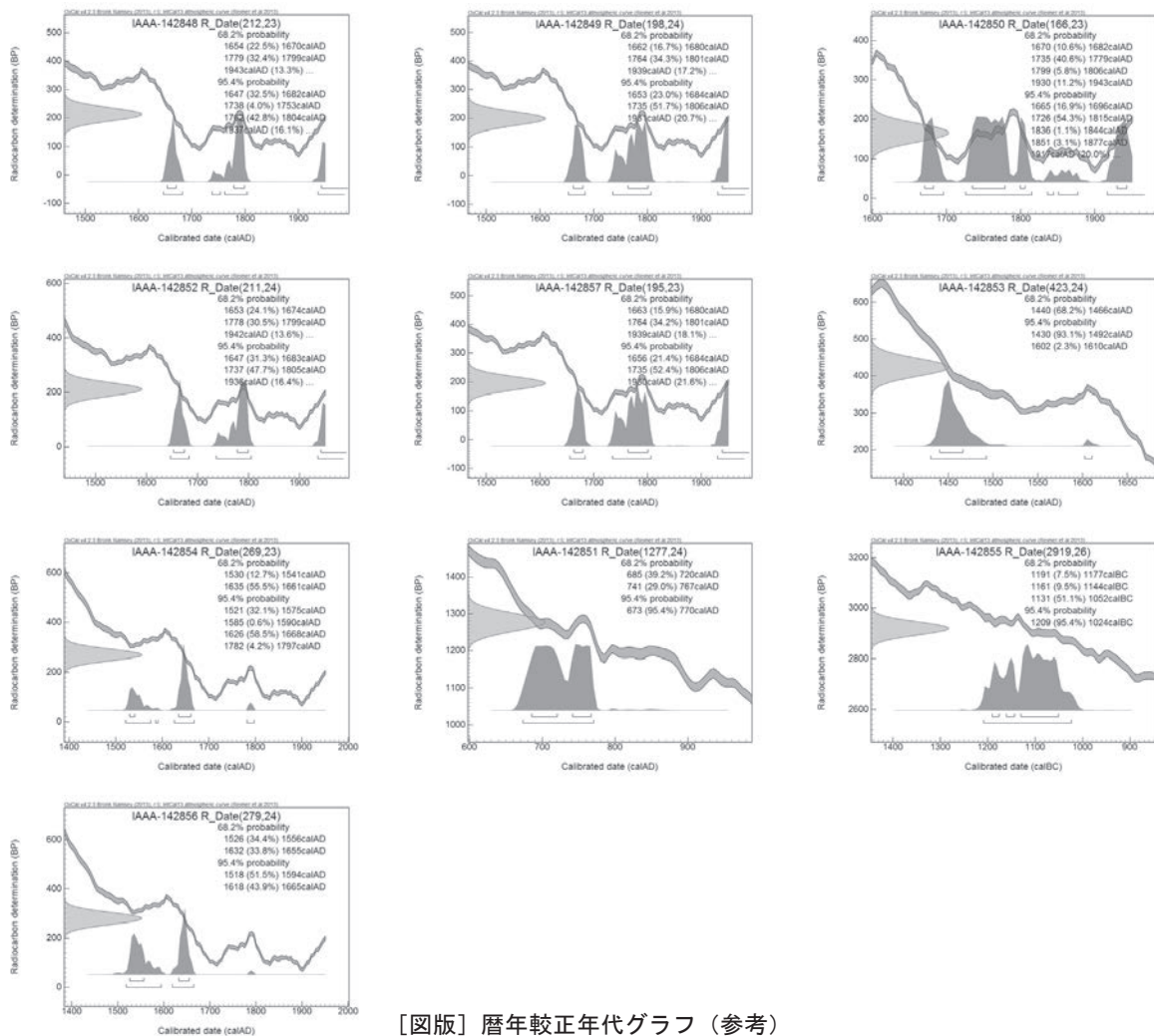
文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), 337-360

小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 55(4), 1869-1887

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of  $^{14}\text{C}$  data, Radiocarbon 19(3), 355-363



[図版] 暦年較正年代グラフ (参考)

## VI 総括(調査のまとめ)

野外調査で得られた成果と分析鑑定によって明らかになったこと、周辺遺跡での調査成果などを合わせて現段階で類推される遺跡の内容について以下に列記して調査のまとめに代えたい。

遺跡は西磐井郡平泉町長島字館岡地内にある。遺跡として登録されている範囲は東西約200m×南北約260mと広く、調査区の現況は住宅地と畑地、遺跡の現況は農地と宅地、杉林等になっている。今回の調査地点は館岡Ⅱ遺跡の南端に近い部分にあたる。

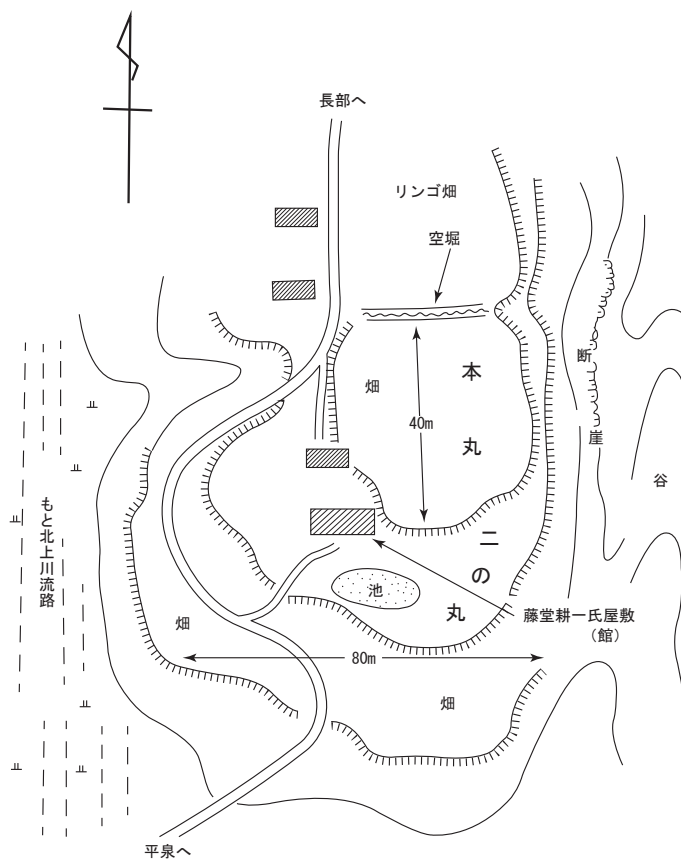
検出された遺構については大きく2時期に分けられた。第一に中世後半の遺構である。16世紀後半の堀跡1条、竪穴建物跡1棟、土坑3基、溝跡4条が確認されている。第二は近世及びそれ以降の遺構群である。18世紀後半以降の掘立柱建物跡7棟、井戸跡1基、土坑11基、溝跡4条、柱穴266個が検出されている。縄文時代の石器が出土しているが、その時期の遺構は無い。近・現代の陶磁器類・金属製品なども多く出土したが、遺構は攪乱扱いとした。時期不明の遺構もある。

江戸時代の史料「風土記御用書出」、「仙台領古城書上」にはこの地に城館(古館)があったことを記している。また城主は葛西家臣小島三左衛門の名がある。「葛西真記録」ではこの時期、長島地区の猪岡館に猪岡玄蕃、長部城に葛西家臣長部兵部太夫が居城していたとしており、北上川東岸の各地区に城館が築かれていた状況を窺い知ることができる。

旧仙台藩領内に分布する中世城館を広く踏査した紫桃正隆氏の「仙台領内古城・館」によると平泉町内の古城・館として15カ城が示されている。その中の「西館(古館)」が館岡Ⅰ遺跡に相当する(遺跡としての館岡Ⅰ遺跡の範囲は西館の城域よりも広く括られている)。

館岡Ⅱ遺跡も館岡Ⅰ遺跡に南隣し、中世の城館跡として登録されていたが、過去に発掘調査されたことが無く今回発見された堀跡も、これまで全く把握されていなかった。現況でも堀跡は完全に埋められていたのである。この発掘調査で見つかった1号堀跡の南側からも中世後半の遺構・遺物が見つかることから城域は更に南へと広がっていることが明らかになった。

遺物を見ると大塚期の陶器片や永楽通宝が出土していることから16世紀に機能していたことは明らかになったが、15世紀まで遡る可能性は低い。狭い範囲しか調査を行っていないが調査区周辺は16世紀代に構築され使われていたと考えられる。



第30図 西館跡説明略図

こうした発掘調査の成果を踏まえ、館岡Ⅰ・Ⅱ遺跡の現況を観察すると、嘗ての地形が良好な状態で保たれていることが解った。空堀であった場所が、沢地形になっているところ、または水田となつて残っており比較的容易に縄張を把握することができたのである。こうして現地踏査を行って作成したのが第31図の城域図である。

この図を見れば明らかのように、館岡Ⅰ遺跡と館岡Ⅱ遺跡は別々の城館ではなくて一つの大きな城館であったと考えたほうが理解し易い。東側の大規模な沢と、西側の段丘崖に挟まれた東西約200m、南北最大700mの段丘縁辺部を堀割して大小6曲輪に分けて使っていたといえる。現在の地名で言えば南から要害、館岡、杉地区までは確実に城館内といえる。更に北の境田地区まで含めるかはもう少し慎重に検討しなければならない。境田地区の北側には大きな沢が東西方向に入り、現在はその沢に沿って県道平泉東山線もあるなど、地形的には境田地区までを含めたほうが城館の縄張としては自然なように思える。しかしながら境田地区までを城館として位置付けてしまうと磐井郡の中でも最大規模の城館になってしまうのである。近隣には長部城や猪岡館等複数の城館が分布し、機能していた時期も重なる可能性が高い。そうすると各館主の領地も広範に捉えることは難しくなる。狭い領地の割に城館の規模が大きいという不自然な状態になってしまうのである。こうした現象をどう解釈すればよいのか、これはやはり16世紀代における本地域の政情が極めて不安定であったことに起因していると考えるのが最も素直な見方であろう。鎌倉時代以降この地は葛西領であった。領域は沿岸を含む岩手県南部から宮城県北部までとされ、時代によって少しずつ変わっている。葛西氏は長らく隣接する大崎氏と対立するだけでなく、家臣団にも内乱が度々起きていた。領内外がこうした状況となり、16世紀頃の各地の小領主はかつてないほどに緊張関係が高まっていったと推察される。不安定な姿勢が城館の拡張へとつながっていったと考えられるのではないか。一族や家臣を取り込み、場合によっては自らの領する集落の一部も巻き込んで拡大していったのではないだろうか。本城館も以前(16世紀よりも前段階)には中央付近(古館)のみであった城館が北側と南側へと拡張されていき、今回の調査区付近も最終的には城館に加えられたのだと解釈したい。

遺物の中に近世初頭頃の遺物は見られなかった。よって城館は中世末で廃絶した可能性が高い。恐らくは奥州仕置とその後の葛西大崎一揆を経て廃城となったと考えている。再びこの地(調査区付近)で人々の営みが見られるのは18世紀後半頃からのようだ。

調査区内に屋敷のあった前地権者からの聞き取りによると初代は18世紀頃、この地に移ってきたとことで町医者をやっていたと伝わっているという。遺構・遺物の状況はこうした内容と矛盾するものではない。限られた調査区で建物跡の一部を検出しただけに過ぎないが、個々の柱穴は大きくて深いものが多く、通常の近世民家よりも規模が大きかった可能性がある。





第31図 館岡Ⅱ遺跡（西館）縄張図

# 写真図版



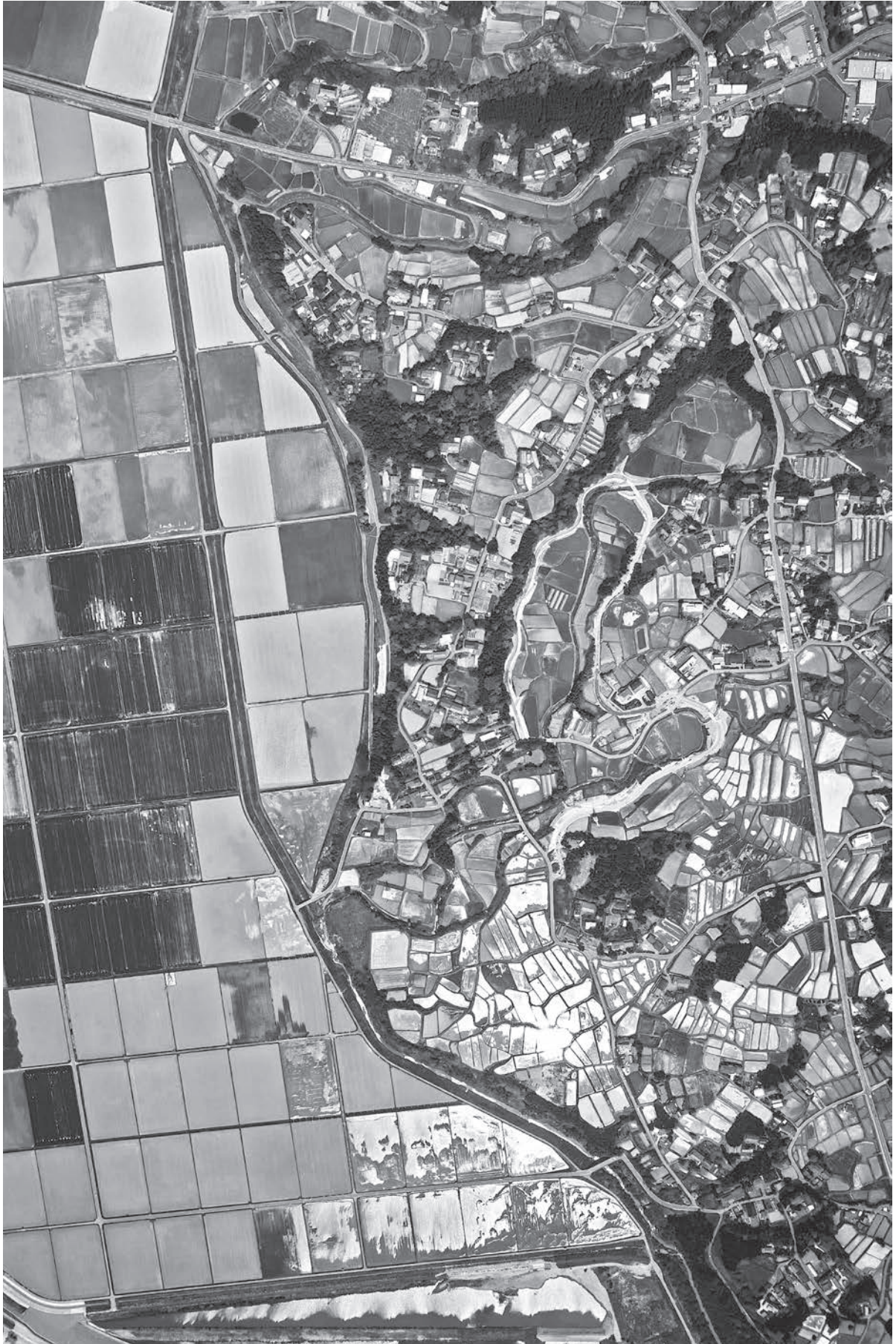
写真図版1 遺跡遠景（南から）



平泉長島地区を北から



北上川の奥は遊水地となる田面 その奥の濃い杉林の広がる段丘縁辺部が館岡 I・II 遺跡



写真図版3 遺跡直上（上が北）



調査区現況（南から） 調査区は写真奥の高い面と手前の低い面からなる



調査区現況（東から） 写真右の高い面と左の低い面の段差部分に堀跡があった



1号堀跡検出（西から）



1号堀跡平面（東から）



1号堀跡平面（北西から）



1号堀跡断面（西から）



1号堀跡断面（西から）



1号竖穴建物跡と20号土坑平面（南から）

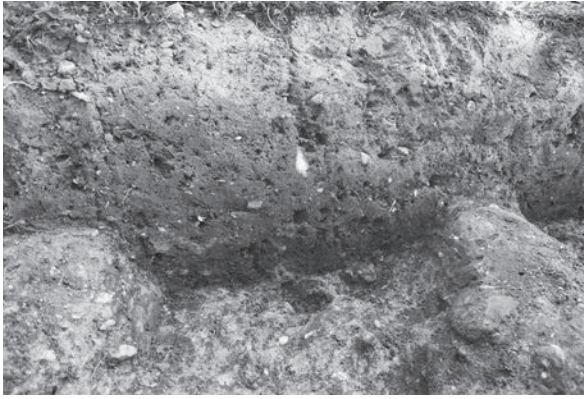


1号竖穴建物跡と20号土坑断面（東から）



1号竖穴建物跡と20号土坑断面（南から）





1号土坑断面（西から）



1号土坑平面（北西から）



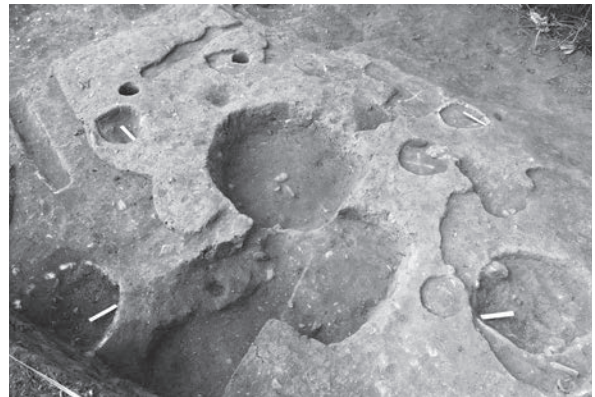
2号土坑平面（北西から）



2号土坑平面（北から）



3号土坑断面（南から）



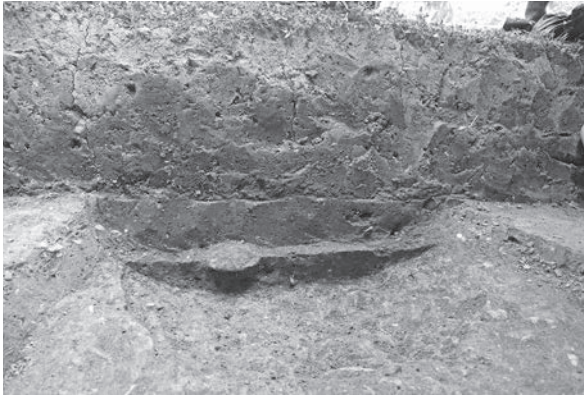
3・4号土坑平面（東から）



4・5号土坑断面（南から）



5号土坑平面（北東から）



6号土坑断面（西から）



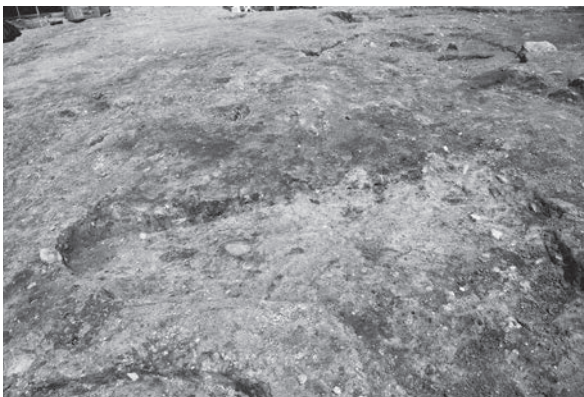
6号土坑平面（北西から）



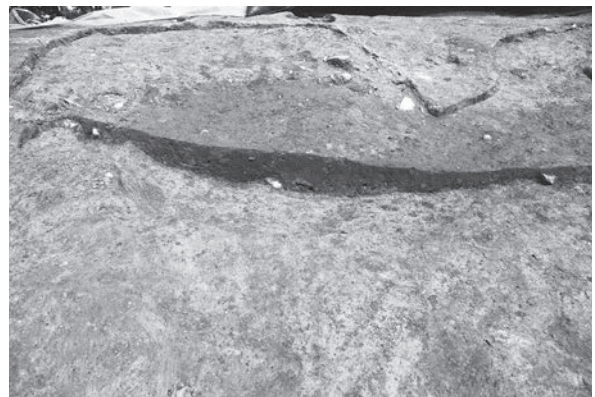
7号土坑断面（西から）



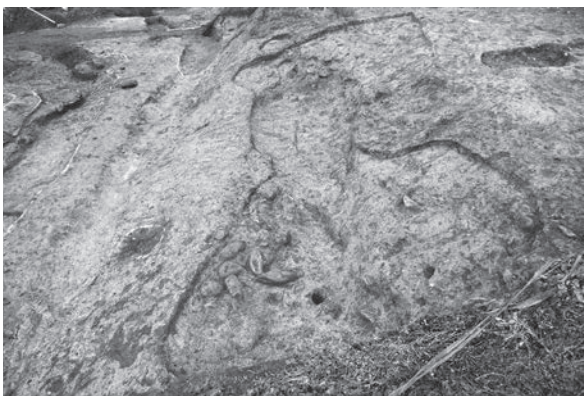
8号土坑断面（南から）



9号土坑断面（南から）



10号土坑断面（南から）



10・11号土坑平面（南から）



11号土坑断面（南から）



12号土坑断面（南から）



12・13・14号土坑平面（南東から）



13・14号土坑断面（南から）



16号土坑断面（東から）



17号土坑断面（西から）



18号土坑断面（東から）



19号土坑断面（東から）



20号土坑断面（東から）



20号土坑断面（南から）



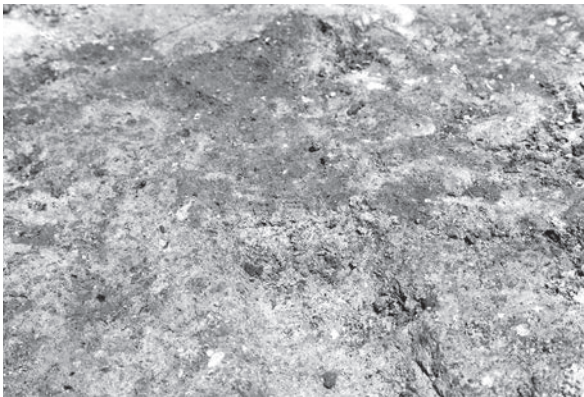
20号土坑平面（南から）



1号井戸跡断面（西から）



1号井戸跡平面（北西から）



1号溝跡断面（南から）



1号溝跡断面（南から）



2号溝跡断面（南から） 1



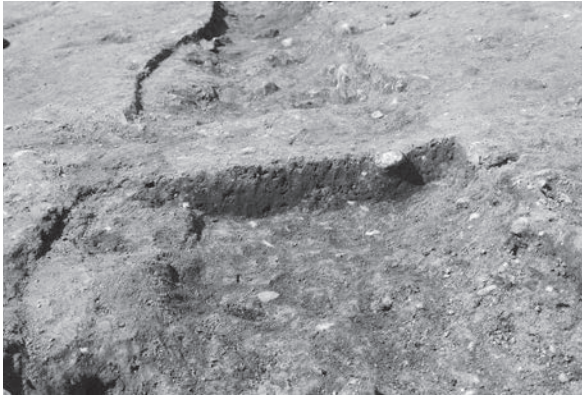
2号溝跡断面（南から） 2



2号溝跡検出（南から）



3号溝跡断面（南から）



3号溝跡断面（南から）



3号溝跡断面（南から）



3号溝跡平面（北から）



4号溝跡断面（南から）



5号溝跡断面（西から）



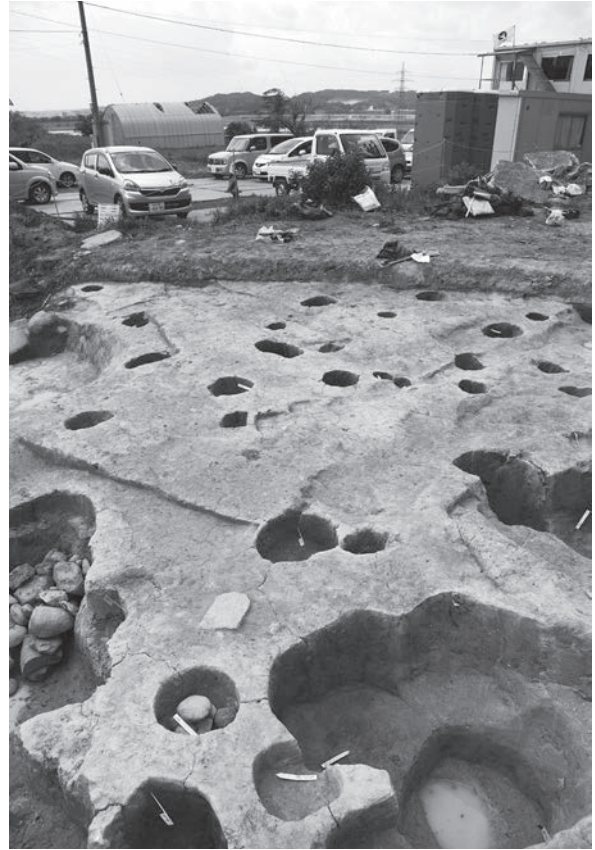
5号溝跡断面（西から）



6号溝跡断面（南から）



6号溝跡断面（南から）



5・6・9号溝平面（南から）



7号溝跡断面（西から）



8号溝跡断面（西から）



8号溝跡断面（東から）



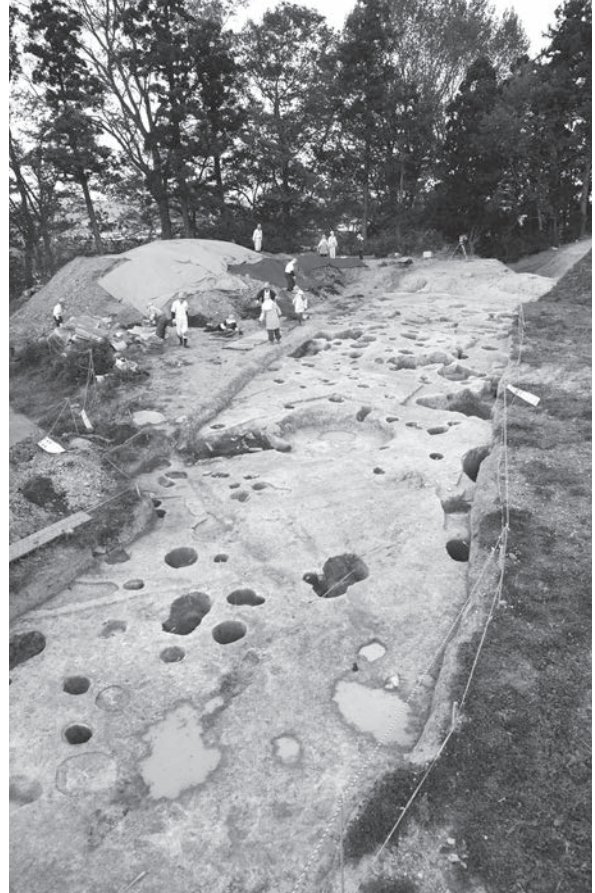
8号溝跡平面（西から）



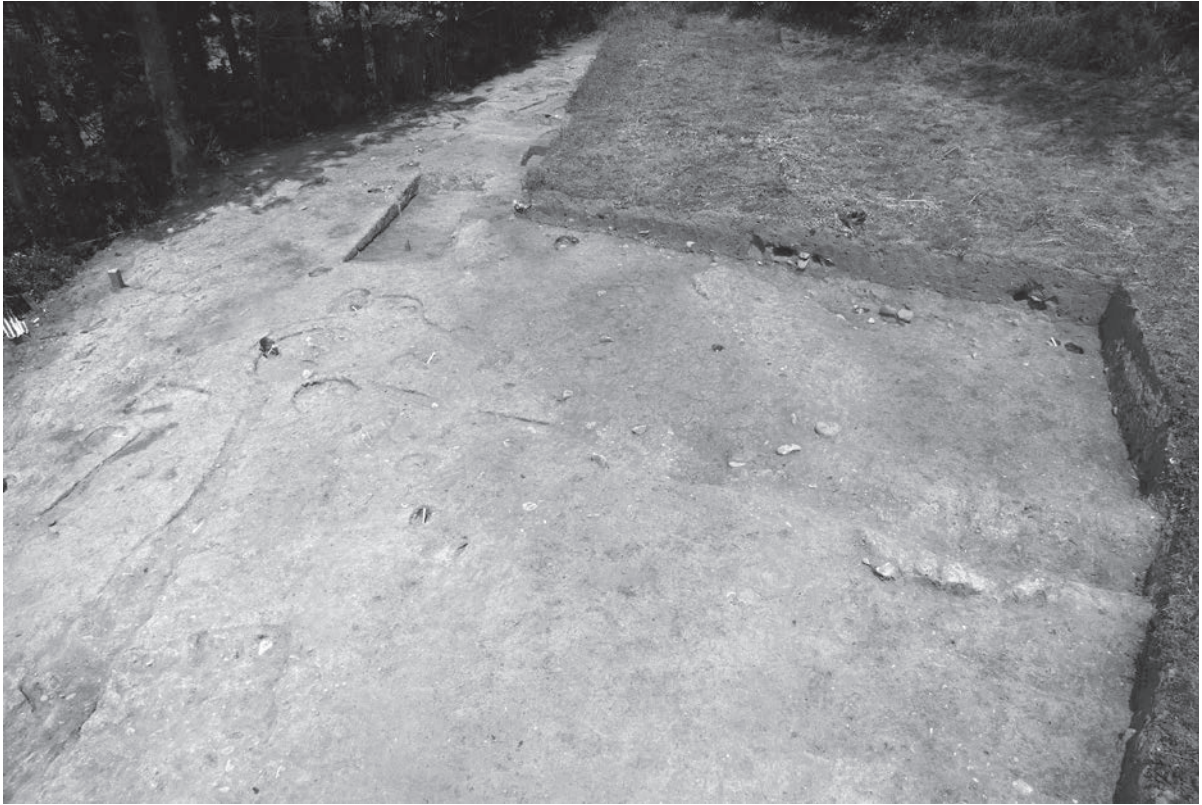
9号溝跡断面（東から）



上：基本層序（西から）  
右：6・7号掘立柱建物跡（南から）



1～5号掘立柱建物跡（北から）



上：調査区北側全景（南から） 下：調査区南側全景（北から）





調査区全景（写真上が南）



現地公開



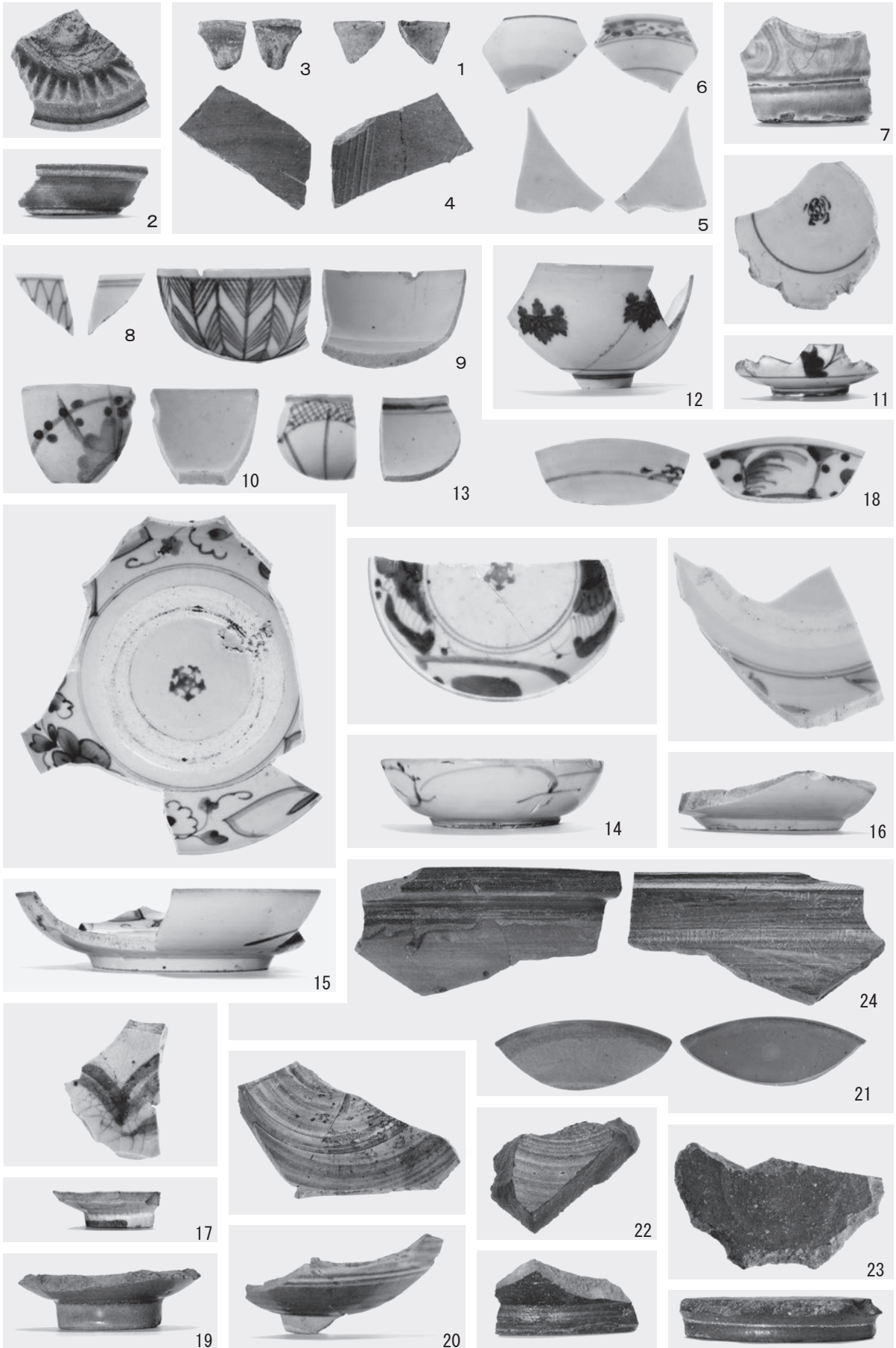
現地公開



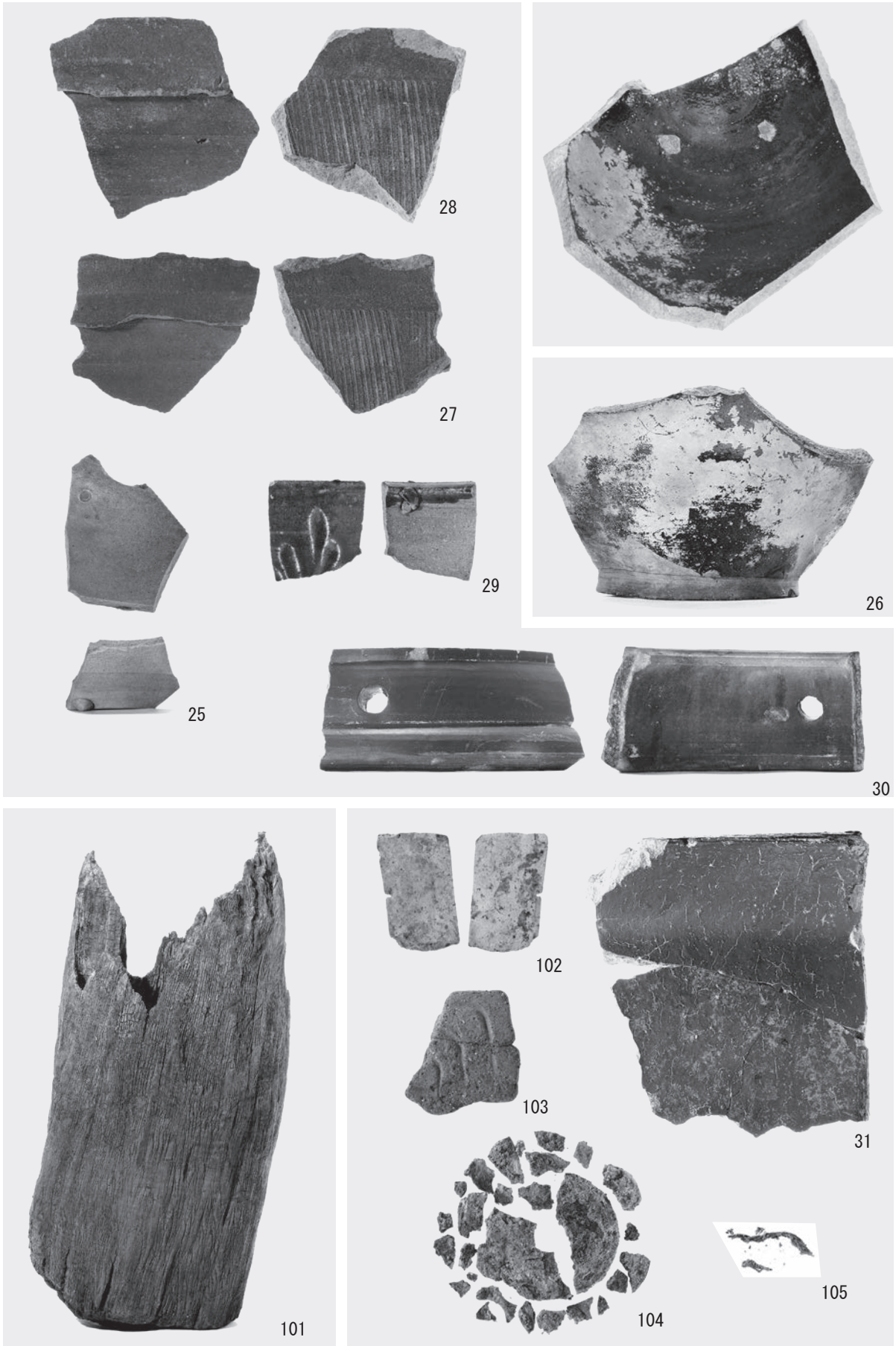
T V取材



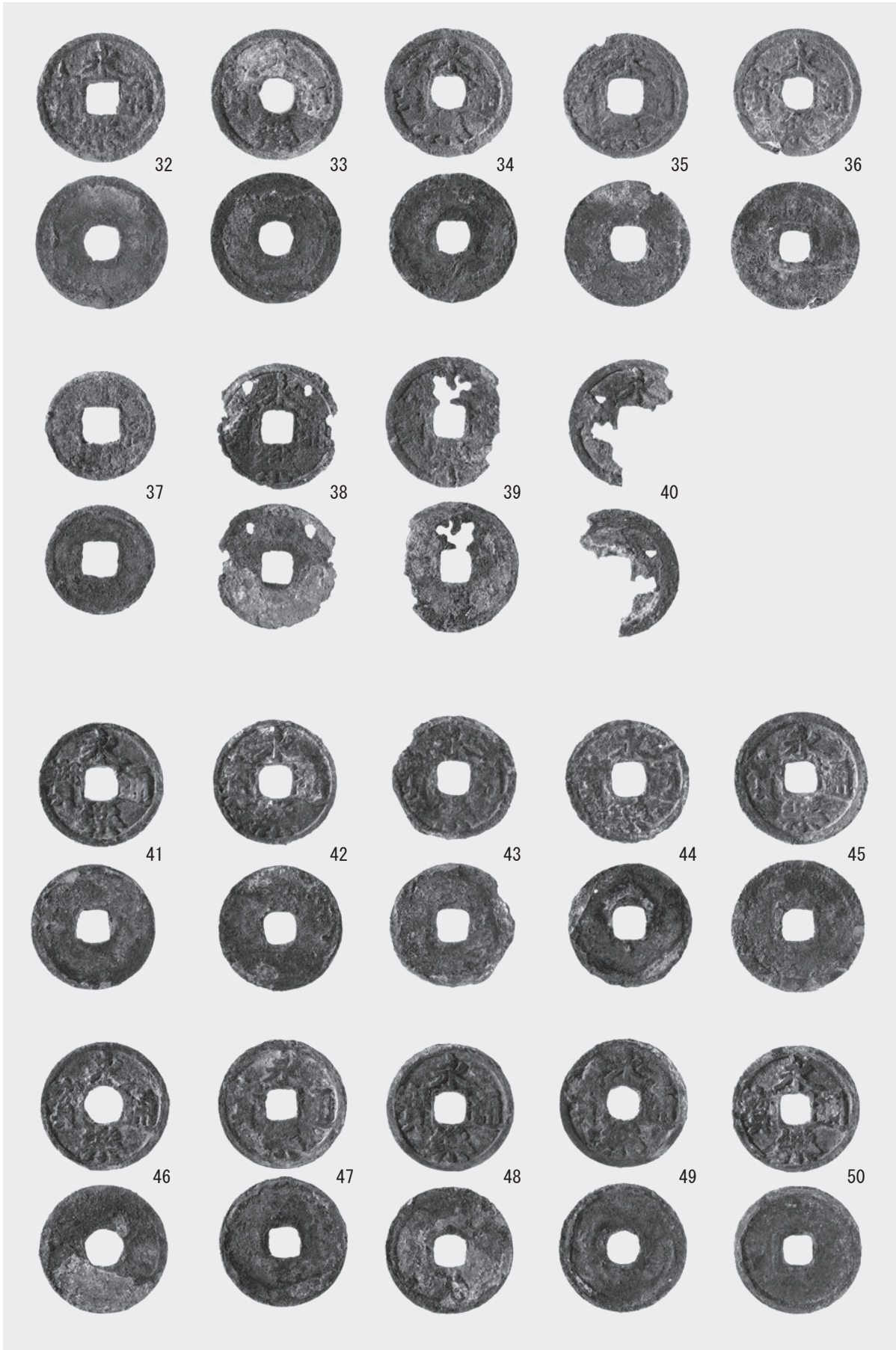
調査風景



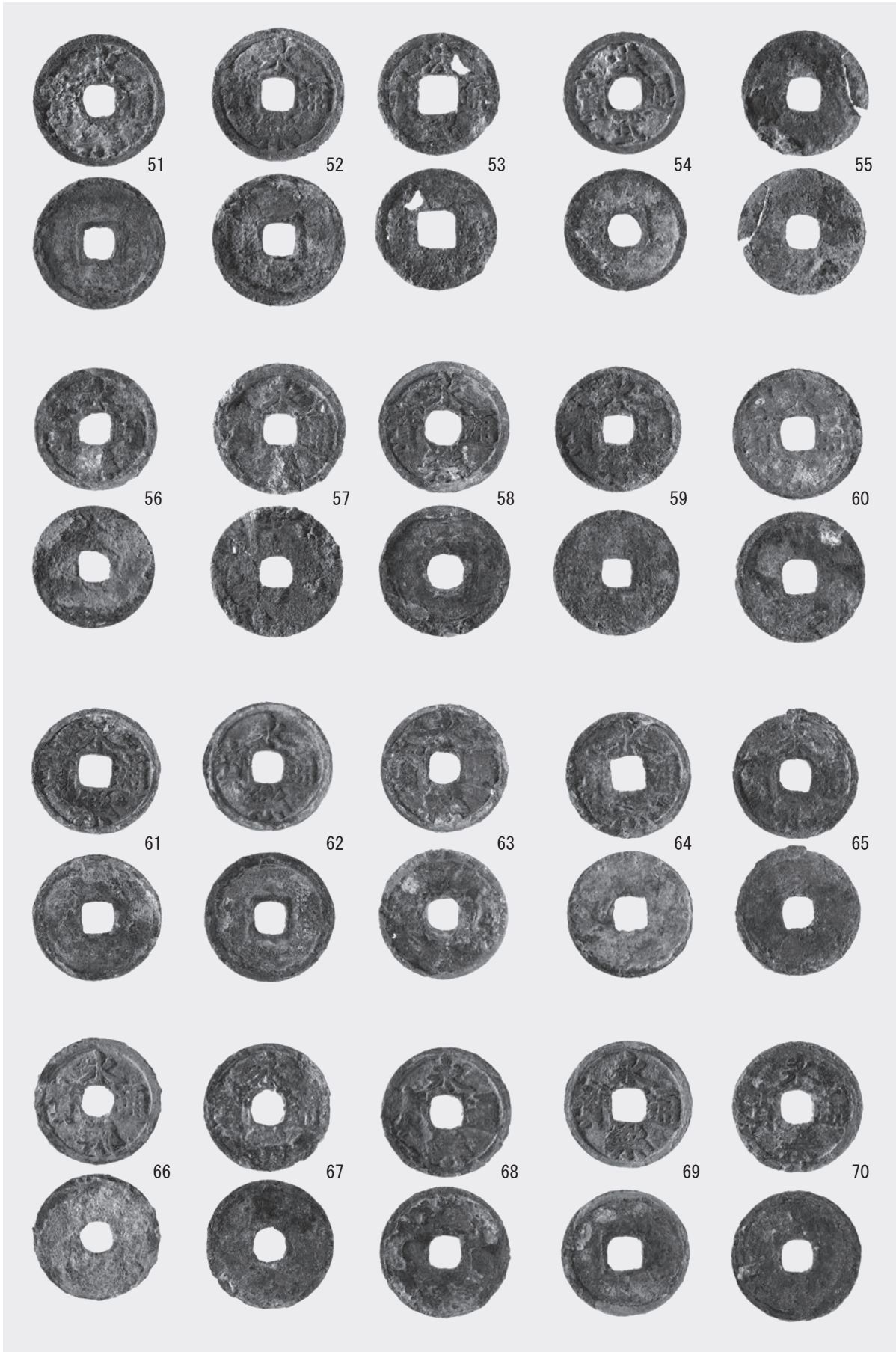
写真図版 17 出土遺物 1



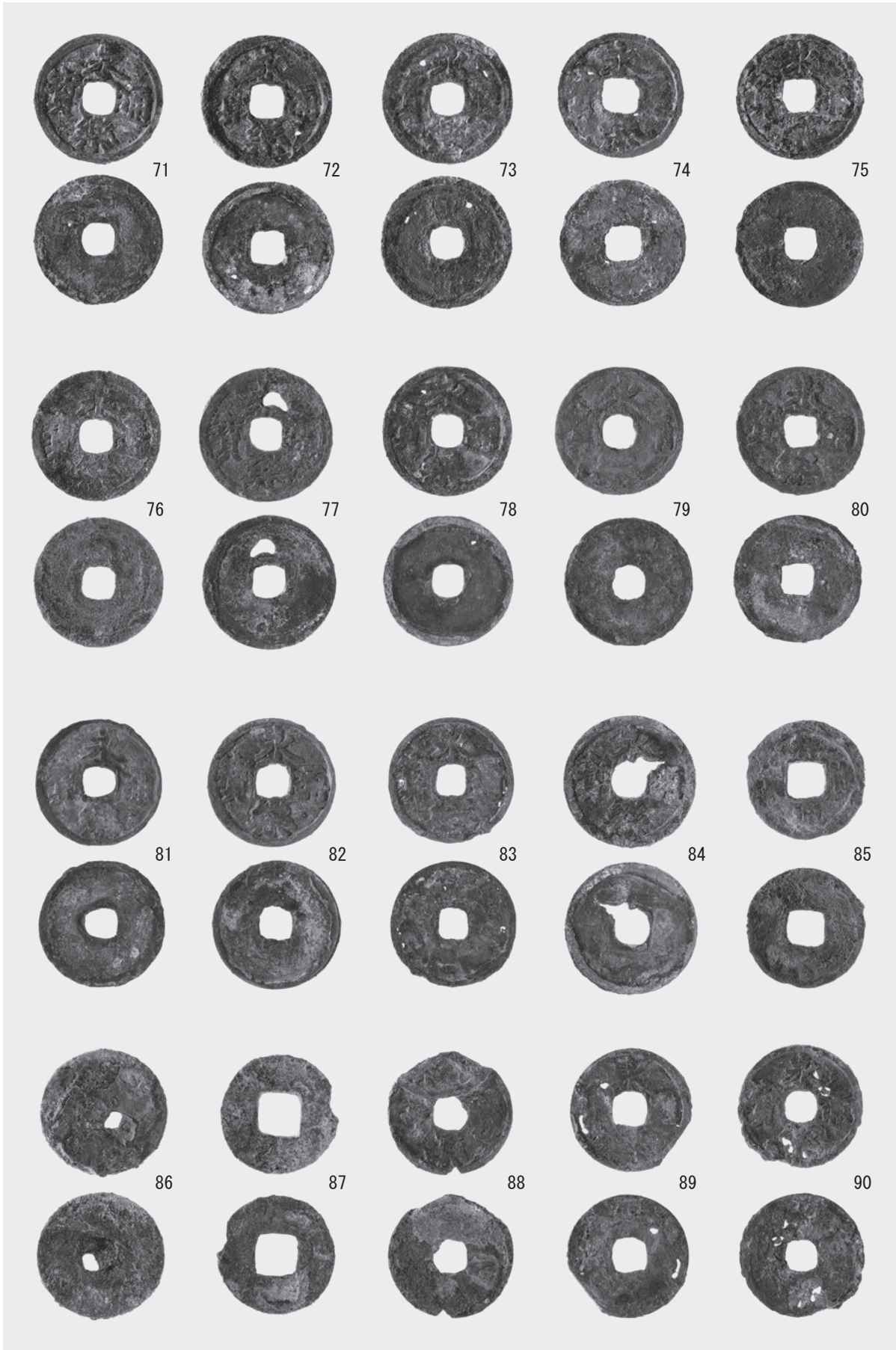
写真図版 18 出土遺物 2



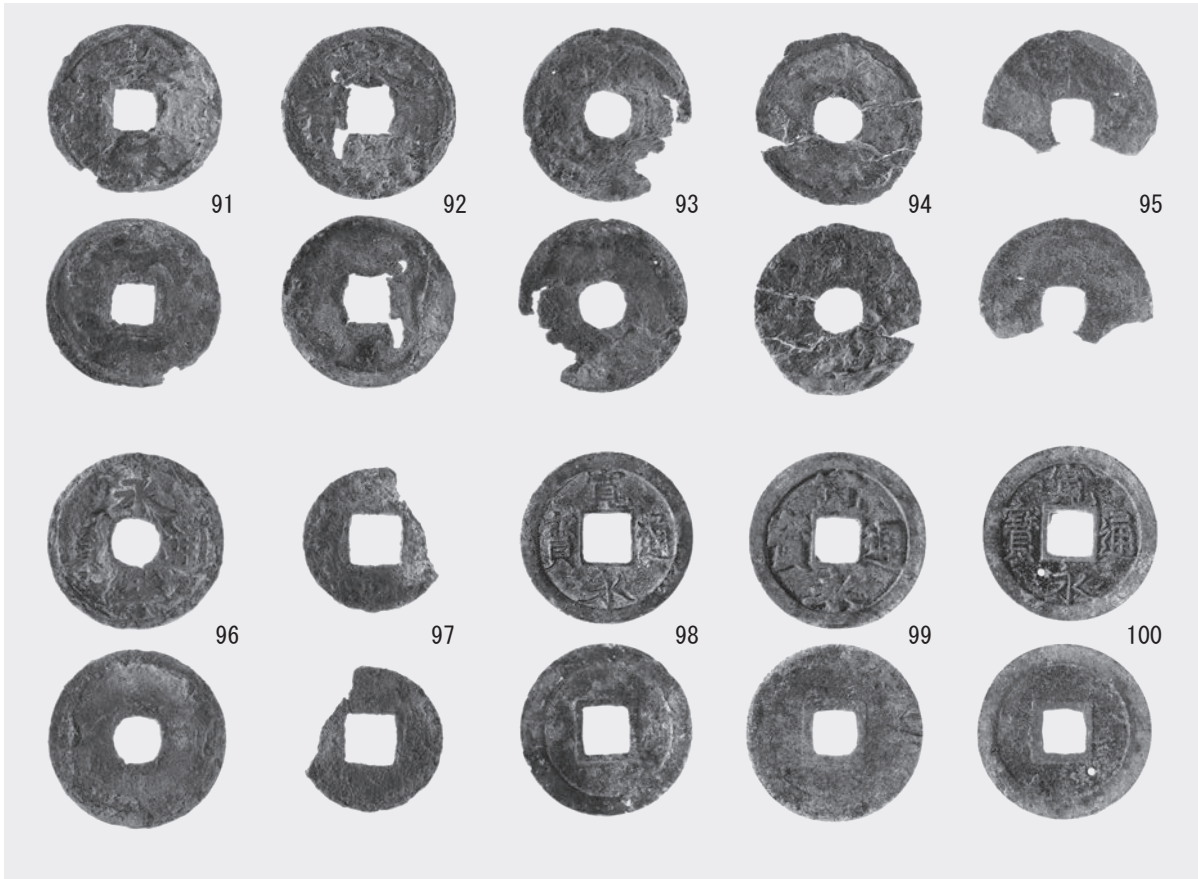
写真図版 19 出土遺物 3



写真図版 20 出土遺物 4



写真図版 21 出土遺物 5



1号竖穴建物跡 遺物出土状況



1号竖穴建物跡 遺物出土状況



1号竖穴建物跡 遺物出土状況



柱穴 84 の柱材

## 報告書抄録

ふりがな	たておか2いせきはつくつちょうさほうこくしょ							
書名	館岡Ⅱ遺跡発掘調査報告書							
副書名	一関遊水地事業関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第653集							
編著者名	杉沢 昭太郎							
編集機関	(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地 TEL(019)638-9001							
発行年月日	2016年1月27日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	° / ' "	° / ' "			
たておか 館岡Ⅱ遺跡	いわて けんにしわい ぐんひら 岩手県西磐井郡平 いづなちょうながしまあざたておか 泉町長島字館岡地 ない 内ほか	03382	NE76-1279	38度 59分 10秒	141度 8分 28秒	2014.04.07～ 2014.05.19	600㎡	一関遊水 地事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
館岡Ⅱ遺跡	中世城館 近世屋敷	中世後半 近世	堀 跡 1 竪穴建物跡 1 掘立柱建物跡 4 土 坑 19 井 戸 跡 1 溝 跡 7	陶磁器 銭貨		調査区内には高い郭とその下に低い郭とがある。その境界部からは堀跡が見つかった。竪穴建物跡からは銭貨がまともって出土している。		
要 約	<p>館岡Ⅱ遺跡と北側に隣接する館岡Ⅰ遺跡とは同じ一つの中世城館としてとらえたほうが良い。調査区はこの城館の南端部にあたる。この地域ではかなり大規模な城館といえる。出土遺物から16世紀後半頃に使われ、中世末には一旦廃絶するようだ(奥州仕置)。館主は不明である。</p> <p>再び調査区付近が利用されるのは18世紀から現代にかけてである。この地に屋敷が出来、規模の大きな民家が建てられた。其々の建物は激しく重複していた。</p>							



---

---

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第653集

## 館岡Ⅱ遺跡発掘調査報告書

— 関遊水地事業関連遺跡発掘調査

印刷 平成 28 年 1 月 20 日

発行 平成 28 年 1 月 27 日

編集 (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地

電話 (019)638-9001

発行 国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

〒020-0066 岩手県盛岡市上田四丁目 2- 2

電話 (019)624-3195

(公財)岩手県文化振興事業団

〒020-0023 岩手県盛岡市内丸13番 1 号

電話 (019)654-2235

印刷 株式会社 光文社

〒020-0106 岩手県盛岡市東松園 3-12- 1

電話 (019)661-3441(代)